

Monthly Report

「平成31年度 第53回体育学部第22回大学院入学式」 を挙行了しました



入学者を代表して宣誓文を読み上げる、石川偉央里さん
(現代武道学科1年-福島・福島東高等学校出身)

4月3日(水)、本学第五体育館で「平成31年度 第53回体育学部第22回大学院入学式」が執り行なわれ、新入生697人(体育学科357人・健康福祉学科105人・運動栄養学科85人・スポーツ情報マスメディア学科42人・現代武道学科50人・子ども運動教育学科41人・編入学生3人・大学院スポーツ科学研究科14人)が、入学を許可されました。

遠藤保雄学長は、新入生に対し、①東京オリンピックへの取り組み、②スポーツを科学的視点での学修への取り組み、③人材の宝庫であり、充実したスポーツ競技施設を有する本学での総合的スポーツ健康科学の学修への取り組み、④本学の教育研究のノウハウを活用してのスポーツビジネスの研究とその成果を活用した地方経済の活性化への取り組みを呼び掛けつつ、「共に学ぼう、語り合おう、そして肩を組もう、苦しい時には顔をゆがめたとしても、つらい時には涙を流したとしても、しかし、最後には、今日、入学した学友と笑顔一杯で手をつなごう。そして、前に、前に、仮に「一步前進二歩後退」であっても、前に進もう、我々教職員とも一体となって！」と激励。

続いて、朴澤泰治理事長・学事顧問が「みなさんには、仙台大学に在学する間に、是非、この「実学と創意工夫」という「建学の精神」を駆使して、身の廻りにある刺激を、大学生活の目標を創るきっかけとし、「教育の質」の向上という大学の取組みを上手に活用して、様々な「学び」にチャレンジして頂きたいと思います。」と挨拶しました。

また入学者を代表して石川偉央里さん(現代武道学科1年-福島・福島東高等学校出身)が「私たちは、体育・スポーツに関わる諸科学を探索し、これからの時代の担い手となるよう、身体を鍛え、教養を深め、心を磨き、豊かな学生生活を送るよう、努力して参ります」と力強く宣誓文を読み上げた後、ご来賓の山田裕一白石市長から「県南地域の人々の健康な生活の維持展開のための仙台大学のスポーツ分野や健康運動分野の知見の活用は極めて重要でその役割に期待したい」とのご祝辞を頂きました。

式終了後の学科別懇親会では担当教員の挨拶や学科の取り組みが紹介され、帰り際には先輩たちがサークルや研究会など勧誘を行っており、新入生は大学生活の第一歩を踏み出しました。

＜ 目 次 ＞

・「平成31年度 第53回体育学部第22回大学院入学式」を挙行了しました	1
・大学院新入生歓迎会を開催しました ・学内合同企業等説明会を開催！	2
・春のオープンキャンパス2019を開催 ・「第11回元気！健康！フェアinとうほく」で健康運動指導	3
・スポーツ情報サポート研究会が「優良賞」を受賞 ・平成30年度コーチング学会奨励賞を受賞しました ・ラグビー部主催 スプリングキャンプを行いました	4
・警察官採用試験に強い『仙台大学』～「警察官になりたいっ」から「絶対警察官になります！！」へ～ ・2018年度第13回『仙台大学体育施設管理士』認定証授与式を開催	5
・韓国国立体育大学校の新総長就任式、遠藤学長が出席 ・春季海外留学・研修報告	6
・「東京オリ・パラ事前合宿招致推進協議会」と立川市(東京都)が協力協定を締結しました ・英国陸軍女子クリケットチームが本学に來訪 クリケットの魅力を紹介しました	7
・芝草通信 NO. 1 ・明成高校・新入生研修合宿でレクリエーションを本学学生が開催しました	8
・「高校スポーツの安全を守る」Vol.13 ・「新留学生歓迎お花見会」を開催しました	9

学生の活躍や、取り組みなどをご存知でしたら広報室までお寄せください。

Monthly Reportで紹介する他、報道機関にも旬な話題を提供して参ります。

本誌へのご意見・ご質問等がありましたら広報室までご一報ください。

仙台大学 広報室

直通 0224 - 55 - 1802

Email kouhou@sendai-u.ac.jp

大学院新入生歓迎会を開催しました



記念写真



新入生自己紹介の様子



歓談中の様子

4月3日（水）学生食堂なちゅらを会場に「平成31年度仙台大学大学院新入生歓迎会」が開催され、新入生14名、教職員と大学院生含め約50名が参加しました。

遠藤保雄学長の挨拶では小さな大投手と言われた山中正竹 氏の「知・学・慣・等・越」に触れつつ「これから研究者になるというときに彼の生き方である、研究から学ぶ、更にはその研究を見つめている方から学ぶという姿勢が大切かと思います」と歓迎され、朴澤理事長・学事顧問からは「2040グランドデザイン答申などにも眼を配り、グローバルに大学院の在り方を考えていき、自分のテーマを考えていただきたい」と挨拶されました。

また乾杯では藤井久雄大学院研究科長が「大学院20周年を迎えました。皆さんが修了してからどんなことで活躍したいか大きな目標をもって頑張ってください」と新入生にエールを送りました。

今年も新入生の挨拶では自己紹介やそれぞれが研究したいテーマなどを発表し、これから始まる大学院生活に期待を寄せていました。

また歓談中は新入生が大学院生の先輩や教職員の方々に研究テーマや大学について会話をしている様子が見られるなど、楽しいひとときとなりました。

学内合同企業等説明会を開催！



合同企業等説明会の様子

3月22日（金）に本学3年生と大学院生を対象とした合同企業等説明会を開催しました。今年は44の事業所にご参加頂き、入場者は昨年約2倍にあたる200名（学部199名、大学院生1名）の学生が来場し、盛会のうちに終了することができました。

参加した事業所は、民間企業のみならず、公務員の採用窓口の方（警察官・消防官・自衛官）にもご参加頂き、各ブースでは、熱心にメモを取る学生の姿が見られるなど、説明会に対する関心の高さが伺えました。特に本学学生の希望が多いスポーツ関連企業や警察、消防、警備会社などには多くの学生が集まり熱心に説明を聞いていました。参加学生からは、「他の説明会でなかなか聞けない本学ならではの企業説明会だった」「ホームページだけでは分からない情報が聞けて良かった」や「様々な企業の説明が聞け、視野が広がった」などの感想が寄せられました。入試創職室では、引き続き、学生の就職活動を支援する企画を実施していきます。

〈報告：入試創職室〉

春のオープンキャンパス2019を開催

3月25日（月）春のオープンキャンパス2019では、大学概要説明会、学科別ミニ講義、入試個別相談会、キャンパスツアーなど、多彩なイベントを開催し、高校生や保護者の方々に多数ご来場いただきました。



保育室見学コーナー
（子ども運動教育学科）



元警察官が教える！逮捕術・護身術を学ぼう（現代武道学科）



「ライフステージにおけるスポーツトレーナーの役割と魔法の改善法」（体育学科）



映像作品を作る（スポーツ情報マスメディア学科）



心肺蘇生コーナー
（健康福祉学科）



スポーツサプリメントを正しく理解しよう（運動栄養学科）

「第11回元気！健康！フェアinとうほく」で健康運動指導

4月6日（土）、7日（日）の2日間、仙台国際センター（仙台市青葉区）で「第11回元気！健康！フェアinとうほく」（主催：東北大学、河北新報社、東北放送/共催：仙台大学他）が開催されました。

同フェアは、東北大学を中心とした多くの企業や団体が参加し、最新・最先端の健康情報について、講師陣が幅広い視点で分かりやすく紹介する講演やセミナーなど、健康イベントが数多く出展されるイベントです。11回目の開催となる今年の来場者数は延べ9,200名と多くの方が来場されました。

本学は「元気体操の楽しみ方」と題した実演指導を行い、カラダを使った頭の体操や、家庭で気軽にできるストレッチ、いつまでも自立して歩くことができるための下肢の筋力トレーニングを行いました。

講演終了後に参加された方とお話をする中で、同フェアのような有識者が一堂に会するイベントを地域の方々は楽しみにしているのだと感じました。

今後も、多くの地域住民が積極的に健康づくりに取り組んでいただけるよう、尽力していく考えです。

<報告：田中 亨 新助手・後藤 佳恩 新助手>



元気体操を行う、田中亨新助手

スポーツ情報サポート研究会が「優良賞」を受賞

スポーツ情報サポート研究会メディア班が、昨年の夏から仙台市教育委員会生涯学習課からの委託事業として、社会教育を目的に「スポーツの場で活躍するボランティア」と題し、スポーツボランティアを紹介すると共に、その意義や楽しさ、やりがいをインタビューを交え映像教材として制作しました。

この作品は仙台市自作視聴覚教材審査会において、社会教育部門で「優良賞」を受賞しました。

この作品に関わった学生は、外部の方と連絡を取り行動をとる難しさなど、社会とのつながり方を学ぶことができました。

※スポーツ情報サポート研究会は、学科を問わず分析や映像に興味のある学生を募集しています。

<報告：スポーツ情報マスメディア学科>



スポーツ情報サポート研究会メディア班

平成30年度コーチング学会奨励賞を受賞しました

この度、下記の論文が、平成30年度コーチング学会奨励賞を受賞しました。

(岡田成弘・坂本昭裕・川田泰紀・堀松雅博 (2018))

「遠征型キャンプが小中学生の自然に対する態度に及ぼす効果：滞在型キャンプ及びキャンプ不参加者との比較」

コーチング学研究第31巻第2号



先月開催された日本コーチング学会第30回大会で、賞状を受け取ってきました。

この研究は、私の博士論文の中心的な課題の一つで、学生時代のキャンプ指導実践を通して、ぼんやりとしていた「何か」を、ようやく具現化できた研究でした。

分析したデータは2015・2016年のものですが、そこに至るまでには何年もの試行錯誤があり、多くの方の協力があつて形になったもので、このような形で評価され、非常に嬉しく思います。

また、他の専門領域（野外以外の学会）で評価されたことも、とても嬉しいことで、更には、仙台大学で実践・研究を共にした修了生の川田と堀松の名前が入った論文が受賞されたことも、指導教員としては嬉しいことです。

学会奨励賞の名に恥じぬよう、よりよいキャンプ指導の実践のための研究を進めていきたいと思います。

また、キャンプ現場だけでなく、スポーツや社会とキャンプ（野外）のつながりについても深めていきたいと思いますので、興味のある方は是非お声がけください（共同研究しましょう）。

<報告：岡田成弘准教授>



ラグビー部主催 スプリングキャンプを行いました

4月6日（土）第2グラウンドラグビー場に、山形・宮城・福島各県から計6高校が集まり、各校ラグビー部部員約100名がラグビーを通して交流を深めました。この企画は本学ラグビー部OBから発案され、船岡自衛隊ラグビー部、本学AT部といった様々な方にお力添え、ご協力いただき、本学ラグビー部主催で実施の運びとなりました。

午前中は、船岡自衛隊ラグビー部桜庭ヘッドコーチとラグビー部部員による、ブレイクダウンを中心としたセッションを行い、午後は、6校総当たりのトレーニングマッチを行い、大きな怪我人もなく無事に終了しました。

<報告：ラグビー部監督：武石健哉准教授>



スプリングキャンプ中の様子

警察官採用試験に強い『仙台大学』

～「警察官になりたいっ」から「絶対警察官になります!!」へ～



パトカー乗車体験コーナー



説明会



イベントの様子

4月12日（金）仙台大学学生食堂前にて宮城県大河原警察署広報ユニット「SAKURA」による警察官業務紹介イベントが行われました。

宮城県警では、今年度から採用試験の回数を年1回から年2回に増やし、警察官志望の学生にとってはチャンスが広がりました。学生食堂に行き交う学生達の中でも将来警察官を目指している学生は、自ら特設スペースの説明会ブースへと足を進め、真剣な表情で説明に聞き入っていました。現代武道学科3年生の学生は、「採用試験まで後1年あると漠然と考えていましたが、直接説明を聞いたことで改めて夢への実現に向けて頑張らなければいけない。」と気を引き締めていました。また、パトカー乗車体験コーナーでは次々と学生達が興味深そうに乗車を体験していました。その中にはフィンランドから短期留学で訪れている学生もあり、笑顔で乗車していました。

※H31年3月卒業生：32名が警察官採用試験に合格。（延べ人数）

<報告：入試創職室>

2018年度第13回『仙台大学体育施設管理士』認定証授与式を開催

*20名が資格取得

2019年4月9日（火）管理研究棟2階 大会議室において、2018年度第13回『仙台大学体育施設管理士』認定証授与式が行なわれました。今回は21名受験して20名が合格し、最高得点の黒沼武尊さんを先頭に合格者に対して遠藤保雄学長から認定証が授与されました。

*本学の授業で修得できる資格

体育施設管理士は体育施設の維持管理・運営に必要な知識・技能を認定する資格で、この資格に必要な「スポーツ施設管理概論Ⅰ、Ⅱ」、「スポーツ施設の経営・管理」や「運動障害救急法」等の科目は本学において習得することができ、科目修得後、公益財団法人 日本体育施設協会が学内で実施する資格認定試験に合格した者に『公認体育施設管理士』の資格が付与されています。日本体育施設協会は今まで64回の養成講習会（50余年間）を通してこの資格者を約11,000名認定してきましたが、本学は同協会の体育施設管理士認定校になって今年度で14年目となり、累計551名の有資格者を養成してきました。

*資格修得後の心構え

授与式の後、遠藤保雄学長は講評で、「今回、取得したこの資格をベースに如何に職域を、分野を限定される事なく広げていくかを考えてほしい。資格が有るが故にその資格が一つの付加価値と考え、あるいは特技だと考え、価値や存在を示して欲しい」と述べつつ、「2020年のオリンピック開催で国民の関心もスポーツに対して高まっていくと共に、施設の利用も広がっていく。施設の管理の在り方が大切になってくるであろう。具体的には、夏場の施設で熱中症に掛かり易い時に施設の管理に知見を持つ皆さんの注意喚起が大切になってくる。冬場においては熱効率を考慮した施設利用が重要である。その様なことを考慮に入れながらどの様な施設をどの様に管理をしたほうが良いかを考えてほしい」と附言しました。

<就職試験等への活用を>

資格を取得した皆さんには、これから就職活動が待ち構えています。その際、この資格取得により得られた①施設の安全管理 ②顧客満足度を高める維持管理方法に関する知見に加え、③施設を经营管理していく判断力をも学んでいる点も、会社訪問の際や就職試験の際に説明できるよう準備して、就職活動のツールの一つとして活用していく事が期待されます。

<報告：小島文雄体育施設管理コンサルタント>



記念写真

韓国国立体育大学校の新総長就任式、遠藤学長が出席



左から金賢植准教授、遠藤保雄学長、
Park Hokoen国際センター長



植樹式典後に記念写真



左から安容奎（AHN, YONG-KYU）
第7代総長と遠藤保雄学長

4月5日（金）に行われた韓国国立体育大学の第7代総長の就任式に、本学からは遠藤保雄学長と金賢植准教授が出席しました。

韓国体育大学校は、「国立学校設置令」により、1977年（昭和52）設立の韓国唯一の体育大学で、多くのオリンピックメダルリストだけではなく、優秀なスポーツ指導者を輩出しています。2017年設立以降40年間、オリンピックで韓国国立体育大学の出身者が取った全体メダルの数は、100個に上ります。これは、これまで韓国が獲得したオリンピックメダルの30%以上を占めるものであり、韓国国立体育大学が強力な競技力を持った選手を育成してきたことを示しています。

本学とは、国際交流協定を平成20年3月18日に締結し、平成21年2月には本学の女子柔道部が韓国国立体育大学で、同年12月には本学で合同強化合宿を行い、競技力の向上を図っています。

今回の就任式には、国内外の大学、教育機関、政府、企業など多くの来賓が来ました。とくに、来賓を代表し、遠藤学長が宮城県ゆかりの記念品を贈呈しました。就任式後は、植樹式典に参加し、国際センター長（Park Hokoen）の案内でキャンパスツアーを行いました。

韓国国立体育大学と本学とは、これまで柔道部が交流を行って来ましたが、安総長からは、これからテコンドー関係の講義へ教員の派遣やウエイトリフティング部など様々な運動部の練習および教員間の研究の交流を通じて、両大学の交流がより一層発展することへの期待感が表明され、実りのある意見交換も行われました。

<報告：金賢植准教授>

春季海外留学・研修報告



記念写真

4月16日（火）学長室において、平成30年度春季海外留学・研修の中、カリフォルニア州立大学ロングビーチ校（アメリカ）、カンタベリー大学・CCEL（ニュージーランド）、カヤニ応用科学大学（フィンランド）、南デンマーク大学・ノアフュンス国民大学（デンマーク）のプログラムに派遣された学生から遠藤保雄学長へ研修の成果等について報告を行いました。

参加した学生からは、「英語を学ぶ重要性を再認識できました。」「ホームステイを通していろいろ貴重な経験をすることができました。」「次回は違うプログラムに参加したいと思いました。」などの報告がされました。

<報告：国際交流センター>

「東京オリ・パラ事前合宿招致推進協議会」と立川市（東京都）が協力協定を締結しました

4月22日（月）LC棟1階で、ベラルーシ女子新体操ナショナルチームの事前合宿に関わる協力協定式を開催し、朴澤理事長・学事顧問が会長を務める東京オリ・パラ事前合宿招致推進協議会と立川市（東京都）との間で協力協定を締結しました。

東京オリ・パラ事前合宿招致推進協議会は2017年6月に協定を締結し、これまでに2度の事前合宿を白石市のホワイトキューブと本学で実施してきました。

今年も7月24日から8月1日に事前合宿を行う予定としており、今回の連携協定の締結で、後半の二日間は東京の暑さや環境に慣れるために開催地である立川市（東京都）で事前合宿を行う予定です。また立川市では、東京での競技開催時、白石市、柴田町からの応援団の宿舎確保に協力頂くことになっております。



写真左から山田裕一白石市長、朴澤泰治理事長・学事顧問、清水庄平立川市長、滝口茂柴田町長

東京オリ・パラ事前合宿招致推進協議会長
朴澤泰治理事長・学事顧問のコメント

「メダル獲得という大きな目標を是非、実現して頂きたい。今後も様々な形でベラルーシ新体操ナショナルチームの応援をしていきたい」

英国陸軍女子クリケットチームが本学に来訪 クリケットの魅力を紹介しました

4月24日（水）本学に英国陸軍女子クリケットチームが来訪し、体験会や本学で昨年5月に発足した東北唯一の女子クリケット部と混合のチームで交流戦を行うなどクリケットの魅力を紹介して頂きました。

午前中は体験会を行い、約50名が参加。ボールの投げ方や打ち方、ミニゲームなどを実施し、普段は他の競技で活躍している学生達も初めてのクリケットに競技の難しさや楽しさを感じながら大いに盛り上がりました。

次に、昼食を兼ねて船岡城址公園にピクニックに行きました。その際、本学の国際交流サークルの学生男女各2名、レクリエーション部からも女子2名がジョイントし英語でのコミュニケーションを楽しんでくれました。

また午後からは英国陸軍女子クリケットチームと本学女子クリケット部の混合のチームによる交流戦を開催し、会場に訪れた本学学生と教職員 約200名が試合の様子やルールを日本クリケット協会の宮地直実さんに解説をしていただきながら、白熱した試合に魅せられていました。



交流試合の様子



ボールの投げ方を体験する様子



観戦する多くの学生達



記念写真

芝草通信 NO. 1

担当：小島文雄体育施設管理コンサルタント

仙台大学にはキャンパスの憩いや美観など天然芝生の施設が充実しております。この施設の維持管理に携わるチームとして、第二グラウンド、ラグビー・アメリカンフットボール場を(仮称)スポーツターフスタッフ(小島・野口・八巻)が維持管理をしており、学内の噴水廻り天然芝生や陸上競技場の芝生の維持管理を労務職(佐藤・池田・紺野)の皆さんと一緒に維持管理しております。美しく利用しやすい芝生の維持管理の為に、あらゆる自然環境に適応しております。その知識を皆様にお伝えしていきたいと考えて今後定期的に発信していきます。

今回は初めてですので、噴水廻り芝生の4月状況を説明いたします。

芝生には暖地型と寒地型があります。又日本芝と洋芝の区分があります。本学の噴水廻りの芝生は暖地型日本芝で、種類は高麗芝と呼ばれております。俗に日本全国の公園の景観用芝生は殆んどこの種類の芝生を利用しています。

冬季は冬眠中で芝生の色は黄変していますが、季節の移り変わりと共に元気に成長して緑色に変化してきています。寒冷期の芝生は踏圧に弱いので、ロープで囲って、進入禁止を皆様をお願いしてきました。連休明けにはそれも解除していきますので全面が緑色になり整備されてきたらどうぞ緑と共にリフレッシュを感じて、休憩などに利用してください。

- <4月に行なった管理>
1. 茎葉処理の除草剤を散布(広葉雑草駆除)
 2. 土壌処理の発芽防止剤散布(雑草の種を抑制する)



噴水廻り暖地型日本芝・高麗芝
<Cブロック>



噴水廻り暖地型日本芝・高麗芝
<Aブロック>

明成高校・新入生研修合宿でレクリエーションを本学学生が開催しました



活動の様子

4月14日(日)アクティブリゾーツ宮城蔵王にて明成高校・新入生研修合宿が行われ、新入生同士が交流を深めるためのレクリエーションを本学学生が主導の下で開催しました。姉妹校である明成高校の研修合宿ということで、明成高校卒業生7名を含む、在学生13名がビンゴゲーム等の企画発案と実践に取り組みました。

仙台大学にて専門領域の勉学に励む明成高校卒業生の姿は、新入生にとって良い刺激となっただけでなく、在学生にとっても学びの多い一日となりました。

今後も姉妹校という強みを活かし、大学生と高校生の交流する機会が増えていければと思います。

<報告：浅野勝成助手>

川平キャンパスAT・S&Cレポート

「高校スポーツの安全を守る」Vol.13

FESリハーサルと本番1回目！

担当：白坂 広子助手

FES (Freshman Entrance Screening) とは、4月に新入生対象で行うフィジカルチェックのことです。これは川平ATRが活動の主軸とするもので、FESから各チームや生徒個人の身体的傾向をつかみ、弱点になる部分や怪我のリスクがある状態を3年間継続して改善と向上をしていくというスポーツ傷害予防への試みです。去る3月21日、仙台大学AT部の学生14名、S&Cインターンの学生3名と4月本番に向けたリハーサルを行いました。FESの測定項目は①下肢アライメントチェック、②片足立ち上がり、③しゃがみこみ、④踵臀間距離、⑤長座体前屈、⑥足趾筋力、⑦全身動的可動性、⑧回旋軸安定性、⑨体組成、という9項目です。この9項目は川平ATとS&Cで厳選したものです。体力測定やフィジカルチェックというものには様々な測定・検査項目がありますが、私達はどの測定項目を実施するべきか協議を重ねてきました。そしてこれらの項目は現在の身体状態の把握、将来的な怪我のリスクを把握するため、そして時間・場所制限、経済面なども考慮した上で、最適な項目だと考え決めました。リハーサル当日は大学生と項目の測定の意味、測定の仕方、測定結果の見方などを確認、勉強しました。大学生は1日がかりの作業となりましたが、本番に向けて頑張って練習していました。本番は4月27日（土）です。学生みなさん、引き続き一緒に頑張りましょう！！



「新留学生歓迎お花見会」を開催しました



記念写真

4月23日（火）に毎年恒例の新留学生歓迎お花見会を学生食堂なちゅらで開催しました。

お花見会は、本学の学生と国際交流締結校の中国、台湾、韓国からの留学生の交流を主な目的としています。今回は留学生18名、教職員23名、仙台大学の学生4名の総勢45名が参加しました。今年度は、中国の瀋陽師範大学から2名、フィンランドのカヤニ応用科学大学から短期留学で4名が、4月から日本の文化や言葉、自分の専門分野を学ぶために本学へ参りました。4月24日（水）に帰国するフィンランドの学生は自己紹介のときに日本での思い出を動画にて作成し披露していました。また、学生支援センター主催で留学生対象のビンゴ大会を実施し、留学生と本学学生が非常に楽しく笑顔で交流するなど、終始和やかな雰囲気で行われました。本来の目的である留学生と本学の学生との交流がしっかりと出来ており、国籍関係なく学生間の仲がより深められて非常に意義のあるお花見会となりました。

今後も留学生が日本の生活に慣れ親しみ、勉学に集中できる環境を整えられるようにサポートをしていきたいと考えております。また、留学生がより多くの本学学生と仲が深まっていけるような取り組みをしていき、学生が充実した大学生活を送っていけるように努力して参ります。

< 報告：学生支援室 櫻井一樹 >

Monthly Report

Vol.157 / 2019 .MAY

学校法人朴沢学園創立140周年記念式典挙行

～ 裁縫教育を通し近代日本女性の地位向上に大きな役割を果たした松操私塾創立から140年の歩み・さらなる発展・飛躍へ ～



朴澤泰治理事長・学事顧問が挨拶を述べる様子

令和元年を迎えた五月晴れの5月11日（土）明成高等学校体育館において、学校法人 朴沢学園創立140周年記念式典が挙行され、来賓、松操会（旧：朴沢女子高等学校・現：明成高等学校卒業生の会）、法人事務局をはじめ明成高等学校生徒・保護者、仙台大学関係者など、集まった約1,200人は、宮城県はもちろん日本の女子教育におけるパイオニアとしての誇り高き歴史を振り返り、学園のさらなる発展と飛躍を誓いつつ、心より慶び合う「140年目の節目」を刻みました。

松操私塾（朴沢学園）は、明治12年（1879年）明治初期国家的な課題の一つであった女子の就学率を高めるため、裁縫教育を通して女性の持つさまざまな能力を引き出し、近代日本女性の地位向上を目的に、現在：仙台市青葉区一番町二丁目の地に創立されました。

知性と品格ある校風および「実学と創意工夫」を理念に掲げ、「一斉教授法」など画期的でわかりやすい教育をモットーとし、松操私塾（朴沢学園）には、九州から北海道まで全国より子女が集まり「嫁にやるなら朴沢へ、嫁をとるなら朴沢から」と称されるほどとなりました。

そのような名門校にも時代の嵐は押し寄せ、昭和20年（1945年）の仙台空襲によって学校が廃墟となる苦悩の時期はありましたが、再建に尽力した後継者や多くの方々の手により見事復興を果たしたばかりか、昭和42年

（1967年）には船岡に東北・北海道で唯一の体育系大学「仙台大学」を開学し、創始者の開学当初から目的であった教員養成について、戦後の学制改革により途絶えていたところを高等教育機関として復活させるとともに、さらなる飛躍をとげました。昭和49年（1974年）に仙台市青葉区川平地区に新校舎を落成、朴沢女子高等学校と法人本部を移転。平成4年

（1992年）に校名を明成高等学校に改称、その4年後の平成8年（1996年）には男女共学とし、これまでに4万1千人あまりの優秀な卒業生を輩出しています。

次ページへ続く

＜ 目 次 ＞

・学校法人朴沢学園創立140周年記念式典挙行	1・2
・第97回全日本選手権 男子舵手なし フォアで日本一 ・男子109kg級 保科 魁斗（4年）が準優勝	3
・第99回天皇杯全日本サッカー選手権大会 宮城県予選 4年ぶり3度目の優勝!! ・第99回天皇杯全日本サッカー選手権大会 全国大会1回戦 ・南奥羽地区大学春季大会2連覇!!	4
・NHK杯でも存在感 ・全日本インカレへ弾み 男子3位、女子7位 ・6年ぶりインカレ出場決定（28回目）	5
・東北学生柔道優勝大会で男女同時優勝！ ・活動報告 春季リーグ最終週 （リーグ戦4連覇） ・東北学生春季テニストーナメント大会の結果	6
・宮城県議会スポーツ振興調査委員会が本学を視察 ・ストレッチ・テーピングでランナーを支える	7
・第26回郡山シティーマラソン大会の協力をしました ・明成高校運動部の新入生に対するコンディショニングチェック（FES）を行いました ・令和元年度 仙台大学同窓会「社員総会」開催	8
・避難訓練を実施しました ・バドミントン部：第66回東北学生バドミントン選手権及び令和元年度東北学生バドミントン春季リーグ戦 結果	9
・芝草通信 NO. 2	10・11
・「高校スポーツの安全を守る」Vol.14 ・ベラルーシ共和国新体操ナショナルチーム応援パネルを展示	12

学生の活躍や、取り組みなどをご存知でしたら広報室までお寄せください。

Monthly Reportで紹介する他、報道機関にも旬な話題を提供して参ります。

本誌へのご意見・ご質問等がありましたら広報室までご一報ください。

仙台大学 広報室

直通 0224 - 55 - 1802

Email kouhou@sendai-u.ac.jp

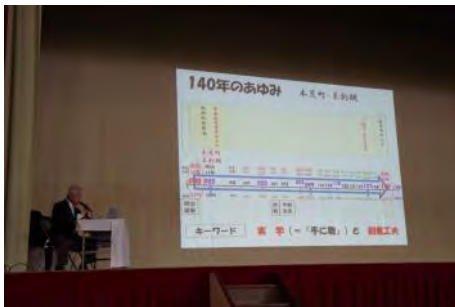
最初に明成高等学校・中村勝彦校長が式辞を述べ、次に朴沢学園・朴澤泰治理事長・学事顧問が、本学園のこれからの教育事業への取り組みとして、学校間の接続に関する改革を行い、その取込みについては他に先駆け先導的に進めていくことを語りました。その一例として、教員の質および教育の質を向上させるために、体育科教員などの教員養成に関する仙台大学での4年間の勉強をさらに充実させ、明成高等学校での教育を教員養成に活用し、大学に入る前の高校教育の段階で基礎的な素養を勉強してもらうという発想の転換が紹介されました。続いて、教員養成のみならず調理・介護など、他の人材育成分野でも仙台大学との連携を明確化し、まさにこれから訪れてくる日本社会の姿を想定した取り組みを建学の精神である「実学創意工夫」の下に行っていきたい旨、話しました。最後に「出藍誉れ」（弟子が師匠の学識や技量を超えるという意味）である教育事業に、2020年12月完成予定の高校校舎立替えという「器」と先導的な高大接続という「魂」の両面で取り組んでいく決意を述べ、挨拶となりました。

宮城県知事代理で総務部参事兼私学・公益法人化の新妻直樹課長などにより、教育への永きにわたる情熱へ敬意を表するとともに、なお一層の発展を祈念するというご祝辞をいただいた後、朴澤泰治理事長・学事顧問から、学園にご功績ある元校長・元専務理事の小島信弥先生に対し、感謝状と令和の銘酒が記念品として贈呈されました。

「創立140周年 歴史を辿る」という演題での朴澤泰治理事長・学事顧問による講演会では、明成高等学校の卒業生で、現在、米国ワシントン州・男子バスケットボール名門であるゴンザガ大学の3年生であり、日本人初のNBA男子プロバスケットにドラフト1巡で指名されることを全世界から注目されている八村塁（はちむら・るい）選手をはじめ、たくさんの卒業生よりあたたかいビデオメッセージが紹介され、画面を食い入るように見つめる生徒たちは、時折歓声をあげながら素晴らしい先輩たちを称えていました。講演会終了後には、柴田町桜の会からお祝いに桜の苗木16本が寄贈され、その植樹式が執り行われ、記念品の一部として明成高等学校調理課を夫婦で卒業しベーカーリー&カフェ3110（さいとう）という人気のパン屋を経営する齋藤雄貴さん・沙知江さんと生徒が手づくりした杜の都の「あんこパン」がふるまわれるなど、ほのぼのとした心に残る記念式典が幕を閉じました。

朴沢学園は、140年の歴史を受け継ぐべきもののキーワードとして①国際感覚を持つ②教員養成の機関③時代の要請を踏まえた実学（裁縫→調理・食育 福祉・介護 健康・スポーツ）を掲げ「創意工夫」の理念とともにこれからも優れた人材育成に努めて参ります。

みなさん、「創立150周年でまたお話ししよう」



漕艇部：第97回全日本選手権 男子舵手なしフォアで日本一



男子舵手なしフォア 優勝



女子クォド 3位（学生1位）



女子軽量級舵手なしペア3位

5月23日（木）から5月26日（日）に戸田ボートコースにて行われた、第97回全日本選手権大会で、男子舵手なしフォアが日本一の快挙。また多くの種目で入賞しました。

全成績は下記の通り

開催種目は全16種目（男子9種目、女子7種目）

本学からは男子9種目、女子4種目の計13種目にエントリーし10種目で入賞

優勝1クルー、3位3クルー 他6クルーが入賞しました。（最多入賞数）

男子エイト	7位（学生3位）
女子クォド	3位（学生1位）
男子舵手なしフォア	優勝
男子舵手付きフォア	5位（学生3位）
男子クォド	3位（学生1位）
女子軽量級ペア	3位
男子軽量級ダブルスカル	5位
男子軽量級ペア	5位
女子ペア	5位
男子ダブルスカル	7位



女子クォド Finish直後

<報告：漕艇部>

ウエイトリフティング部：男子109kg級 保科 魁斗（4年）が準優勝

4月26日（金）～28日（日）に大阪府羽曳野市で第65回全日本学生ウエイトリフティング個人選手権大会ならびに第31回全日本女子学生ウエイトリフティング選手権大会が開催されました。

男子は、109kg級 保科魁斗（体育4年）が準優勝（この大会での男子の表彰台は、部において初の快挙）、55kg級 菊地亮雅（体育1年）が6位に入賞しました。

女子は、81kg級 福塚真羽（体育3年）が4位、76kg級 遠藤朱李（体育2年）が4位に入賞しました。平成の最後に飾るにふさわしい良い結果で大会は終了しました。新しい元号令和の時代でもウエイトリフティングが活躍できるように指導を続けていきたいと思ひます。

結果詳細につきましては、以下の通りになります。

【男子】

・62kg級	菊地亮雅（体育1年）				
スナッチ	5位入賞	クリーン&ジャーク	6位入賞	トータル	6位入賞
・109kg級	保科魁斗（体育4年）				
スナッチ	7位	クリーン&ジャーク	準優勝	トータル	準優勝

【女子】

・75kg級	遠藤朱李（体育2年）				
スナッチ	5位入賞	クリーン&ジャーク	5位入賞	トータル	4位入賞
・90kg級	福塚真羽（体育3年）				
スナッチ	4位入賞	クリーン&ジャーク	4位入賞	トータル	4位入賞

<報告：ウエイトリフティング部>



写真左 準優勝した男子109kg級 保科魁斗（体育4年）

サッカー部：第99回天皇杯全日本サッカー選手権大会宮城県予選

4年ぶり3度目の優勝!! 全国大会出場!!

第99回天皇杯全日本サッカー選手権大会宮城県予選

仙台大学対ソニー仙台(13：00K0・みやぎ生協めぐみ野サッカー場A)

◇試合結果 仙台大学2-1ソニー仙台(前半1-0・後半1-1) 得点者：人見2

多くの皆様の応援、サポートに加えて、昨年から導入した週休2日制、今年から導入したHIIT、さらにベガルタ仙台吉田コーチ就任、平山コーチAチームコーチ就任、その他仙台大学サッカー部を支える他カテゴリーコーチ、学生スタッフ、さらに昨年までAチームを指導してくれたベガルタ仙台 瀬川氏のおかげで優勝することができました。選手、スタッフ一同、さらに仙台大学の発展に貢献していきたいと思いますので、引き続き変わらぬご愛顧をよろしくお願い致します。

<報告：サッカー部>



記念写真

サッカー部：第99回天皇杯全日本サッカー選手権大会全国大会1回戦

対 いわきFC 3対2 逆転勝利！ 次戦 J 2 横浜FCと対戦！

第99回天皇杯全日本サッカー選手権大会全国大会1回戦

仙台大学対いわきFC(13：00K0・とうほう・みんなのスタジアム)

◇試合結果 仙台大学 3-2 いわきFC(前半0-1・後半3-1) 得点者：人見1、嵯峨1、岩渕1

◇キャプテン嵯峨からのコメント

チーム全員が一つになり逆転勝利をする事ができました。天皇杯という一発勝負の戦いで、横浜FCという素晴らしいチームと戦う挑戦権を掴むことができ嬉しく思います。ここで満足することなく チームでしっかりといい準備をしてジャイアントキリングを起こしたいです。



記念写真

2回戦は、7月10日にJ2横浜FCと対戦します。

<報告：サッカー部>

女子バスケットボール部：南奥羽地区大学春季大会2連覇！！

5月26日（日）に山辺町民総合体育館にて行われた第40回南奥羽地区大学春季バスケットボール大会において、2連覇を達成することが出来ました。

準決勝の東北学院大学との試合は、後半からミスが目立ち、課題が多く残りましたが、決勝の山形大学との試合はその反省を生かし、最後まで全員が強気で臨むことができました。

今後は、東北地区大学体育大会があるので、チーム一丸となって優勝を目指し頑張ります。

・準決勝

仙台大学 81 (21-17 22-12 17-19 21-17) 65 東北学院大学

・決勝

仙台大学 113 (39-24 20-19 31-15 23-19) 77 山形大学

<個人賞受賞>

最優秀選手賞 三須 秋穂 (運動栄養3年)

優秀選手賞 千葉 沙希 (体育3年)

優秀選手賞 石田 実希 (体育2年)

新人王 高橋 智歌 (子ども運動1年)

<報告：女子バスケットボール部>



記念写真

体操競技部：NHK杯でも存在感

5月19日(日)に第58回NHK杯体操男子が東京・武蔵野の森総合スポーツプラザであり、本学の南一輝(体育2年)は種目別の床運動で14,800点(D点6,400、E点8,500、減点0.100)をマークし1位になりました。ワールドカップ(W杯)派遣の目安となる14.9点までは惜しくもあと0.1点及びませんでした。今度は来月22(土)、23(日)の両日に群馬県・高崎アリーナで行われる全日本種目別選手権に期待がかかります。

NHK杯はこのほか、個人総合に松見一希(体育4年)が出場し総合243,727点で24位でした。いずれも床運動に臨んだ松田光平(体育3年)は14,166で8位、青木翔汰(同3年)は13,700で24位でした。

<報告：体操競技部>



NHK杯に出場した(左から)松見、青木、松田、南

体操競技部：全日本インカレへ弾み 男子3位、女子7位

5月25日(土)、26日(日)の両日、体操の東日本学生選手権(東日本インカレ)が岩手県一関市の市総合体育館で行われ、仙台大学は男子団体総合で3位に入り、女子団体総合が7位でした。個人種目は男子あん馬で池田大騎(体育4年)が見事優勝しました。

男子団体はし烈な争いでした。実力としては順大、日体大がやや頭一つ抜けた感じではありますが、本学は池田のほかに松見一希(体育4年)、篠原夕人(同4年)、青木翔汰(同3年)、山根直記(同3年)、寺地祐次郎(同3年)の編成で臨み、筑波大、早大、駒大、日大を抑えて総合404,150点で3位に食い込みました。来る全日本インカレ(8月20～22日・山口市)に大いに弾みがつきました。1位は日体大(総合417,200点)、2位順大(総合416,600点)でした。

個人種目別でも仙台大勢は活躍しました。あん馬を14,600で制した池田のほかに、つり輪で山根が、鉄棒で青木がそれぞれ2位と気を吐きました。さらに床運動で青木が5位、跳馬で山根が6位に入りました。個人総合は青木8位、松見10位という成績でした。

女子団体総合の仙台大の得点は232,850です。個人種目別では藤本亜祐奈(体育2年)が8位に入る健闘を見せてくれました。

会場では今大会も大勢の皆様からご声援をいただきました。厚く御礼を申し上げます。

<報告：体操競技部>



東日本インカレで活躍を見せた仙台大の男女体操陣。個人枠で出場した選手も含めて「ハイ、ポーズ!」

男子ソフト部：6年ぶりインカレ出場決定(28回目)

第40回北海道・東北地区大学男子ソフトボール選手権大会(兼)第54回全日本大学ソフトボール選手権大会北海道・東北地区予選会が5月11日(土)と12日(日)に福島県郡山市のふるさとの森ソフトボール場で行われました。

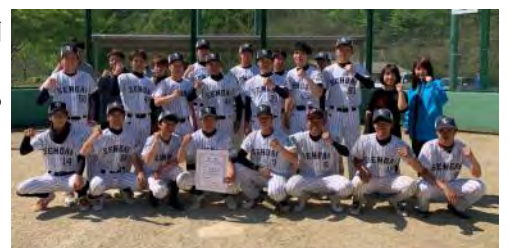
仙台大学は第2シードでの出場となり、準優勝で6年ぶり28回目のインカレ出場を決めました。

<結果>

一回戦 vs 日本大学工学部 ○15-12

準決勝 vs 東北大学 ○4-3

決勝 vs 北海道大学 ●8-11



記念写真

文部科学大臣杯第54回全日本大学男子選手権大会(インカレ)は9月5日(木)から富山県の富山市民球場他で行われます。

今後とも応援していただけるよう努力してまいります。

<報告：男子ソフトボール部>

柔道部：東北学生柔道優勝大会で男女同時優勝！

5月19日、東北学生柔道優勝大会が宮城県立武道館で開催されました。この大会は、6月に日本武道館で行われる全日本学生柔道優勝大会の東北予選に位置づく大会となっています。女子においては、15年連続の優勝となり、現在の制度になってから13連覇となりました。一方、男子は3年ぶり3度目の優勝となりました。現在の指導体制となってからは初めての優勝となりました。

大会当日は、世代を超えて多くの卒業生の方が会場にお越しいただき、応援いただきました。この場を借りて御礼申し上げます。誠にありがとうございました。

来月開催される全日本学生柔道優勝大会では、諸先輩方からの応援を背に、これまでを超える結果を目指したいと思います。今後ともご声援の程、何卒宜しくお願い申し上げます。

<報告：柔道部>



記念写真

男子バレーボール部：活動報告 春季リーグ最終週（リーグ戦4連覇）

第54回東北バレーボール大学男女リーグ戦が4月20日（土）から開幕し、リーグ戦最終週の18日（土）は山形大学、19日（日）は東北学院大学と東北福祉大学福聚殿にて対戦しました。

山形大学とはフルセット、東北学院大学との第三セットはデュースまでもつれ込むなど、苦しい場面が多くありましたが勝利することができました。

これで全試合が終了し、予選リーグ、順位決定リーグを10勝0敗で全勝し、一昨年の秋季から続く、4連覇を達成することができました。



胴上げをされる中村新助手

また多くの個人賞を受賞することができました。

#1 高橋生祈 最優秀選手賞、レシーブ賞第1位、サーブ賞第1位、

#4 飯田頼 ベストディガー賞、レシーブ賞第2位

#十文字龍翔 スパイク賞第1位

ベストオブサポート賞 仙台大学



試合中声を掛け合う様子

1か月後には東日本インカレがあります。

春リーグで出た改善点を克服し、優勝した勢いをそのままに東日本インカレを戦っていきたいです。

今後も男子バレーボール部の応援のほどよろしくお願いいたします。

<報告：男子バレーボール部>

硬式テニス部：東北学生春季テニストーナメント大会の結果

東北学生春季テニストーナメント大会

泉総合運動場、川内庭球場、東北大学川内キャンパス

男子ダブルス

準優勝 大久一真（体育学科3年）・遠藤亜蘭（体育学科3年）

女子シングルス

第4位 菌部優姫（運動栄養学科2年）

今大会の結果により、全日本学生テニス選手権大会（8月7日～21日：岐阜）へ男子ダブルス1組、女子シングルス1名の出場が決定いたしました。

沢山のご声援をいただき、ありがとうございました。

<報告：硬式テニス部>

宮城県議会スポーツ振興調査委員会が本学を視察



LC棟で協議の様子



トレーニングセンターやATルームを視察された様子



5月10日（金）宮城県議会スポーツ振興調査特別委員の方々が来学され、東京2020オリンピック・パラリンピックホストタウンの現状と課題について、視察されました。

初めに柴田町 滝口町長、柴田町議会 高橋議長より柴田町の紹介と現状の報告がなされ、次いで朴澤理事長、遠藤学長から本学の紹介及び挨拶がありました。

東京2020オリンピック・パラリンピック ホストタウンの取り組みとして柴田町より、これまで2016年2月に白石市・柴田町・仙台大学の3者が連携し、東京オリパラ事前合宿招致推進協議会を発足し、2017年7月に柴田町と白石市がホストタウンに認定され、これまで2度のベラルーシ新体操ナショナルチームの事前合宿「SAKURA CAMP」が行われたことなど、これまでの経過報告がありました。

朴澤理事長からは2002年から仙台大学と国際交流協定を締結しているベラルーシ国立体育・スポーツ学院とこれまでの交流の様子や、事前合宿中の様子を映像で紹介しつつ、7月27日（土）に行われる「SAKURA CAMP2019」に向けて、オリンピックで使用される公式マットの確保などの現状と課題について報告しました。

協議終了後、実際に「SAKURA CAMP2019」公開演技会を予定している第5体育館や、体育大学ならではのトレーニングセンター、アスレティックトレーニングルームの施設を見学され、お褒めの言葉を頂くとともに、関心を持っていただくことができました。

アスレティックトレーナー部：ストレッチ・テーピングでランナーを支える



今年も多くの方々のご利用いただき、取り組む学生たちの様子

第29回仙台国際ハーフマラソンにて、アスレティックトレーナー部12名がボランティアとしてランナーにストレッチ・テーピングを行うブース活動に参加しました。このボランティア活動は、本学陸上競技部部長の名取英二教授の繋がりから実現したもので、本学開学50周年を機に始まり、今年で3回目の参加となりました。

今年は合計197名のランナーに利用していただき、多くの笑顔、喜びや感謝のお声をいただきました。

「テーピングのおかげでハーフマラソンを初めて完走することができた」

「ストレッチのおかげで体の動きが全然違った」

「毎年利用しており、来年も是非またお願いしたい」

ボランティアに参加した学生らは、ランナーの方々からいただいた感謝を力に、今後もスポーツに関わる様々な活動に取り組んでいきますので、ご支援・ご協力いただければ幸いです。最後に、OBや本学教職員らにもブースにお立ち寄りいただき、学生らに激励のお声をいただきました事に感謝いたします。

<報告：アスレティックトレーナー部>

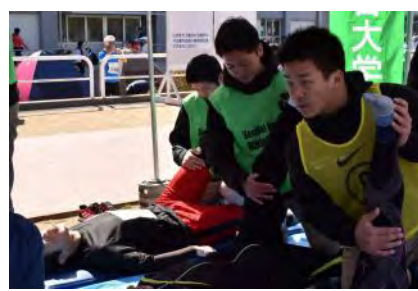
第26回郡山シティーマラソン大会の協力をしました



記念写真



200名のケアを行うAT部の学生の様子



4月29日（日）福島県にある郡山ヒロセ開成山陸上競技場で開催された第26回郡山シティーマラソン大会に、本学アスレティックトレーナー部学生総勢16名が大会支援を行いました。支援内容は、各ランナーからの個別相談やテーピング、アイシング、ストレッチなどを対応しました。

郡山市のご配慮で本学アスレティックトレーナー部のブースをアップ会場に設営して頂いたこともあり、約200人を超える各ランナーのケアや相談に、学生たちは休む間もなく熱心に取り組みました。学生の激励にお出でいただいた、品川 万里 郡山市長から「仙台大学生の意識の高さを感じることができた」との称賛のコメントも頂きました。また当日学生たちは早朝より会場入りしたこともあり、鶴田 雅之 福島県同窓会事務局長と本学卒業生（21期生）尾形栄一様から学生全員へ朝食の差し入れを頂くなど、多くの県人会の方々から激励や差し入れを頂きました。

今回のAT部学生の活動を通じて、鈴木のぞみ助手と内野洋材助手の学生へ対する日頃の指導の成果が随所で垣間見られたこと、そして同窓生を取り込みながら仙台大学の大きなPRができたことを実感いたしました。

<報告：江尻雅彦教授>

明成高校運動部の新入生に対するコンディションチェック（FES）を行いました



記念写真



測定員として取り組む本学学生の様子



4月27日（土）仙台大学川平アスレティックトレーニングルームにて、明成高校に属する4部活動（女子バスケットボール部、女子サッカー部、陸上競技部、男子バレーボール部）の新入生を対象としたFreshman Entrance Screening（FES）を実施しました。FESは下肢アライメント、柔軟性、筋力、そして安定性等の身体機能を測定するコンディションチェックで、得たデータを基に傷害予防に努めます。

今回は仙台大学学生（AT部およびS&Cインターン生の計14名）も測定員として参加し、研鑽を積む良い機会となりました。姉妹校の強みを活かして、大学と高校にて研修できる場をより多く提供していければと思います。

<報告：川平アスレティックトレーニングルーム>

令和元年度 仙台大学同窓会「社員総会」開催

今年度の「社員総会」が5月18日（土）にホテル原田インさくらにて開催されました。全国28支部中、22支部の支部長（6支部は委任状提出）、事務長、同窓会本部からは理事、役員など10名、総勢32名が出席しました。

総会では、平成30年度同窓会事業に関する報告並びに会計報告、令和元年度事業計画、予算について提案がありました。協議事項では同窓会としての継続の事業、新事業計画、海外留学奨学金、定款の変更、新役員の選考、支部活動について活発な議論がなされ、今後の同窓会活動の更なる活性化が期待される総会となりました。

引き続き行われた懇親会では、朴澤理事長、遠藤学長も出席し、各支部の活動状況などの報告もあり、和やかな雰囲気の中で同窓生相互の交流が深められ、盛会のうちに閉会となりました。

<報告：同窓会事務局>



避難訓練を実施しました



訓練中の様子

5月29日（水）「講義を受けている学生」約600名を対象に大規模地震を想定した避難訓練を実施しました。

15時35分、震度6強の揺れを想定した「緊急地震速報」が放送されると教員が学生に、身の安全を確保するよう防護を指示しました。

約30秒の地震疑似音後、教員は安全を確認後、学生へ避難場所への移動を指示し、各教室から陸上競技場へ移動し、避難が完了しました。

安否確認終了後は防火・防災管理者である遠藤 営繕管理室長が「実際に災害が起こった時、どこに避難して自分の身を守るか常に考えて行動してください」と話しました。

また避難に参加した学生からは「東日本大震災を思い出し、改めて避難訓練は大切だと感じました」「実際に避難経路を確認することができ、いざという時に慌てずに行動したいと思います」や「いざという時に訓練を積み重ねることが大切だと感じました」などの声がありました。

バドミントン部：第66回東北学生バドミントン選手権及び令和元年度東北学生バドミントン春季リーグ戦 結果

5月24日（金）～5月30日（木）まで山形県体育館で開催された、第66回東北学生バドミントン選手権及び令和元年度東北学生バドミントン春季リーグ戦で、女子ダブルスの松田/徳能が3位となり、10月のインカレの推薦出場権を獲得しました。

なお、上記2名は昨年度インカレ32強であるので、8月の全日本学生ミックスダブルス選手権への出場権も獲得しています。



記念写真

○春季リーグ戦

男子1部（4位）入替戦にて1部残留

女子1部（3位）

○選手権

・男子シングルス

5位 成田行磯（体育1年）

16強 館田悠汰（体育2年）、本間雄大（体育2年）、山口将史（体育2年）

・女子シングルス

5位 徳能あすか（現武3年）

16強 松田ほのか（体育4年）

・男子ダブルス

8位 清野祐介/山口将史（健福4年/体育2年）

16強 成田行磯/伴野匠（体育1）、塩沼直希/館田悠汰（体育2）、佐藤倅心/中島光人（健福1）

・女子ダブルス

3位 松田ほのか/徳能あすか（体育4年/現武3年）

16強 斉藤はるほ/本松佑里香（運栄3年/スポ情1年）

8月、9月に行われる東日本インカレにてインカレの出場権を狙うべく今後も練習に取り組んでまいります。
＜報告：バドミントン部＞

芝草通信 NO. 2

担当：小島文雄体育施設管理コンサルタント

1. 噴水周り天然芝生《A地区（正門隣）、B地区（三体前）、C地区（四体前）》

前回連休明けを予定していた開放時期は、雑草の生育が激しかったので再度除草剤を散布し、又降水量が少なく、暖地型芝生の生育が良好で無い為に少し遅れています。

暖地型日本芝生高麗芝は比較的踏圧に強いとされておりますが、通行などで繰り返し踏みつけられるとダメージに耐えられなくなります。芝生の中をショートカットして学食に行く学生を見かけますが、通行の為に入るのはご遠慮ください。ひとときの休憩や視覚での天然芝生の癒しを感じてください。

特にパイプ椅子を持ち込んで休憩することは脚の部分4か所に全体重の1/4ずつ重量が掛かります。単位面積当たりの荷重は歩く時の足裏にかかる負荷より大きくなります。ベニヤ板やパネルの上にパイプ椅子を置いて使用すれば大きい面積に分散しますので、単位面積当たりの荷重は低減されます。このことは体育館にピアノを持ち込む時の注意事項（フローリングを傷つけない為の配慮）と同じです。

又長時間ベニヤ板・シートやリックサックなどを放置して太陽光線を遮ることも芝生にとっては悪影響ですので、ご協力ください。

緑色植物が行なう光合成は、太陽の光エネルギーを吸収して、二酸化炭素と水から有機物を合成し、この物質にエネルギーを蓄える反応です。植物が合成する有機物は、生態系の中では全ての生物の栄養源となり、この事から解るように芝草の生育に太陽光線は大変重要なことです。大木の下や樹木の密集している所には【耐陰性の芝草】が使用されています。神戸ウイングスタジアムや大分スポーツ公園総合競技場など全天候開閉式の球場では、太陽光線が短時間しか当たらない場所があり、維持管理に大変苦勞をして様々な工夫を凝らしていて、新国立競技場も同様の問題があります。

開放する前に授業の一環として下記の実習を行ないました。

(1) 『スポーツ施設管理概論Ⅰ』の授業「天然芝生の維持管理」として

- ① A地区(八巻担当)：乗用ロータリーモア草刈り機による実演・実習
- ② B地区(小島担当)：手引き式リールモア草刈り機(10台)による実習〈写真 1〉
- ③ C地区(野口担当)：エンジン付き手押しリールモアによる実演・実習
- ④ Putting Green(八巻担当)：乗用スーパーによる刈り粕清掃の実演〈写真3〉
- ⑤ Putting Green(八巻担当)：手引き式エアレーションによるコア抜きの実演

(2) 『スポーツターフ管理概論Ⅱ』の授業「高さ測定機器の理論と実習」として

- ① C地区(小島・野口担当)：受講生を4班に分け、各班に1台のオートレベルを配置して、機器が水平に設置出来たことを確認して、最初に基準点を測量し、5箇所の高さを測量した。基準点に戻り誤差があればやり直す。その結果を班ごとに黒板に発表してそれぞれの班の誤差を精査した。結果は良好でした。

- ＜5月に行なった管理＞
- (1) 茎葉処理の除草剤を散布(広葉雑草駆除)・・・追加
 - (2) 散水：移動式小型スプリンクラー〈写真2〉
 - (3) 肥料散布
 - (4) 雑草抜根



＜写真1＞手引き式リールモア草刈り機(10台)による実習＜Bブロック＞



＜写真2＞移動式小型スプリンクラーによる散水＜Cブロック＞



＜写真3＞乗用スーパーによる刈り粕等の清掃実演＜Putting Green ブロック＞

2. 第二グラウンド，天然芝生ラグビー・アメリカンフットボール場

噴水廻りの芝生が【暖地型日本芝】に対して，このグラウンドの芝草は【寒地型洋芝】をメインにしていますので維持管理の方法が全く違います。近年，宮城県の夏季の高温期間は長くなり寒地型洋芝の育成が困難になっています。Jリーグが使用する県営グラウンドや仙台市のグラウンドでは高温化対策に苦心してミスト散水・送風機による通風での気温降下や使用制限などにより克服して，年間を通して寒地型洋芝を維持しています。関東以西では，暖地型洋芝をメインにして冬季衰退期に暖地型洋芝を短く刈りこんで，その上から寒地型洋芝の種をまいて草種転換（Over Seeding）して，年中緑の芝生を育てています。このことを【Winter Over Seeding (W.O.S.)】と言って，日本全国の多くの競技場で実施しています。しかし，仙台大学のグラウンドでは，この逆を行って，夏季の高温時（6月中旬から10月中旬）には【寒地型洋芝】の上に【暖地型洋芝】のパミューダグラスをOver Seedingして育成しています。すなわち【Summer Over Seeding (S.O.S.)】で，いわゆる『二毛作』です。現在はS.O.S.が定着しており，夏季の異常高温気象でも100%の被覆率を維持しています。この事は全国でも珍しい例題となっています。グラウンドのような大きな面積での暖地型洋芝の生育の効果が宮城県の気象条件では疑問視されていたことが払拭されて，仙台市内のJリーグの練習場に暖地型洋芝（ティフトン419）が採用される先駆けとなりました。

- <5月に行なった管理> （1）乗用3連ロータリーモアによる草刈，3回
 （2）乗用3連リールモアによる草刈，2回/週
 （3）散水：スミレインの孔明ホース（50mm×100m）
 （4）手引きスプレッダーによる肥料散布
 （5）除草ホークを使用して人力による雑草抜根



<写真4>寒地型芝生全景<ラグビー・アメリカンフットボール場東側>



<写真5>寒地型芝生遠景<ラグビー・アメリカンフットボール場東側>



<写真6>寒地型芝生近景<ラグビー・アメリカンフットボール場東側>



<写真7>寒地型芝生接写 <ラグビー・アメリカンフットボール場東側>



<写真8>暖地型芝生(パミューダグラス)接写<ラグビー・アメリカンフットボール場東南角>

川平キャンパスAT・S&Cレポート

「高校スポーツの安全を守る」Vol.14

担当：小野 勇太助手

川平アスレティックトレーニングルーム(ATR)では、本学アスレティックトレーナー(AT)部の学生達が、AT現場実習として、続々と来ています。船岡キャンパスと川平ATRのある川平キャンパスでは、決して近い距離ではありませんが、キャンパス間を学内定期バスが出ているので、移動手段に困ることはありません。現在実習に来ている学生達は、先月開催したFreshman Entrance Screening(FES)に協力してくれた学生達で、高校ATの魅力を感じ更なる実習のために引き続き来てくれています。川平ATR現場実習は、現在見学実習を主な活動内容としています。「高校AT」という仕事とは何かを、我々川平ATRスタッフの活動を直接見て、話を聴いて普段の大学ATとの違いを学んでいます。加えて、ストレングス&コンディショニングコーチ(S&Cコーチ)も常駐しているため、ATとS&Cとの連携や、それぞれの専門性の違いについても学べます。普段、大学生を相手に活動している実習生達は、取り組みの大きな違いに関心を持ち、ノート1ページびっしり埋まる程にたくさんの気づきや学びポイントをメモしている姿が印象的です。積極的に我々スタッフだけでなく、高校生達とコミュニケーションを取り、普段の活動(大学生相手の対応)との違いや共通点について深く学習したようでした。

本学では、大学内にATRが設置されているだけでなく、姉妹校である明成高校へのサポートとして高校ATRも設置された、国内でも数少ない素晴らしい施設を有した大学です。施設だけでなく、それぞれに高度な専門性を有したスタッフが常駐していることもトレーナー領域における本学の魅力の1つです。

また、有資格者の背景として国内資格を所有する者、米国資格を有する者の両者が各施設内にいることは、ATやS&Cコーチとしての活動が国内に留まらず米国や海外へも視野を広げるきっかけと成ります。ATを志す学生にとって、様々な活動現場、様々な専門家が常駐していることは、自分の将来を切り開く上でたくさんの刺激となり、素晴らしい学習環境であると思います。

我々川平ATRの活動理念の一つとして「高校スポーツの安全を守る」を掲げておりますが、そんな我々の理念に共鳴する未来の専門家(ATやS&Cコーチ)の育成や輩出も、我々川平ATRにとっての重要な役割の一つです。社会にとって有益な専門家が普及していくことは、日本が抱える健康やスポーツの抱える各種問題解決の一端を担うと信じ、川平ATRの活動を今後も精進していこうと思います。



①写真左：AT学生、右：高校生



②写真左：AT学生、右：高校生



③S&C指導を見学するAT学生(写真右)

ベラルーシ共和国新体操ナショナルチーム応援パネルを展示

2020東京オリンピック・パラリンピックに向け、本学は、2017年6月に、ベラルーシ共和国のホストタウンとして協定を宮城県柴田町、白石市、ベラルーシ体操協会の4者で締結し、2017年から2020年にかけての事前合宿を実施する予定としています。

下記の日程で、柴田町協力のもと、これまでに行われた、過去2回の事前合宿中の公開演技会の様子を「ベラルーシ共和国新体操ナショナルチーム」応援パネル展として展示しています。

是非ご覧ください。

展示に関しては役場及び各学習センターを以下の日程で展示する予定となっております。

【令和元年6月3日(月)～7月26日(金)】

- ・役場町民ホール 6月3日(月)～6月13日(木)
- ・船迫生涯学習センター 6月15日(月)～6月27日(木)
- ・槻木生涯学習センター 6月29日(月)～7月11日(木)
- ・船岡生涯学習センター 7月13日(月)～7月25日(木)



Monthly Report

Vol.158 / 2019 JUN

マカロワ・マリアさんとセベツ・アリーナさんが知事を表敬訪問しました



左からセベツ・アリーナさん、村井嘉浩宮城県知事、マカロワ・マリアさん

本学が招聘し、ベラルーシ新体操チームを応援することを目的として、白石市・柴田町の東京オリンピック・パラリンピックホストタウン親善大使として活動しているマカロワ・マリアさんとセベツ・アリーナさんが、6月11日(火)、朴澤理事長・学事顧問、遠藤学長、高橋副学長とともに県庁を訪れ、村井嘉浩宮城県知事を表敬訪問しました。はじめに知事から歓迎のご挨拶があり、「これまでの経験を生かして将来ある若者を指導されるだけでなく、地域の交流活動を通して、日本とベラルーシという異なる文化の国をつなぐ『架け橋』となっていきたいと思います。」と二人を激励するとともに、「日本とベラルーシ共和国の新体操競技のますますの発展と東京オリンピック出場を祈念いたします。」とのお言葉をいただきました。それに応えて、マカロワさんとセベツさんは、それぞれ自己紹介や抱負、ベラルーシ新体操チームへの応援のお願いなどについて、日本語で挨拶をしました。その後、知事から宮城県のマスコットキャラクターである「むすび丸」のぬいぐるみが贈呈され、とてもかわいいプレゼントに二人とも大喜びでした。

現在、二人は本学で学生の指導にあたりるとともに、白石市・柴田町の東京2020オリンピック・パラリンピック・ホストタウン親善大使として、来年のオリンピックに向けて地域の学校などで体操の紹介や指導等をしながら、ベラルーシ女子新体操チームの広報・応援活動を行っています。セベツさんは来年の8月まで滞在し、マカロワさんは今年のベラルーシ新体操ナショナルチームの事前合宿が終わるまで滞在することになっています。今年は、7月24日(水)から8月3日(土)までの日程で事前合宿が行われます。7月27日(土)には仙台大学で、28日(日)には白石市のホワイトキューブを会場として、公開演技会(どちらも13時開場、13時30分開演)が開催される予定です。多くの皆様のご来場をお待ちしています。

＜目次＞

・マカロワ・マリアさんとセベツ・アリーナさんが知事を表敬訪問しました	1
・学術会：令和元年度新任教員発表会(第99回学術集会)・総会・新任教員を囲む懇親会を開催しました ・ダートフィッシュ・ソフトウェアを用いた分析発表を行いました	2
・仙台大学の先生・学生と一緒に、南蔵王の自然を楽しもう！ ・水泳部：第70回東北地区大学体育大会 男子総合優勝で連覇達成！	3
・上海体育学院女子サッカー部との国際交流を実施しました ・瀋陽師範大学 中国伝統スポーツ・文化体験プログラムを実施しました	4
・台東大学卒業式で、ダブルディグリー制度による仙台大学体育学部の学位取得者に学位記を授与 ・2020年東京オリンピックの出場を目指すパラオ共和国の柔道強化選手2名を激励	5
・柴田町から東京オリンピックホストタウンの親善大使に委嘱されました ・白石市から東京オリンピックホストタウンの親善大使に委嘱されました	6
・「留学生日本文化体験ツアーin会津若松市」を開催！！ ・体操競技部：南、五輪も夢じゃない／床で全日本チャンピオン	7
・サッカー部：横浜FCに内定した松尾佑介選手の内定会見を開催しました ・楽天生命パーク宮城にて第3回スポーツ施設見学会が開催されました	8
・「一般社団法人全国体育スポーツ系大学協議会総会」及び「全国体育系大学学長・学部長会議総会」開催 ・「東京おもちゃショー2019」に出展	9
・南條充寿学科長がユアサ商事(株)の招きにより講演しました	10
・芝草通信 NO. 3 ・「高校スポーツの安全を守る」Vol.15	11 ・
	12

学生の活躍や、取り組みなどをご存知でしたら広報室までお寄せください。

Monthly Reportで紹介する他、報道機関にも旬な話題を提供して参ります。

本誌へのご意見・ご質問等がありましたら広報室までご一報ください。

仙台大学 広報室

直通 0224 - 55 - 1802

Email kouhou@sendai-u.ac.jp

学術会：令和元年度新任教員発表会(第99回学術集会)・総会・新任教員を囲む懇親会を開催しました

5月28日（火）16:00～からLC棟1階スクリーン前において「新任教員発表会(第99回学術集会)並びに総会」、及び管理研究棟2階大会議室において「新任教員を囲む懇親会」を開催しました。

「新任教員発表会」は、高橋 徹 学術会運営委員の司会により進行され、学術会会長である遠藤 保雄 学長の挨拶後、早速発表会が行われました。

今回の新任教員は、教授(高橋 仁 副学長)、准教授(荒木 貞義 教員)、講師(小勝 健司 教員、金 一坤 教員)、助手(馬目 知人 教員)の5名が、限られた時間の中で発表を行い、各教員の自己紹介を含め、研究歴・研究内容、業務内容等についてそれぞれ工夫がなされた発表及び質疑応答が行われました。

引き続き総会では、小松正子教授の議長のもと、学術会事務局より、平成30年度事業報告・収支決算(会計監査報告含む)並びに令和元年度事業計画(案)・収支予算(案)について説明があり、すべて承認されました。総会終了後、「新任教員を囲む懇親会」が行われ、朴澤泰治理事長・学事顧問、遠藤保雄学長をはじめ多くの出席を頂き、教員各位においては有意義な懇談が行われました。

なお、発表の前には5月から新体操・ダンス臨時コーチとして招聘されたベラルーシ国立体育・スポーツ学院のマカロア・マリア 教員とセベツェ・アリーナ 教員も挨拶しました。マカロワ教員は今回で2回目(2009年～2011年以来)の来日となります。

<報告：学術会運営委員会・事務局>



発表の様子

スポーツ情報マスメディア学科：ダートフィッシュ・ソフトウェアを用いた分析発表を行いました

6月12日（水）、スポーツ情報戦略論演習A（スポーツ情報マスメディア学科3年生・前期選択科目）の授業で、映像コーチング分析ソフトウェア「ダートフィッシュ」を活用したプレゼンテーションを行いました。本演習は、競技フィールド領域において情報を戦略的かつ効果的に活用するための考え方やスキルを身につけることを目的としており、本年度は23名が受講しています。

受講生は、投球フォーム（野球）、サーブの軌道（バレーボール）、空中姿勢（エアリアル（スキー））などそれぞれの専門競技における日頃の疑問に着目し、先週の授業時間までに分析した結果を発表しました。受講生の1人は発表の中で、「仮説と結果の相違など自分自身の中で新たな発見があり、今後さらに深く学んでいきたい」と述べてくれるなど意欲を見せていました。

この授業は次週から、スポーツコードを活用したゲームパフォーマンス分析に取り組みます。

※ダートフィッシュとは

スイスのダートフィッシュ社が開発し、映像を重ねる「サイマルカム（SimulCam）」と残像を示す「ストロモーション（StroMotion）」、2つの映像処理技術で特許を取得した世界で普及しているソフトウェアです。

<報告：スポーツ情報マスメディア学科>



講義の様子

仙台大学の先生・学生と一緒に、南蔵王の自然を楽しもう！ 南蔵王わんぱく・チャレンジキャンプの募集

仙台大学（野外運動研究室）では、地域の青少年の健全な育成のために、地元南蔵王の自然環境を活かしたサマーキャンプを実施しています。自然豊かなキャンプ場で、テント泊や野外炊事、山登りや沢遊びを体験してみませんか。高学年向けのキャンプでは、登山中山の中で一泊するという、他とはちょっと違った本格的キャンプです。野外活動の専門の先生や、元気で優しい体育大のお兄さんお姉さんが一緒に活動するので、キャンプが初めての人でも安心です。キャンプ・登山の専門的な道具はレンタルすることもできます。

「うちの子にはちょっと無理かも・・・」「そんな長い期間できるかな・・・」
という心配がありましたら遠慮なくお問い合わせください。先着順となっております。
お友達なども誘って、お早めにお申し込みください。

※本事業は、子どもゆめ基金の活動助成を受けております。そのため、安価な参加費で本格的なキャンプを体験することができるようになっています。

南蔵王わんぱくキャンプ2019

日程：8月6日（火）～9日（金）
対象学年：小学2年生～小学4年生
参加費：12,000円
場所：南蔵王野営場及び南蔵王山城
定員：35名（先着順）
内容：ナイトハイク、冒険ハイク、沢歩き、野外炊事、テント泊、お土産作り等

南蔵王チャレンジキャンプ2019

日程：8月17日（土）～23日（金）
対象学年：小学5年生～中学3年生
参加費：20,000円
場所：南蔵王野営場及び南蔵王山城
定員：35名（先着順）
内容：南蔵王縦走登山、野外炊事、テント泊、個人別活動、キャンプファイヤー等

お問い合わせ先

TEL/FAX 0224-55-1263

E-mail ms-okada@sendai-u.ac.jp

仙台大学野外運動研究室

（〒989-1693 宮城県柴田郡柴田町船岡南2-2-18 仙台大学岡田研究室内）



水泳部：第70回東北地区大学体育大会 男子総合優勝で連覇達成！

6月8日（土）および9日（日）、碓ヶ関屋内温水プールゆうえい館（青森県平川市）で開催されました『第70回東北地区大学体育大会』に於いて、本学水泳部が男子総合優勝、女子総合準優勝致しました。

男子は昨年に続く優勝となり連覇達成です。

今大会は今年加入の1年生が躍動してチームを盛り上げてくれました。男子では、1500mで幕田敏也（体育学科1年次）が、200m平泳ぎで武山直樹（体育学科1年次）が、400m自由形で反町賢太（運動栄養学科1年次）が、100m自由形で吉田歩夢（運動栄養学科1年次）がそれぞれ優勝し、女子では200m平泳ぎで佐々木柚那（体育学科1年次）が優勝するなどニューフェイスがしっかりと力を出してくれました。



記念写真

また、男子200m個人メドレーでは、奥崎健太（体育学科3年次）が2分04秒36の大会新記録を樹立して優勝、女子100m・200m背泳ぎで石澤七海（体育学科4年次）が初優勝し、加えて生涯ベストタイムを9名が更新するなど、チーム全体で好成績を上げることができました。

女子は惜しくも総合優勝を逃しましたが、初日終了時点では一時首位につけるなど、昨年よりも少しずつ上位校との差が縮まりつつあるのも実感しています。

今大会の結果をきちんと振り返り、課題を解決し、次戦の北部学生選手権（利府）に臨みたいと思います。

<報告：水泳部>

上海体育学院女子サッカー部との国際交流を実施しました



明仙フィールド川平にて記念写真



本学LC棟にて歓迎後、記念写真

5月26日（日）から6月5日（水）まで、上海体育学院女子サッカー部の学生20名と引率者3名が本学に来訪しました。

上海体育学院女子サッカー部は、中国国内の大会で第3位を獲得したことのある強豪チームです。今回の来訪期間中に、本学、明成高校、常盤木学園、八戸学院大学とそれぞれ国際交流ゲームを明仙フィールド川平で実施しました。また、剣道体験やトレーニング方法の講義受講、ベガルタ仙台の試合観戦、松島観光、魯迅の階段教室見学等、日本のならではの体験も行いました。今後とも上海体育学院との幅広い交際交流を行っていく予定です。

<報告：国際交流センター>



トレーニングセンターにて講義を受ける様子



剣道体験



ベガルタ仙台サッカー観戦

瀋陽師範大学 中国伝統スポーツ・文化体験プログラムを実施しました



本学LC棟にて歓迎後、記念写真



卓球交流後、記念写真

6月12日（水）から6月18日（火）まで、瀋陽師範大学の学生12名と引率者2名が中国伝統スポーツ・文化体験プログラムのため本学に来訪しました。今回のプログラムでは、剣道・空手・卓球等の実技や基本的な日本語の講義等を実施しました。また、本学授業の一環として、瀋陽師範大学の学生が、現代武道学科1年生約50名に対し、中国武術パフォーマンス演技を披露しました。演技終了後には、瀋陽師範大学の学生が、本学学生に中国武術について指導を行い、実りある学生間国際交流になりました。

<報告：国際交流センター>



中国武術体験



剣道体験



卓球交流

台東大学卒業式で、ダブルディグリー制度による仙台大学体育学部の学位取得者に学位記を授与

6月15日、朴澤理事長・学事顧問が台東大学卒業式に出席し、同大学からの留学生であった謝智陽さんおよび林姿婷さんに、仙台大学の学位記を授与しました。

卒業式では、卒業生は、男女とも、レンタルの同一式服を着用して式に臨み、各学科卒業代表以外に、成績優秀者、品行方正模範等の学生も表彰を受けておりました。表彰者が、被表彰者の学生が被る式帽を飾るリボンの場所を、右側から左側に手で移すことが、学位取得の証の由で、興味深い景色でした。



台東大学のHPに掲載された報道の日本語訳を転載します。

(台東大学HPより)

卒業の季節がやってきました。台東大学で本日108期生の卒業式が開催されました。今年は2名の学生が台東大学および日本仙台大学のダブルディグリーを取得されたことも注目となりました。

今年2名のダブルディグリーを取得した学生は、体育学科の謝智陽さんおよび運動競技学科の林姿婷さんでした。日本 仙台大学の理事長 朴澤泰治 先生がこの2名の学生の卒業証書を授与するためにわざわざ日本からお越しくださいました。仙台大学在学の2年間で、林さんは、仙台大学においてスポーツマネジメントを専攻とし、謝さんは、コーチングについて学びました。

仙台大学朴澤泰治理事長より、今年卒業された2名の学生が、修学期間中に仙台大学の開学50周年国際イベントに迎えられ台湾原住民踊りを披露し、彩を添えて頂きましたと紹介がありました。理事長からは、2名の学生に卒業証書を授与するとともに、仙台大学からの祝福および今後のご活躍を期待するとの言葉を頂戴致しました。

運動競技学科の林さんは、「大学からの支援により仙台大学に修学する機会を得ることができて、感謝します。仙台大学で修学した2年間で沢山の収穫があり、学業面だけではなく、人との接することや問題解決力などを身につけることができました」と話していました。また、林さんは、在学中に規定課程を修め日本語2級検定試験にも合格しました。彼女は、「日本の文化を含め、自分が体験したことをみんなに伝えたい、それに、今回、仙台大学理事長より卒業証書を授与されたことを大変光栄に思う」と話しました。



村上蔵王町長と駐日パラオ共和国大使館マツタロウ大使が来学し、2020年東京オリンピックの出場を目指すパラオ共和国の柔道強化選手2名を激励

6月7日（金）、村上蔵王町長と駐日パラオ共和国大使館マツタロウ大使がともに来学し、2020年東京オリンピックの出場を目指すパラオ共和国の柔道強化選手2名の事前合宿で南條監督に指導を受けている様子などを視察されました。

トレーニングセンターでは、大使自らトレーニングマシンを体験し選手を激励し、短い滞在時間ではありましたが、柔道部による花道の出迎えや南條監督から選手へ仙台大学の柔道着をサプライズプレゼントなど大使はじめ選手とオリンピック出場を誓い合いました。

<報告：国際交流センター>



記念写真



トレーニングを体験する様子

本学が招聘したマカロワ・マリアさんとセベツ・アリーナさんが柴田町から東京オリンピックホストタウンの親善大使に委嘱されました



6月10日（月）、新体操などの指導者としてベラルーシから本学に招聘しているマカロワ・マリアさんとセベツ・アリーナさんが、朴澤理事長・学事顧問、遠藤学長とともに柴田町役場を訪れ、滝口町長から東京2020オリンピックのホストタウン親善大使の委嘱状を受け取りました。柴田町は、白石市とともにベラルーシ共和国のホストタウンとなっており、ベラルーシ新体操ナショナルチームの事前合宿を受け入れています。現在、チームの演技中の写真や衣装、道具などを展示したパネル展を開催中です。滝口町長は「パネル展を町内3か所の生涯学習センター等で今後2か月間開催するので、これを機会に多くの町民の方々に足を運んでいただき、全員でベラルーシを応援し、来年のメダル獲得につなげていきたい」と挨拶され、二人も親善大使として協力していくことを約束していました。

本学が招聘したマカロワ・マリアさんとセベツ・アリーナさんが白石市から東京オリンピックホストタウンの親善大使に委嘱されました



6月19日（水）新体操などの指導者としてベラルーシから本学に招聘しているマカロワ・マリアさんとセベツ・アリーナさんが、遠藤学長、高橋副学長とともに白石市役所を訪問、山田市長から東京2020オリンピックのホストタウン親善大使の委嘱状が手渡されました。白石市は、柴田町とともにベラルーシ共和国のホストタウンとなっており、ベラルーシ新体操ナショナルチームの事前合宿を受け入れています。

6月10日（月）には柴田町から同様の委嘱状が手渡されており、今後、2020東京オリンピックに向けて、ベラルーシ新体操チームのホストタウンとなっている白石市・柴田町のホストタウン運動の展開に大きな役割を果たすことが期待されています。

「留学生日本文化体験ツアーin会津若松市」を開催！！



鶴ヶ城前にて記念写真



ツアー中の様子

6月8日（土）に毎年恒例の留学生日本文化体験ツアーで福島県会津若松市に行ってきました。日本文化体験ツアーは留学生に日本文化の良さを実感してもらおうという趣旨のもと毎年行っており、今回は本格的なお城である鶴ヶ城の見学へ留学生12名、職員7名、学生ボランティア1名の総勢20名で会津若松市へ行ってきました。

会津若松市へ到着後、まずは昼食で会津若松市の名物であるソースカツ丼を全員で食べました。初めて食べる留学生が多かったのですが、みなさんソースカツ丼のおいしさに感動し完食していました。昼食後、鶴ヶ城天守閣、県指定重要文化財である茶室麟閣へと見学へ行きました。鶴ヶ城では、銃や甲冑などの展示物や、会津藩や白虎隊などに関する歴史資料があり、留学生は日本の歴史をしっかりと学んでいて興味を示していました。その後天守閣の一番上まで上り、飯盛山や会津若松の景色を留学生たちはとても楽しそうに見ていました。茶室麟閣では千利休の子が建設したといわれている茶室を見学した後、抹茶と和菓子を頂きました。店員さんに抹茶の飲み方を教わり、正しい作法で美味しくいただきました。

鶴ヶ城、茶室麟閣を見学した後、国指定名勝の御薬園へ行き、日本庭園を見学しました。御薬園は約150年前の戦いの傷跡が残っており、歴史を感じさせる庭園でした。庭園内を無料のボランティアガイドの方に説明をしていたので、留学生も真剣に聞き入っており、非常に貴重なものを見せていただきました。

今年度の日本文化体験ツアーは留学生にとってまたとない貴重な学びの機会になりました。また、今回はツアーに行く前日に1時間ほど幕末の会津戦争などの歴史背景を参加した留学生および本学学生ボランティアにレクチャーしたことで、当日の見学がより深く理解できたようです。留学生にはこれからも日本の良さをたくさん知ってほしいので、今後も日本の文化や歴史を学べる場を提供し、且つ本大学の学生との交流の場を増やしていきえるように努力してまいります。

<報告：学生支援センター 櫻井一樹>

体操競技部：南、五輪も夢じゃない／床で全日本チャンピオン

本学体操陣がついに日本一。第73回全日本体操競技種目別選手権大会は6月23日（日）、群馬県高崎市の高崎アリーナで男女の決勝を行い、男子の床運動で南一輝（体育2年）が優勝を果たしました。これに伴い同選手の東京五輪への道も開けてきました。

前日の予選をトップとした南は決勝の演技も高度な宙返り連続の着地を次々とまとめるなど、15.033の高得点をマーク。同種目の大会7連覇を目指した白井健三選手（日体大大学院、3位）らを抑えての頂点です。南は床運動のスペシャリストだけに残念ながら世界選手権の代表入りこそ逃しましたが、種目別で東京五輪につながるワールドカップシリーズの2大会出場権を獲得するとともにナショナル強化指定選手に選ばれました。

本学勢はこのほか、同じ床運動で青木翔汰（体育3年）が4位にくい込む健闘を見せてくれました。体操競技部はこれらの勢いを来るインカレ（8月20～22日・山口市）にぶつけるつもりです。

<報告：体操競技部>



床運動で力強く華麗にまとめた南の演技

サッカー部：横浜FCに内定した松尾佑介選手の記者会見を開催しました

6月17日（月）LC棟1階にて横浜FCに内定しました松尾佑介選手の入団会見を開催しました。

松尾選手は「これから横浜FCという素晴らしいチームで成長させてもらえることに期待を抱いています。プロは結果が求められる世界だと思うので、自分の武器である1対1での勝負をもっと伸ばしていきたい、チームの力になれるように頑張りたいと思います」とコメントしました。

またJFA・Jリーグ特別指定選手として承認され、6月29日（土）に実施された横浜FC対ファジアーノ岡山戦でJリーグデビューをしました。

プロフィール

松尾佑介（YUSUKE MATSUO / MF）

生年月日：1997年7月23日（21歳）

身長/体重：170cm/65kg

出身地：埼玉県

チーム歴：

2004－2009 戸塚フットボールジュニアクラブ（川口市立戸塚東小学校）

2010－2012 浦和レッズU-15（さいたま市立桜木中学校）

2013－2015 浦和レッズU-18（さいたま市立大宮西高等学校）

2016－2019 仙台大学

選抜歴

2018 東北選抜（デンソーカップ）

2019 東北選抜（デンソーカップ）

特徴：

相手のDFの状況を見ながらスペースを見つけスピードに乗った緩急のあるドリブルでチャンスを作り出せる選手。

背番号：37番

その他：松尾佑介選手は2020シーズン横浜FCへの加入が内定しております。



松尾佑介選手



内定会見時、サッカー部員から祝福を受けた後、記念写真

* JFA・Jリーグ特別指定選手とは：

目的： サッカー選手として最も成長する年代に、種別や連盟の垣根を超え、「個人の能力に応じた環境」を提供することを目的とする。

概要： 全日本大学サッカー連盟、全国高等学校体育連盟サッカー部、またはJクラブ以外の大学運営（学校法人）のチームに所属する学生選手、もしくは日本クラブユースサッカー連盟の加盟チームの所属選手を対象に、JFAが認定した選手に限り所属チーム

登録のまま、Jリーグ等の試合に出場可能とする。

楽天生命パーク宮城にて第3回スポーツ施設見学会が開催されました



<写真1> 正面玄関にて集合写真



<写真2> 经营理念などマネジメントの講義



<写真3> 球場内を移動しながら天然芝生の生育を確認

6月23日（日）に楽天生命パーク宮城において「スポーツ施設管理概論」及び「スポーツターフ管理概論」の授業の補講として施設見学会が行われました。

この授業は、スポーツ施設管理の法的規制や基本事項を学ぶとともに、県内にあるスポーツ施設を実際に見学して知識修得を促進するものであり、昨年に仙台大学と楽天野球団との間で締結したアカデミックパートナーシップの一環として、楽天生命パーク宮城の見学会は3回目の開催となりました。

担当の小島文雄体育施設管理コンサルタント兼非常勤講師の引率の下、41名の学生が参加いたしました。

冒頭、株式会社楽天野球団ボールパークエンターテイメント部 松本 有 部長より、楽天野球団の戦略、スタジアムのコンセプト、安全管理体制等に関する講義を受け、その後球場や管理施設を見学し、実際に使用している天然芝生やグラウンド整備の機械や、グラウンドの芝生の生育状態を確認しました。

参加した学生からは「今回初めて見学会に参加できて、理解が深まり、とても感謝しています。特に普段見ることが出来ない芝生の管理やサブエアーシステム（芝生の床に暖房した空気を送風したり雨水を吸引したりするシステム）を学ぶことができたことは大変貴重な体験でした。」と感謝の声が多く上がっていました。

この見学会は今秋に第四回目を開催する予定となっています。

「一般社団法人全国体育スポーツ系大学協議会総会」及び「全国体育系大学学長・学部長会議総会」開催（幹事校：大阪体育大学） —2020東京オリ・パラを来年に控えた体育系大学の課題と展望を論議—

5月23日、大阪体育大学を幹事校として「一般社団法人全国体育スポーツ系大学協議会総会」（会長：日本体育大学 松浪健四郎理事長）が開催され、朴澤理事長・学事顧問と遠藤保雄学長が出席されました。

この協議会は体育系大学の経営者等で構成され、教学組織の長で構成される「全国体育系大学学長・学部長会議」とともに体育系大学における教育研究並びに管理運営等に関する事項について協議し、相互の連絡・理解・親睦を図り、体育スポーツ・健康科学の向上発展に寄与することを目的に活動しています。

総会では、大学無償化・UNIVAS・来年に迫った2020東京オリ・パラなど、それぞれ重要な項目に関して活発な意見交換がなされました。特に協議会会長の松波健四郎日本体育大学理事長は、UNIVASから参加した池田専務理事・仙台大学教授によるUNIVAS創立後の大学スポーツ振興に向けた取組の状況の説明に対して、予算措置を含めた具体的実施内容、加入メリットの明確化その他、事前の協議会理事会で示された各種意見を集約した要望に言及するなど、協議会の立場を踏まえた挨拶を行いました。

翌5月24日に「全国体育系大学学長・学部長会議総会」（会長：国際武道大学 高見令英学長）が開催され、遠藤保雄学長が参加されました。

先ず、2019年秋頃 UNIVASに関連した講演会等を予定する、また、「全国体育系大学学長会・学部長会」と「全国体育スポーツ系大学協議会」との関わりを検討するプロジェクトチームの設置の検討を進めるという事業計画が採択されました。

次に、今回の会合では特に、UNIVASに関する意見交換が行われ、出席する全大学から各種の意見が提起されました。その主要なやり取りは、「UNIVASに加盟することで安全安心や文武両道をめざす良いきっかけとなる」

「UNIVASに加盟することで、地方にある体育大学の存在価値を高めたい」「米国のUNIVASのイメージが強すぎるので日本の実情にあった中味にしていくべき」「強化指定クラブを作り、学生募集に効果的に働くことを期待する」等多様な意見が出され、日本大学スポーツの振興に果たすべきUNIVASの役割として、どこに焦点を置いて取り組むべきなのか、今後の展望と課題が浮き彫りになりました。

本学から出席した遠藤学長は、「米国の例を見てもUNIVASは100年の計、競技スポーツ・レクリエーションスポーツ・それ以外の学生へのスポーツ習熟、大学体育の必修の重要性など多様な視点で取り組むべきではないか」とコメントするなど、各大学のUNIVASに対する率直な意見交換の場になったようです。

今回は東京オリンピック・パラリンピック直前の2020年5月28日（木）～29日（金）に国士舘大学を幹事校として開催される予定で、国をあげて取り組むスポーツの祭典へ体育大学全体として大きな貢献が期待されます。



「東京おもちゃショー2019」に出展

6月13日（木）～16日（日）（一般公開日は15日と16日）に東京都江東区有明の東京ビックサイトにおいて、東京おもちゃショー2019が開催されました。これは国内外のおもちゃを一同に集めた展示会になっており、一般公開日の来場者数は2日間で135,245人でした。その中で子ども文化の発展に賛同する企業や団体を集めた「キッズライフゾーン」に、今回で7回目となる本学のブースを出展しました。

今年はニュースポーツであるバグジーを展示しました。バグジーはあまり知られていないのか、本学のブースを訪れた家族連れや海外の方は、興味津々に挑戦していました。穴に入れるという難しさに首を傾げる場面もありましたが学生スタッフがコツを教えると、小さな子どもたちも何度もブースに足を運ぶなど、気軽に楽しめるバグジーは好評だったようです。学生スタッフたちの活躍により2日間で約2500人もの方々に満喫いただくことができました。

<報告：学生支援室 須田千晶>



南條充寿学科長がユアサ商事（株）の招きにより講演しました 「オリンピックから見る日本競技スポーツ界の現状と課題」



6月13日（木）ユアサ商事株式会社の招きにより、南條充寿・現代武道学科長（仙台大学柔道部総監督・仙台大学柔道塾長・前全日本柔道女子監督）は仙台国際ホテルにて「オリンピックから見る日本競技スポーツ界の現状と課題」と題した講演を行い、約60名の方が熱心に耳を傾けました。

最初に南條学科長は「1964年の東京オリンピックでオリンピックの正式な競技となった柔道は、人間教育と競技力向上を目的に日本で生まれたスポーツとして、より輝きの良いメダルをとることが至上命令です。日本の柔道界がさまざまな不祥事を経て困窮していた時に、恩師である亡くなられた斎藤先生から自分が全日本柔道女子監督に抜擢されて以来、とにかく選手たちにオリンピックでメダルを取らせることだけ大目標として必死に取り組んできました。

みなさんはスポーツに対して華やかなイメージを持つでしょうが、実は学校体育と企業集団に支えられています。国がオリンピック選手への経済的な支援をはじめとした手厚い保護を確立している他国の例と違い、Team Japanとしてオリンピックの選手に選ばれたとしても、各選手が各企業に所属しているという日本独特の難しさがあり、柔道の現場でコーチングするよりもむしろ、強化選手の選考及び強化計画の立案・実践・評価・海外の現状の情報収集・所属との関係といった選手たちのマネージングをすることがメイン業務でした」と話しました。

3年前リオデジャネイロオリンピックでは、女子金メダルがないまま迎えた70Kg級の田知本選手が14名のうち、ただ一人、これまでオリンピックや世界選手権大会でのメダル獲得経験がなく、強豪選手が1番多く存在する階級にいながら、一戦一戦勝ち上がり、最後に見事、日本中が待望していた金メダルを手中におさめるとい劇的なドラマがあったのは記憶に新しいところですが、その直後、南條学科長が最初に田知本選手にかけた言葉は「おめでとう」でも「よくやった」でもなく「あまり調子に乗らぬよう、ここからがお前の評価のスタートだぞ!」と、田知本選手もまさかの予想外の一言だったそうで、南條学科長のなんとユーモラスなお人柄に、会場は笑いの渦に包まれました。

次に、来年に迫った2020東京オリンピックの課題として、南條学科長は、柔道人口が減っている現実に警鐘を鳴らし、長い目で見た柔道の魅力を発信し、柔道をしたいと思う子どもたちをいかに増やしていくかが大切と語りました。今、最も人気のある競技はバドミントンや卓球だそうです。谷亮子選手に代表される誰もが憧れる、目標とされる選手がいない危機感。新聞・テレビといったマスコミの方々と連携し、スター選手の発掘・育成の必要性を説き、保護者が「柔道は危険だからだめ」と子供たちに勧めなくなった現実を指摘し、柔道界のイメージアップが急務であると話しました。

今後、世界で戦うためには、日本人の強みである「高い技術力」をさらに強化しTeam Japanとしてサポートメンバーの充実、ナショナルトレーニングセンターの活用といった戦略が必要だそうです。

また、指導者の待遇について南條学科長は、諸外国との違いについて触れ「仙台大学の教員でありながら監督に就いたらほとんど大学にいたことができず、多大なご迷惑をおかけするであろうことは承知で“全力を出してやってきなさい”と力強く背中を押してくださった朴澤泰治理事長・学事顧問（当時は理事長兼学長）に、心からお礼申し上げます」と謝意をのべました。

講演の主催者でユアサ商事株式会社・建機本部長の居木哲也氏は「南條先生のご経験は、弊社における人材育成に通じる大変興味深い示唆にあふれていました。新入社員をどう育てていくかは大きな課題なので、今日教えていただいたことを社内全体で広めていきたいです。」とおっしゃっていました。

2020東京オリンピック・パラリンピックに向け、またその先を見据え、柔道をはじめとした次世代のオリンピック選手輩出および人材育成に、仙台大学はますます真摯にとりくんでいくことを伝える貴重な場となりました。

天然芝生とは

【天然芝生】とは、『丈が短く細かい葉を密生させる草が集まり、ある程度まとまった広がりで地面を覆っている部分』（浅野義人・河東正広2005「芝生」NHK出版）を指します。または、『イネ科植物およびその他の繊細な植物で被覆され、それらの多量の根、あるいはほふく茎で満たされた土壌の表層部分』（佐藤節郎2018「芝草管理技術者研修テキスト第14回3級第2章芝草入門1. 芝生と芝草の定義」日本芝草研究開発機構）と定義されます。【天然芝地】は同義語であるとされており、広義にはグラウンドカバーの一つと言えるでしょう。庭園や公園、サッカーなどの球技場、そしてゴルフ場には、緑のじゅうたんを敷き詰めたような芝生が欠かせないものとなっています。

【天然芝生】の英語表記には、主にturf（ターフ）とlawn（ローン）が充てられ、Turfはlawnより緻密に管理された芝生を指すことが多いようです。芝生を構成する植物である芝草には、turf grassとlawn grassが充てられます。

【天然芝生】は、ヒツジやウシ、ウマ等の家畜の放牧地に生える草が起源となっています。そんな中で生き残ることができるのは、生長点が地際の低い位置にあり、また地面や地中を伸びる匍匐茎を持つ植物だけです。長く放牧が続いた場所では、そうした特性を持つイネ科植物だけが生き残り、背丈の低い密な群落が出来上がり、これが【天然芝生】の原形です。人間が刈り込みを行って、家畜が食べる代わりにしているのが【天然芝生】と言うわけです。

1. 噴水周り天然芝生《Aブロック（正門隣）、Bブロック（三体前）、Cブロック（四体前）》

＜6月に行なった管理＞ (1) 乗用3連ロータリーモアによる草刈 (Putting Greenを含む)



＜写真1＞ Aブロック草刈り後開放



＜写真2＞ Bブロック草刈り後開放



＜写真3＞Cブロック草刈り後開放



＜写真4＞匍匐茎伸長状況

2. 第二グラウンド、天然芝生ラグビー・アメリカンフットボール場

維持管理実習

安全管理の注意事項を説明した後で3ゾーンに区分けしたところに3班に振り分けた学生が20分ごとに移動してそれぞれの機械などに乗車して操作の実習

Aゾーン（高橋）：乗用3連リールモア操作

Bゾーン（八巻）：手引きリールモア10台操作及びポットに播種作業

Cゾーン（野口）：乗用3連ロータリーモア操作

全 体（小島）：総括・進行・安全管理見回り

- ＜6月に行なった管理＞
- (1) 乗用3連ロータリーモアによる草刈, 3回
 - (2) 乗用3連リールモアによる草刈, 2回/週
 - (3) 散水: スミレインの孔明ホース (50mm×100m)
 - (4) 手引きスプレッダーによる肥料散布
 - (5) 除草ホークを使用して人力による雑草抜根



＜写真5＞ 乗用3連リールモア草刈り機操作
後方にロータリーモアグループ
最後方に手引き式リールモアグループ



＜写真6＞手引き式リールモア (10台) による実習



＜写真7＞乗用3連ロータリーモア草刈り機操作



＜写真8＞ポットに寒地型種を播種して生育を観察

川平キャンパスAT・S&CLレポート

「高校スポーツの安全を守る」Vol. 15

担当：浅野 勝成 助手

スイカをモチーフにした氷菓がコンビニに並び始める初夏の時期、肌で感じる暑さ以上の熱い気持ちがぶつかりあった戦いが繰り広げられました。高校総体宮城県大会が5月末から6月初めに開催され、トレーニング指導を担当させて頂いている5つの部活動が頂点を目指して戦いました。

過去2年間に積み上げてきた成果を存分に発揮する場で、負ければ引退する選手も。それだけに3年生がこの大会に掛ける想いはとてつもなく強いです。ですが、競技スポーツとは酷なものです。

東北大会を目指して励んできた投てき選手、数センチの差で出場を逃してしまい引退となりました。ベスト4入りを目指した男子バレーボール部は準々決勝にてフルセットの末、惜しくも敗れました。一方で、昨年よりも順位を上げてきた女子サッカー部、東北大会出場者数を増やした陸上部長距離ブロック、そして3年ぶりに全国への切符を手にした女子バスケットボール部。涙を吞んだ者もいれば、歓喜に沸いた者も。

大会が終われば次への準備がすぐ始まります。優勝を決めた日の翌朝6時半からウエイトトレーニングに取り組んで全国という舞台で更なる飛躍を目指す選手達もいれば、冬の大会でリベンジを果たすべくスタッフミーティングをすぐに行いたいという顧問の先生方も。悔しさを糧に、喜びをバネに、それぞれの部活動が次のステージに向けて進んでいます。

ストレングスコーチとして改めて感じたことは、高校生が競技スポーツに打ち込める期間が約2年と非常に短いということ。最高のパフォーマンスを発揮するには、質の高い競技練習を短い期間で繰り返すのみです。それには怪我に負けない強い身体が必要であり、強靱な身体の構築には日頃の適切なトレーニングはやはり欠かすことは出来ません。

今大会では喜びと悔しさが入り混じっていますが、今後は選手達の喜びの数を増やすべく、より質の高いサポートを施していきます。

次回は明成フェスティバルについて (担当：白坂)

Monthly Report

今年で3回目となるベラルーシ新体操ナショナルチーム公開演技会を開催しました



第2回ヨーロッパ・オリンピック大会で団体総合 金メダルメンバーの演技

7月27日（土）本学第五体育館を会場に東京2020オリンピック・パラリンピック出場とメダル獲得を目指すベラルーシ新体操ナショナルチームの公開演技会「SAKURA CAMP2019」が開催され、会場に訪れた700名の来場者は世界トップクラスの演技に魅了されました。

ベラルーシ新体操ナショナルチームは今年6月にベラルーシ共和国ミンスク市で開催された第2回ヨーロッパ・オリンピック大会で団体総合 金メダル、個人総合 銅メダルなど計五つのメダルを獲得するほどの強豪国で、9月に開催される世界選手権（アゼルバイジャン・バグー）では、東京2020オリンピック・パラリンピック出場権の獲得を目指しています。

今回は、第3回目ということで、白石市・柴田町のホストタウン親善大使のマカロワ・マリアさん、セベツ・アリーナさんの企画で、A棟に「がんばれベラルーシ」のロシア語標記ののぼりを掲げるとともに、第五体育館の会場正面には、ベラルーシ共和国の風景写真、民族衣装、第2回ヨーロッパ・オリンピック大会のマスコットなどを飾って、来場した方々に交流の雰囲気を味わっていただきました。

「SAKURA CAMP2019」は7月24日（水）～8月3日（土）まで行われ、本学の他に、白石市や今年4月22日（月）に白石市・柴田町・仙台大学 東京オリ・パラ事前合宿招致推進協議会と協力協定を締結した立川市（東京都）でも事前合宿を行うこととなっています。



カチェリーナ・ガルキナ選手の演技



記念写真

＜ 目 次 ＞

・今年で3回目となるベラルーシ新体操ナショナルチーム公開演技会を開催しました	1・2
・日本野外教育学会第22回大会（宮城）が開催されました	3
・本学教員の髙橋徹講師が若手優秀発表賞を受賞しました ・東北地区大学体育大会 14年ぶりに優勝しました	4
・保科 魁斗(体育学科4年)が種目別で優勝 ・スポーツ起業論の授業内容を紹介します ・日本人初NBAドラフト9番目指名 八村 塁選手の御礼（ゴンザガ大学を表敬訪問）	5
・スポーツコードを用いた集中講義を行いました ・ベラルーシ新体操チーム事前合宿に向けたデモンストレーションを開催しました	6
・東京2020ホストタウン親善大使が髙橋副市長（仙台市）を表敬訪問しました ・みやぎ県民大学実施	7
・「健康タウンしばたプロジェクト+2019」がはじまりました ・大学ビーチバレーボール東北ブロック予選会結果	8
・UNLV視察及び米国NATA2019視察報告	9
・今年も学内で熱中症予防を呼びかける ・硬式野球部員3名が、脱輪車を救助 ・第43回総理大臣杯全日本サッカートーナメント東北予選優勝!! 全国大会出場決定!!	10
・「仙台大塾」を開講しました ・まると募集イベントが実施されました	11
・カリフォルニア州立大学ロングビーチ校短期留学生受入れ ・国際交流：上海体育学院卓球サマースクールに2名の学生が参加しました	12
・「キャンパスライフサポートグループ」による交流活動を実施	13
・芝草通信 NO. 4	14
・「高校スポーツの安全を守る」Vol. 16 ・V1リーグチームにアナリストとして同行しました	15

学生の活躍や、取り組みなどをご存知でしたら広報室までお寄せください。

Monthly Reportで紹介する他、報道機関にも旬な話題を提供して参ります。

本誌へのご意見・ご質問等がありましたら広報室までご一報ください。

仙台大学 広報室

直通 0224 - 55 - 1802

Email kouhou@sendai-u.ac.jp

○ベラルーシ新体操公開演技会の様子



日本野外教育学会第22回大会（宮城）が開催されました

6月21日（金）～23日（日）、日本野外教育学会第22回大会（宮城）が、仙台大学をメイン会場として開催されました。全国・海外から、160名をこえる参加者が仙台大学に集い、東北の歴史や文化、震災時の経験やその復興過程などから学び、野外教育の未来について考える有意義な時間となりました。

金曜日は、エクスカージョンとして貞山堀でのEポートや、先日開通したばかりのみのちのく潮風トレイルのウォーキングなどを楽しみました。土曜日の午前中は、会員による自主企画シンポジウムが行われ、「『青少年の野外教育の充実について』の成果と今後に向けた課題」、「野外教育における心理臨床的アプローチ」、「野外教育を体系化する試み」、「東北における自然保育の可能性」など7つの企画が開催されました。

土曜の午後は、基調講演の講師として、震災時国土交通省東北地方整備局長として現場を指揮した徳山日出男氏をお招きし、「災害列島の生きる-東日本大震災の教訓-」というタイトルでご講演いただきました。その後は、「東北の昔・今から、野外教育の未来を考える」というテーマで分科会を開催しました。昔（宮沢賢治の自然観）・今（今を動かす野外の力）・未来（AI社会における野外教育）という3つの視点で、それぞれの知見を深めました。夜はホテル原田にて盛大な懇親会が行われました。

日曜日には35題の口頭研究発表、18題のポスター研究発表、11題のポスター実践報告が行われ、研究や実践についても大いに議論を交わすことができました。今大会から新設された若手優秀発表賞には、本学の高橋徹先生の「デューイの教育的視座からの野外教育の再評価」が選ばれました。高橋徹先生、おめでとうございます！仙台大学から、教員3名（岡田、高橋徹先生、三谷先生）、修了生1名（堀松）、大学院生2名（松谷、渡邊）が発表しました。若手優秀発表賞へのエントリーは最多の4名であり、高橋先生が受賞されたこともあり、「仙台大学でも研究を行っている」と印象付けられたと思います。

すぐれた実行委員会は東北にゆかりのあるメンバー10名で構成されましたが、岡田の他に、柴田卓（本学修了生・本学非常勤講師・郡山女子短期大学）、川田泰紀（一昨年修了・仙台YMCA）、堀松雅博（昨年修了・びわこ成蹊スポーツ大学助手）など、仙台大学関係者が大活躍してくれました。また、岡田研究室の学生10名が、大会運営スタッフを務めてくれましたが、元気で、テキパキ動く学生スタッフは、参加者からも好評でした。

開催にあたっては、朴澤理事長・学事顧問・遠藤学長をはじめ、多大なご支援をいただき、ありがとうございました。学内の施設利用についても、様々な方々に便宜を図っていただきました。この場を借りて厚くお礼申し上げます。本学での学会大会開催のノウハウを蓄積することができましたので、今後そのような機会がある場合はお声がけください。学会用の報告書など現在作成中ですので、もし講演内容や発表内容など、ご興味のある方は、岡田までお声がけ願います。

<報告者：岡田成弘准教授>



日本野外教育学会第22回大会で、本学教員の高橋徹講師が若手優秀発表賞を受賞しました

6月22日（土）、23日（日）に日本野外教育学会第22回大会が開催され、本学教員の高橋徹講師が若手優秀発表賞を受賞しました。

題目

「デューイの教育論的視座からの野外教育の再評価」

日本野外教育学会にて若手優秀発表賞を頂けたことを大変光栄に思います。

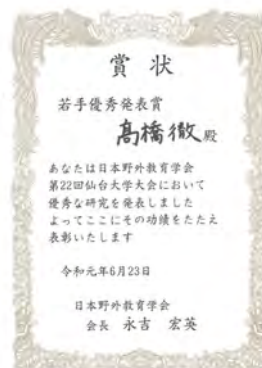
今回の発表内容は、野外教育の発展に思想的な影響を与えたとされるアメリカの教育哲学者J. デューイの教育理論を読み解くことで、野外教育の社会的意義を明らかにするというものでした。

自分自身が専門としている領域とは異なる学会での発表ということで不安もありましたが、学会員の皆様にはあたたかく迎え入れて頂き、ご指導・ご助言を頂きました。今回の学会で得た経験が、新たな研究の方向性を見出すきっかけにもなったように感じます。

今回の受賞を励みにし、今後より一層真摯に研究活動に取り組んでいきたいと思ひます。



左から高橋 徹 講師、野外教育学会理事長の星野 敏男 様



女子バスケットボール部：東北地区大学体育大会 14年ぶりに優勝しました

6月28日（金）～30日（日）に東北地区大学体育大会が行われ、14年ぶりに優勝しました。今大会は本学が試合会場だったこともあり、いつもに比べ練習してきた成果を十分に発揮できたと思います。大会中は後半戦になるにつれ、厳しい戦いになりましたが、私たちの持ち味の声を出し続け、最後まで気を張って集中したことが優勝に繋がり、自信となりました。

今後は、第95回天皇杯・第86回皇后杯 全日本バスケット選手権大会や第20回東北大学リーグ戦の大会があるので、引き続き応援をよろしくお願いいたします。



・1回戦

仙台大学 97 (32-9 21-21 21-12 23-12) 54 弘前大学

・準決勝

仙台大学 88 (24-12 27-11 20-22 17-19) 64 富士大学

・決勝

仙台大学 88 (25-21 24-17 22-22 17-11) 71 八戸学院大学

<女子バスケットボール部>



集合写真



大会中の様子

ウエイトリフティング部：令和元年度第47回東日本大学対抗ウエイトリフティング選手権大会 男子109kg級 保科 魁斗（体育学科4年）が種目別で優勝！トータルでも準優勝！

6月28日～30日に第47回東日本大学対抗ウエイトリフティング選手権大会が開催されました。

男子は、109kg級 保科魁斗(4年)が種目別クリーン&ジャーク競技で優勝、トータルにおいても準優勝、61kg級 戸嶋響愛(2年)がトータル4位、橋本豊夢(2年)がトータル8位に入賞しました。

大学対抗戦で普段の試合よりも緊張感がありましたが、その中でも学生たちは奮闘してくれました。結果詳細につきましては、以下の通りになります。

【男子】

・61kg級	戸嶋 響愛 (2年)				
スナッチ	4位入賞	クリーン&ジャーク	4位入賞	トータル	4位入賞
・61kg級	菊地 亮雅 (1年)				
スナッチ	11位	クリーン&ジャーク	9位	トータル	9位
・67kg級	叶野 龍聖 (1年)				
スナッチ	10位	クリーン&ジャーク	9位	トータル	9位
・81kg級	松浦 涼太 (2年)				
スナッチ	9位	クリーン&ジャーク	10位	トータル	9位
・89kg級	橋本 豊夢 (2年)				
スナッチ	8位入賞	クリーン&ジャーク	6位入賞	トータル	8位入賞
・109kg級	保科魁斗 (4年)				
スナッチ	3位	クリーン&ジャーク	優勝	トータル	準優勝

団体戦 第9位

<報告：ウエイトリフティング部>



写真左：保科 魁斗 選手（体育学科4年）

スポーツ情報マスメディア学科： スポーツ起業論の授業内容を紹介します！

スポーツ情報マスメディア学科では、本年度もLC棟1階でスポーツ起業論（2年生・前期選択科目）を開講しています。この科目は、アナリスト、メディアディレクター、スポーツカメラマン、チーム広報担当者などをゲストスピーカーとして招聘し、講師の方々の体験談から多様なものの見方や考え方を学ぶことを目的としています。

6月20日（木）は、株式会社スマートスポーツエンターテイメント代表取締役の原口攻太さんをお迎えして授業を行いました。原口さんは34名の受講生に向けて「現在の業務を通じた社会課題への挑戦」、「スポーツにおけるメディアと広報の役割」、「アイデアと企画力の大切さ」などを伝えてくださり、学生たちはスポーツ現場の広報とマネジメントについて知見を深めました。

<報告：スポーツ情報マスメディア学科>



株式会社スマートスポーツエンターテイメント代表取締役の原口攻太さん

日本人初NBAドラフト9番目指名 八村 塁選手の御礼（ゴンザガ大学を表敬訪問）

朴澤理事長・学事顧問が7月15日（月）、米国のゴンザガ大学を訪れ、NBAドラフトで日本人で初めて9番目指名された八村塁選手の学生生活などについて同大関係者と懇談しました。八村選手はご存知のように本学併設の明成高校からゴンザガ大学に進学。3年間NCAAトーナメントなどで活躍した逸材です。

朴澤理事長・学事顧問はゴンザガ大学の学長やヘッドコーチらと会い、「八村選手が成長できたのは皆さまのおかげです」と感謝の意を伝えました。ゴンザガ大学側からは八村選手の人柄の良さを称賛する言葉が多く聞かれ、話が弾みました。

懇談では、朴澤理事長・学事顧問から八村選手の高校時代の勇姿が写真として刻まれた雄勝石の記念品を関係者に贈呈し喜ばれました。



スポーツ情報マスメディア学科：スポーツコードを用いた集中講義を行いました



講義中の様子

スポーツ情報マスメディア学科3年次に開講している「スポーツ情報戦略論演習A（前期選択科目）」は、情報を戦略的かつ効果的に活用するための考え方やスキルを身につけることを目的としています。本年度は前半にダートフィッシュ、後半にスポーツコードを用いて一連のパフォーマンス分析活動に取り組むなど、実践的に学びを深めています。

7月6日（土）は、日本総代理店としてスポーツコードを取扱う有限会社フィットネスアポロ社から川口雄大さん、松平竜馬さん（本学科8期生）、hudl社から高林諒一さんにお越しいただき集中講義を行いました。この日はゲスト講師の方々に、基礎的スキルの確認と受講生ひとりひとりの分析テーマに応じた個別指導をしていただきました。受講生は今月17日（水）の分析発表に向けて、操作面だけでなく様々な競技の活用事例等も積極的に質問し、自身の分析に活かしていました。

※スポーツコードとは

アメリカのhudl社が提供するソフトウェアで、分析項目をカスタマイズすることができる。NBAでは30チーム中29チーム、サッカープレミアリーグでは全チームで活用されている世界標準のゲーム分析ツール。

<報告：スポーツ情報マスメディア学科>

SAKURA CAMP2019ベラルーシ新体操ナショナルチーム事前合宿に向けたデモンストレーションを開催しました

2020東京オリンピック・パラリンピックに向けた「SAKURA CAMP2019 ベラルーシ新体操ナショナルチームの事前合宿」を盛り上げる為、本学新体操競技部と白石市・柴田町のホストタウン親善大使であるマカロワ・マリアさんと、セベツ・アリーナさんが7月4日（木）柴田町立槻木中学校、7月5日（金）柴田町立船岡中学校で新体操やベラルーシの魅力を伝えました。

○7月4日（木）柴田町立槻木中学校



フープとクラブを使った演技の様子



7月27日（土）本学で開催するSAKURA CAMP2019 公開演技会を紹介しました



マカロワ・マリアさんがベラルーシについての質問に答える様子

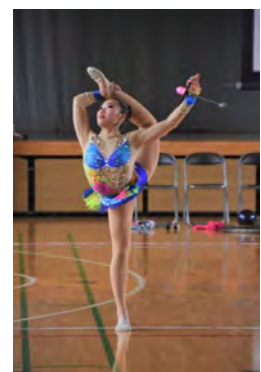
○7月5日（金）柴田町立船岡中学校



ボールを使った演技の様子



体験会でフープを紹介するマカロワ・マリアさん



クラブを使った演技の様子

東京2020ホストタウン親善大使のマカロワ・マリアさんとセベツ・アリーナさんが高橋副市長（仙台市）を表敬訪問しました

本学が招聘し、ベラルーシ新体操チームを応援することを目的として、白石市・柴田町の東京オリンピック・パラリンピックホストタウン親善大使であるマカロワ・マリアさんとセベツ・アリーナさんが7月9日（火）、宮城・ベラルーシ友好協会長 天江 新六郎 様、遠藤 保雄 学長、青沼 一民 副学長とともに高橋 新悦 副市長（仙台市）を表敬訪問しました。

はじめに遠藤 学長がマカロワ・マリアさんとセベツ・アリーナさん及びベラルーシ共和国と新体操の歴史について紹介され、「ミンスク市と縁がある仙台市の皆様にもベラルーシ新体操ナショナルチームを応援して頂きたい」と話しました。

次にマカロワ・マリアさんは「今年で3回目のSAKURA CAMP2019が白石市・柴田町で行われ、27日には本学で公開演技会を開催します。是非皆さん来てください」と紹介され、高橋 副市長は「1976年からミンスク市との交流があります。機会がありましたらSAKURA CAMP2019を是非見に行きたいです」とお話し下さいました。今年の「SAKURA CAMP2019ベラルーシ新体操ナショナルチーム事前合宿」は7月24日（水）から8月3日（土）まで白石市ホワイトキューブと本学で行われ、7月27日（土）には本学第5体育館で公開演技会を開催します。皆様、是非お待ちしております。



写真 左3番目からマカロワ・マリアさん、高橋副市長、セベツ・アリーナさん



7月24日から行われる「SAKURA CAMP2019ベラルーシ新体操ナショナルチーム事前合宿」を紹介する様子

運動栄養学科：みやぎ県民大学実施



カルシウム満点メニューを作る様子



骨粗鬆症予防について学ぶ参加者

みやぎ県民大学が7月13日（土）、本学の運動栄養学科が協力して本学で開催されました。

「家族の栄養について考えよう」がテーマで、成長期の子どもや骨粗鬆症予防のために必要なカルシウムについて学びました。

参加したのは仙南地方を中心に小学生を持つお母さんたち。「孫のために頑張ろう」とおばあちゃんたちもエプロン姿で加わっていました。子どもを含めると総勢12人。じゃこ入りピザやミルクポテトサラダといった「カルシウム満点メニュー」を作り、名コックぶりを発揮しました。

子どもたちからは「いつもは食べられないお野菜も今日は残さず食べたよ」と満足そうな声が聞かれました。
＜報告：運動栄養学科＞

「健康タウンしばたプロジェクト+2019」がはじまりました



開校式後、健康運動教室で体を動かす様子

7月14日（日）LC棟で「健康タウンしばたプロジェクト+2019」の開講式と第1回目となる健康運動教室を開催いたしました。「健康タウンしばたプロジェクト+2019」は昨年度に引き続きスポーツ庁の補助事業として柴田町が採択され、本学に委託を受けた事業になります。

本事業は、大学トレーニングセンターなどを開放し、運動初心者から経験者まで、幅広い対象者の運動指導を行い、運動やスポーツに関心がない方、関心はあるが始めるきっかけが無い住民を対象に気軽に参加できる環境を整え、運動を始めるきっかけづくりや運動の継続を促します。また、柴田町内にある企業のビジネスパーソンを対象に、働きながら健康運動・スポーツ効果を生み出すプログラムをご提案します。

「健康タウンしばた」の各プログラムを実施するにあたり、健康づくり運動サポーターをはじめ、学生も参加しております。参加者と会話などの関りから楽しい時間を共有し、「運動は楽しい」「続けてみようかな」と感じてもらえるようサポートや運動指導もおこないます。

体育系大学としての専門的な知識や技術を活用し、柴田町民の運動実施率が向上し、健康な町づくりに発展できるように今後とも尽力して参ります。

<報告：田中 亨 新助手>

男子バレーボール部：大学ビーチバレーボール東北ブロック予選会結果

7月14日（日）にビーチバレーボール・ジャパン・カレッジ2019兼第31回全日本ビーチバレーボール大学男女選手権大会、東北ブロック予選会が仙台大学ビーチバレーボールコートにて行われ、男子バレーボール部からは10組のペアが出場しました。

2回戦

渡邊・目黒ペア 13-21 佐藤・平野ペア
三上・大関ペア 21-18 國府田・十文字ペア
中澤・村上ペア 21-16 篠坂・谷田ペア（ビーチバレー部）
鈴木・時庭ペア 21-12 高橋・黒須ペア

準決勝

三上・大関ペア 20-22 佐藤・平野ペア
鈴木・時庭ペア 21-14 中澤・村上ペア

決勝

鈴木・時庭ペア（10-21、21-16、11-15） 佐藤・平野ペア



鈴木・時庭ペア

多くのペアが1回戦を突破し三上・大関ペア、中澤・村上ペアが3位、鈴木・時庭ペアがフルセットまで持ち込みましたが準優勝という結果になりました。

準優勝した鈴木・時庭ペアは8月6日から行われる川崎市にて行われる全国大会に出場します。

次の大会は7月21日（日）に多賀城市総合体育館にて天皇杯宮城県予選です。この大会でも良い結果を残し東北予選へとつながっていきたいです。今後も仙台大学男子バレーボール部の応援をよろしくお願いいたします。

<報告：男子バレーボール部>



開会式の様子

UNLV（ネバダ大学ラスベガス校）視察及び米国NATA2019視察報告

【UNLV視察】

6月24日（月）アスレティックデパートメントの現状調査のため、ヘッドアスレティックトレーナーのKyle Wilson氏に話を伺った。

大学はDivision I のマウンテン・ウェスト・カンファレンスに所属し、アスレティックデパートメントにスタッフ約200名、学生アスリート約500名が所属している。メディカル部門には、常勤ドクター1名、有資格アスレティックトレーナー13名、ストレングス&コンディショニングコーチ4名、その他スポーツ栄養、スポーツ心理の専門スタッフらが配置されサポートチームを形成している。2020年よりプロスポーツNFLのオークランド・レイダースが拠点をネバダ州ラスベガスに移転するため、UNLVのアメリカンフットボール部と共同で使用するスタジアムを建設中である。

アスレティックデパートメントの予算は年間約40億ドルが組まれており、これらの財源は大学間の競技スポーツの入場料、その試合に対する放映権料、一部州政府からの補助・大学からの補助から成り立っているとのこと。支出はアスレティックデパートメントのスタッフ人件費（AD局長とその下に13部局の職員、また17の部活ヘッドコーチその他のコーチ陣等）、遠征費、学生アスリート500名中、400名がスポーツ奨学生であり彼らに対する奨学金（ただし、学業成績不良者はその対象外となり得る）、ATの活動に必要な経費、器具・機器・施設整備費等に充てられている。

学生アスリートの現状としては、各クラブでの競技力向上のための厳しい練習に加え、NCAAのルールに従い一定の学力を維持しなければ競技参加が認められない。この「文武両道」の基準を達成するために、チュータリングのシステムも導入している。



【米国NATA2019視察】

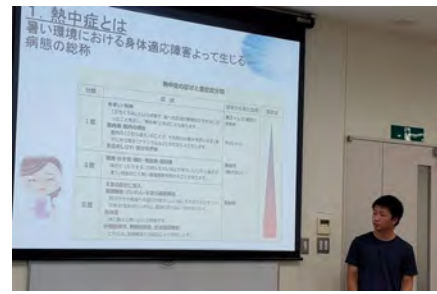
6月25日（木）～27日（金）米国NATA2019総会では、教育プログラム内容の変容が大きな話題であった。2020年までに学部レベルで存在していたアスレティックトレーニング教育プログラムは、全て大学院レベルに移行される。また、その先のステップアップとして、現場経験5～6年の者を対象とした、ドクターレベルの学位である、DAT（Doctor of Athletic Training）プログラムが近年開始されている。目的としては、将来的にアスレティックトレーナーの専門知識を高め、給与や地位の改善を狙っているようである。

アスレティックトレーニングの教育プログラムはCAATE（The Commission on Accreditation of Athletic Training Education）という組織によって統括され、そのCAATEが2020年より適用される新しいスタンダードを発表した。その内容は、今までのプログラムと異なる点が多くあり、今回の2019NATA総会のプログラムにも、関連コースが多く含まれていた。例えば、縫合方法、点滴、脱臼の整復、骨折時のキャスト（ギプス）方法などである。2020年以降は、教育プログラムにこれらの内容を含まなければならない、すでに資格を取得し現場で働く者たちへの対応も急がれる状況であった。

最後に、今回はUNIVAS加盟大学として、遠藤学長と共にアメリカ本土のアスレティックデパートメントの一部を視察させていただき、NATA2019総会の年々変化する現状も把握する事ができた。今後の本学のスポーツ環境にどのように役立てられるのか、関係者らと共に検討していく必要がある。そして、このような貴重な機会を与えてくださった朴澤理事長・学事顧問を始め、関係者の方々に深く感謝している。

<報告：鈴木のぞみ助手>

アスレティックトレーナー部、今年の夏も学内で熱中症予防を呼びかける



熱中症予防の勉強会の様子

毎年アスレティックトレーナー部では、暑さが高まる時期の前に、熱中症予防プロジェクトを行っており、6月19日（水）20日（木）に学内活動に向けた熱中症についての知識をおさらいする勉強会を開催しました。

参加者からは、特に飲み物についての熱心な質問を受けるなど、とても有意義な時間となり、部活動に向けた勉強会の発表を担当した金子茂樹（体育学科2年）は、「昨年高校生のバスケットボールキャンプを手伝った際に、間近で選手が全身の熱けいれんになっているのを見ました。ATの役割としてこのような選手を減らしたいと感じ、そのための一歩として部内外に向けた勉強会を充実させていきたい」と意気込みを話してくれました。

また体育館やクラブハウス、トイレ内などに熱中症予防を呼びかけるポスターを掲示し、日々のWBGT（暑さ指数）・気温・湿度を計測・掲示しています。この大学にいと、「熱中症」という言葉を目にする機会が多いと思います。熱中症は毎年ニュースでも話題になりますが、人は暑さを忘れると熱中症のことも忘れてしまうため、毎年暑さがひどくなる前に、学内の人々に熱中症について思い出してもらおう事がまず大事です。今年の夏も、皆が万全な体調で乗り切れるよう、アスレティックトレーナー部は注意を呼びかけます。

<報告 鈴木のぞみ助手>

<お手柄>硬式野球部員3名が、脱輪車を救助

7月12日（金）、本学前の交差点付近の道路縁石に1台の車が乗り上げ、立往生。その際、硬式野球部員3人<柿澤 郁也さん（体育学科4年）、今津 涼さん（体育学科3年）、川村 友斗さん（体育学科2年）>が一致協力して救援しました。

本件については、学内でも話題となり、7月31日（水）、遠藤保雄学長から3人に対し、表彰状と副賞及びお誉めの言葉を頂きました。また、仙台大学六大学野球 秋季リーグ戦でも大いに奮起するよう激励されました。

<学生生活室>



左から川村さん、遠藤学長、今津さん、江尻教授

サッカー部：第43回総理大臣杯全日本サッカートーナメント東北予選優勝!! 全国大会出場決定!!

第43回総理大臣杯全日本サッカートーナメント東北予選

7月20日（土）会場 利府町：みやぎ生協めぐみ野サッカー場A

仙台大学 対 富士大学(11:00キックオフ)

◇試合結果 仙台大学5-0富士大学(前半2-0・後半3-0) 得点者：岩渕3、松尾2

◇キャプテン嵯峨からのコメント

総理大臣杯東北予選優勝することができました。全国大会もチーム一丸となって戦います。応援ありがとうございました。

◇ハットトリックを決めた岩渕から

結局岩渕が点を取る。そうなれるようにもっと頑張ります！応援にきてくれた仲間感謝します。



集合写真

柴田町トップアスリート事業：「仙台大塾」を開講しました



学習をサポートする本学学生の様子

7月23日（火） LC棟フロアを会場に未来先生「仙台大塾」の開講式が行われ、青沼一民 副学長、船迫邦則 柴田町教育長、浅間郁雄 校長会代表（槻木小学校 校長）、柴田町内小学校校長先生、小学5.6年生約150名の児童が参加しました。

この事業は柴田町内の小学校に通う児童を対象にして行われている「柴田町トップアスリート事業」の一環として開催されたもので、児童の個性や能力を十分発揮し、自らの夢を叶えられるよう、学習習慣の定着を図ることをねらいとして支援活動を行います。

開講式では、青沼副学長から「仙台大塾が開催される6日間と一緒に頑張りましょう」との激励の言葉がありました。また、本学学生を代表して健康福祉学科3年生の及川和香さんは「少しでも自分の為になるような勉強をして欲しいと思います。分からないことがあれば、何でも聞いてください」と力強い言葉で語っていました。

開講式後は各教室に分かれ、教員を目指す本学学生13名が学習サポート役として夏休みの課題に取り組みました。仙台大塾は7月23日（水）～7月31日（水）まで、6日間行われました。

自衛官・警察官 まるごと募集イベントが実施されました



7月25日（木）先週から続いていた曇り空が嘘のように晴れ上がり、気温がぐんぐん上がり続ける中、学生食堂前にて自衛官と警察官の募集イベントが行われました。これまでは、宮城県大河原警察署広報ユニット「SAKURA」による警察官募集活動を単独で実施しておりましたが、今回は、自衛隊宮城地方協力本部大河原事務所のご協力を得て、更にパワーアップしての開催となりました。

今回は、パトカーの他に白バイが本学初登場ということで、バイクに跨っての写真撮影が人気の的でした。また、自衛隊の方では、ジープとバイクの展示および乗車体験を行いました。特に目を引いたのは自衛隊のキャラクターである大きな熊で、迷彩の服をまとい助手席で愛嬌を振りまいていました。

採用試験について詳しい話が聞きたい学生は、個別相談会のコーナーへと進み、真剣な表情で説明に耳を傾けておりました。本学では公安系の公務員に例年40名前後の者が就職しております。

今後も入試創職室では様々な形で学生を支援していきます。

<報告：入試創職室>



カリフォルニア州立大学ロングビーチ校短期留学生受入れ

7月8日（月）～7月19日（金）にカリフォルニア州立大学ロングビーチ校より留学生5名が短期研修を行い、AT（アスレティックトレーナー）やS&C（ストレングス&コンディショニング）の資格を日本でどのように活かしているかを学びつつ、調理実習、柔道・剣道などの特別講義を受講しました。

その他、西住小学校では給食や清掃の体験をしたり、在仙プロ球団の試合観戦、温泉体験、被災地訪問など日本の文化に触れました。休日にはマーティ・キーナート シニアアドバイザーの招待で本学の学生とBBQをし、楽天イーグルスでコンディショニング部アドバイザーをされているジェフさんに特別レクチャーをしていただくなど貴重な時間となりました。

お忙しい中、特別授業をしてくださった先生方ありがとうございました。

<報告：国際交流センター>



国際交流：上海体育学院卓球サマースクールに2名の学生が参加しました

6月27日（木）～7月24日（水）本学の国際交流協定校である中国上海体育学院にて、卓球競技のサマースクールが行われ、同学院の国際教育学院および卓球学院からの招待を受け、本学から卓球部所属の長谷川拓人さん（健康福祉学科4年）と鈴木彩香さん（体育学科3年）の2名が参加しました。

本プログラムへの参加は今年で3年目となり、中国国技の卓球を通して、国際交流を発展させることを目的に、上海市当局の支援の下で上海体育学院が主催して実施されています。プログラムの内容は、他の国からの参加者や現地学生との卓球練習だけでなく、中国語、中国書道、伝統切絵、雑技の鑑賞などの多彩な文化体験により構成されています。参加した2名の学生は1ヶ月という短い滞在期間でしたが、中国卓球の精神と技能、中国文化に触れることができた良い機会となり、今後の成長につながるものと確信しています。

7月10日（水）～7月14日（日）には高橋仁副学長、馬佳濛准教授が引率を兼ねて上海体育学院を訪問し、上海体育学院の王副院長をはじめとする幹部の方々と面会し、本学との交流をさらに発展させていきたいとの体育学院側の意思を確認することができました。また施設視察では、卓球博物館や武術博物館、ゴルフの練習場や屋内陸上競技場、トレーニング室や各種測定機器など、施設設備の充実ぶりが際立っている印象を受けました。

今回の訪問により本学の国際交流がより一層活性化されるものと期待されます。

<報告：馬佳濛 准教授>



「キャンパスライフサポートグループ」による交流活動を実施



7月17日（水）学生支援センター前にてキャンパスライフサポートグループによる仙台大学の学生や留学生たちの交流活動が行いました。キャンパスライフサポートグループとは学生支援センターにある組織の一つであり、「大学生活に不安を持つ学生へのサポートを行うことを目的に、友達を増やしたい、他学年や他学科を超えた人間関係を築きたい、より充実した学校生活を過ごしたい」などの思いを抱いた学生が集まり、人間関係の構築と日々の生活の充実を目的に活動している。活動はキャンパスライフサポートグループに登録している学生が中心となり、学生支援センターの教職員スタッフが支援する形で企画・運営を行っています。

今回から留学生も一緒にキャンパスライフサポートグループで活動し、学生109名、留学生14名、教職員14名、合計137名が参加しました。みんなで体を動かし交流を深める「スポーツの部」では、終始笑顔が絶えず、楽しそうに水風船とバレーボールに取り組む学生の姿が見られ、夏の定番メニューを作り、楽しい時間を過ごすことを目的とした「食の部」では、かき氷と焼きそば作りを行い、簡易な調理による共同作業を通して、学生同士のつながりやかかわりを深めることができました。活動の情報を聞きつけた学生たちが足を運び、嬉しそうにかき氷や焼きそばを頬張るなど、はじめて出会う学生たち同士でも国境や学年を越えて交流する姿が見られました。

本グループの活動は、誰でも自由に参加することを念頭に置いているため、一緒に活動することでサポートグループの「楽しい雰囲気」を感じることができます。今後も多くの学生が参加できる活動を行っていくので、是非多くの学生にキャンパスライフサポートグループの魅力に触れてほしいと思います。今回の活動を通して、主体的に取り組む学生の姿が見受けられ、今後の活動が楽しみです。

〈報告：学生支援室 廣谷珠奈臨時職員〉

天然芝生の刈高は？

長い間刈込みをしないで、伸びてしまった天然芝生を一度に短く刈落としすると【軸刈】になってしまいます。芝草の根の伸長は止まり、養分を作る葉が無くなるので、再生や回復が遅くなり場合によっては枯死する危険が高くなります。芝草はどんどん背が高くなってきますが、そのとき葉だけでなく茎も伸びるため、短く刈りこむと、芝草の葉だけでなく成長点のある茎の部分まで一緒に切り落としてしまいます。これが【軸刈】です。実際に伸びている芝草は、一度にどれくらいの高さまで刈り落とせるかが決まっています。芝草の茎葉の上から3分の1まで一度に刈り落としても、その後芝草の回復に悪影響しない高さの限度を示したものを＜3分の1法＞と言っています。3月から4月頃に行なってしまった場合なら、芝草に蓄えられた前年の養分によって芝草の再生を期待出来ますが、7月以降だと貯蔵養分が少ないうえに光合成を行なう葉が刈り取られているため、再生力は極端に低下してしまいます。刈込みは芝草があまり伸びないうちに行い、もし伸ばしてしまった場合は、一気に低く刈込むのではなく、徐々に時間を掛けて低くしていくようにします。

【軸刈】の英語表記は、Scalpingと言います。芝生の緑の葉の部分のを剥ぎ取り、黄褐色の茎だけになる様な極端な低い刈り込みを言い、「頭皮をはぐ」という意味から来た言葉です。

1. 噴水周り天然芝生（Putting Greenを含む）の＜7月に行なった管理＞は草刈と肥料散布を行いました。
2. 第二グラウンド、天然芝生ラグビー・アメリカンフットボール場の＜7月に行なった管理＞は草刈を毎週1から2回、バーチカルカッターによる余分なサッチ除去、（播種作業の事前作業）とスワイパーによる除去したサッチ回収、暖地型芝草バミューダグラス播種、目砂散布、肥料散布を行いました。

夏季の異常高温気象時期における散水量の不足による寒地型芝草（ペレニアルライグラス・ケンタッキーブルーグラス・トールフェスクの衰弱や枯死に対応して数年前から暖地型芝草（バミューダグラス）をSummer Over-Seeding（現存する芝草と違う草種を上から播くこと）してきました。最初はグラウンドの1/4の面積に実験的に播種し様子を見ながら全面に移行して、今年は前年からの芝草も生きているので4g/m²を播種しました。当初2週間の養生期間を設け各部活動の部員に使用制限（ラグビーの授業のみ制限なし）を行い協力していただきましたが、7月上旬の降雨により作業が遅れたことと低温による発芽遅れもあり、3週間の養生となっています。梅雨明けの暑い季節には、発育も旺盛になり全面バミューダグラスで覆われて、従来の利用が可能になります。



＜写真 1＞バミューダグラスの播種状況 ＜近景＞
黄変した葉は高温により衰退した寒地型洋芝、緑色の葉は高温に適応している前年の暖地型洋芝バミューダグラス



＜写真 2＞新しい種子の発育状況を観察 ＜接写＞
昨年の芝生の手前のボールペンの先に群生しているのが今回の芝生の芽

「高校スポーツの安全を守る」Vol. 16

担当：白坂 広子 助手

○第4回明成フェスティバル！

6月29日（土）、30日（日）、7月6日（土）、7日（日）に「第4回明成フェスティバル」が開催されました。明成フェスティバルとは運動部活動が県内の中学生チームを招待し、練習試合を通して明成高校の魅力をアピールし生徒募集につなげていくことを目的としています。今年は運動部のみにとどまらず、調理科は昼食の提供をし、介護福祉科は手話で歌を披露したりと、学校全体をあげてのイベントとなりました。女子バスケット部、男子バレーボール部、女子バレーボール部、剣道部、男子サッカー部、女子サッカー部、そしてソフトボール部が4日間に渡り多くの中学生と試合を通して交流しました。川平ATとS&Cはブースを設置し、試合中の怪我対応や過去の怪我、健康、トレーニングなどについての相談等に対応しました。来年度から明成高校は仙台大学の付属高校としてスタートします。カリキュラムも変わり、健康スポーツコースは「スポーツ創志科」へと生まれ変わります。これにより今までよりも高大連携事業の発展が求められ、多分野での7年間教育が課題となってきます。このような背景から、今回たくさんの中学生と関わった活動は、ブース周囲で楽しそうに活動に興味をもって熱心に見ていた中学生のためにAT分野の普及と発展に尽力していかうと思った時間となりました。



男子バレーボール部：活動報告 V1リーグチームにアナリストとして同行しました

男子バレーボール部で、アナリスト兼コーチとして活動している中釜智哉さん（スポーツ情報マスメディア学科4年）が7月5日（金）～7月7日（日）に神奈川県で行われた2019V・サマーリーグ女子東部大会にV. LEAGUE Division1（Vリーグ）に所属するNECレッドロケッツにアナリストとして同行しました。

3日間という短い期間で試合でのゲーム分析などを通してアナリストとしてのレベルアップを行いました。

前は同じくV. LEAGUE Division1に所属する大分三好ヴァイセアドラーという男子のチームにアナリストとして同行しましたが、今回は女子のチームの分析を行ったことにより新たな視点や考え方が生まれたと思います。

今回の研修で学んだことを本学男子バレーボール部に還元し、チームの更なる強化と本学科の情報分析分野での発展に貢献してほしいです。

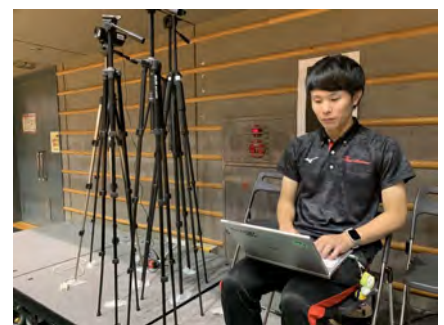
○中釜智哉さんからのコメント

今回Vリーグ Division1に所属しているNECレッドロケッツにアナリスト活動を勉強させていただくために同行させていただきました。

アナリストについてはもちろんですが、それ以外のことで学ぶことがたくさんあり、様々な面で成長することができました。

更に成長できる部分があることも実感したので、今後も成長し続け、部活動で還元したいと思います。

最後にお世話になりましたNECレッドロケッツの方々に心から感謝申し上げます。



中釜智哉さん
（スポーツ情報マスメディア学科4年）

○アナリストとは

バレーボールの「ゲーム分析」と呼ばれる活動を中心に行っている人。技術・戦術を分析してコーチや選手に役立つ情報を提供する。他国や他競技ではスカウトマン、スコアラー、statistician（統計学者）、テクニカルコーチなどと呼ばれることがある。

<報告：男子バレーボール部>

Monthly Report

Vol.160 / 2019.AUG

自然を体験！南蔵王わんぱく・チャレンジキャンプ



記念写真

8月6日（火）～8月9日（金）に南蔵王わんぱくキャンプ（小学2年生～小学4年生対象）、8月17日（土）～8月23日（金）（小学5年生～中学3年生を対象）に南蔵王チャレンジキャンプを行い、テント泊に野外炊事、沢登りや登山など、野外活動を楽しみました。

このキャンプは、子どもゆめ基金の助成を受け、地域の青少年を対象として実施しており、生活や活動の指導は、本学の大学生と大学院生が行なっています。

今年は、8月17日（日）～8月19日（月）の2泊3日、本学が招聘している白石市・柴田町の東京オリンピック・パラリンピックホストタウン親善大使のセベツ・アリーナさんが南蔵王チャレンジキャンプに参加し、子どもたちと一緒に野外炊事に取り組んだり、沢登りやオリエンテーリングにも取り組みました。毎朝毎夕「今日のベラルーシ語」を覚えてもらう時間やベラルーシのダンスを覚えてもらったりしました。子どもたちもコミュニケーションを積極的にとり、気軽にスパシーバ（ありがとう）と言えるようになったり、たくさんの質問したりしていました。子どもや学生たちにとって、「野外」と「国際」という、2つの非日常を同時に体験できる貴重な機会となりました。



ベラルーシのダンスを体験



沢登りの様子

＜目次＞

・自然を体験！南蔵王わんぱく・チャレンジキャンプ	1
・仙台89ERS 志村GM、落合ACによる勉強会を開催しました ・「スポーツ起業論」 OGの武者喜恵さんが講師	2
・全日本インカレ 男子躍進3位、女子は7位／南、貫禄で床制覇 ・第24回全日本高校・大学生書道展に出品 及川和香さん（健福3年）が準優秀賞 ・「夏季海外留学・研修結団式、危機管理研修会」を開催しました	3
・地域連携：全国小学生学年別柔道大会結果報告ー熊田愛留が5位入賞ー ・札幌市バレーボール教室・講習会 ・ベトナム女子サッカー代表チームとトレーニングマッチが行われました	4
・「法制執務の基礎」に関するSD研修会を開催しました ・令和元年度SD研修会を実施しました	5
・子ども運動教育学科と柴田町船岡保育所と交流活動を始めました	6
・芝草通信 NO. 5	7
・「高校スポーツの安全を守る」Vol.17	8

学生の活躍や、取り組みなどをご存知でしたら広報室までお寄せください。

Monthly Reportで紹介する他、報道機関にも旬な話題を提供して参ります。

本誌へのご意見・ご質問等がありましたら広報室までご一報ください。

仙台大学 広報室

直通 0224 - 55 - 1802

Email kouhou@sendai-u.ac.jp

仙台89ERS 志村GM、落合ACによる勉強会を開催しました



真剣に講義を聴く学生の様子

7月16日（火）、LC棟1階でスポーツ情報サポート研究会主催の勉強会を開催しました。この日の勉強会は、在仙プロスポーツチームとのアカデミックパートナー協定および私立大学研究ブランディング事業の一環として行われました。ゲストスピーカーとして株式会社仙台89ERSから志村雄彦 取締役GM（以下「志村GM」）、落合嘉郎 アシスタントコーチ（以下「落合AC」）をお迎えし、「バスケットボール競技」と「情報分析」をキーワードに講義をしていただきました。

はじめに志村GMより、日本バスケットボールの現在地としてBリーグ開幕からこれまでの歩みをご紹介いただいた後、NBAサマーリーグを視察してテクノロジーの活用やプレーのデータ化が急速に発展していることなど、海外の事例もお話していただきました。情報の活用については、ご自身の経験も踏まえて「数値は客観的な指標として嘘をつかない」とし、「パフォーマンス向上にどのように活用するのかを考え、適切に取り扱うスキルが重要になる」と述べられました。

落合ACからは、仙台89ERSにおけるアシスタントコーチの役割をはじめ、スカウティング手法やバスケットボール競技におけるデータの着眼点をお話していただきました。相手チームの分析を行うスカウティングでは、チームまたは選手別に勝敗要因を分析していることや映像を用いたミーティング方法を紹介していただきました。また、試合を行う上で「データを知りプレーしているケースと知らずにプレーしているケースでは、パフォーマンスに差が生じる」など、選手もデータを理解することの大切さを伝えていただきました。

勉強会には、スポーツ情報サポート研究会に所属しアナリストや指導者をを目指す学生をはじめ、男女バスケットボール部の選手、スタッフなど約50名が参加しました。参加した学生のひとりである倉茂涼さん（スポーツ情報マスメディア学科2年・男子バレーボール部アナリスト）は、「ミーティング方法ひとつとっても、プロチームの引き出しの多さに驚きました」と感想を述べました。参加者はプロスポーツチームの活動事例から、スポーツ情報分析のメソッドとシステマ的対応について知見を深めました。

情報分析領域では仙台89ERSとの協定に基づき、9月開幕の2019-20シーズンから実践的な取組みが本格化します。今後の活動状況についても、本学ホームページ等で報告してまいります。

<報告：スポーツ情報マスメディア学科>

「スポーツ起業論」 OGの武者喜恵さんが講師

7月27日（木）はこの学科を2017年3月に卒業した株式会社クロステレビジョン東北支社制作技術課の武者喜恵さんを招いて、テレビ放送のカメラマンや大型ビジョンの業務などの仕事について話していただきました。

この中で武者さんは、「現在の仕事に就くことになったのは3年生の“スポーツ取材・報道実習Ⅱ”で訪れた地元テレビ局で積極的に質問したところ、担当者にやってみないかと勧められ始めたアルバイトがきっかけだったと明らかにしました。

これに対して、学生から「カメラマンを目指して、大学の実習から流れるように就職したと聞き、そのような就職方法があるのかと驚いた」「今回の講義を受けて何事も積極的に動かないと道は開けないと思いました」などと感想が寄せられました。

<報告：スポーツ情報マスメディア学科>



OGの武者喜恵さん

体操競技部：全日本インカレ 男子躍進3位、女子は7位／南、貫禄で床制覇

全国の大学生選手が集まるトップレベルの大会、第73回全日本学生体操競技選手権大会が8月20日（火）～22日（木）、山口市の維新大晃アリーナで行われ、本学は男子1部団体（トップ12校）で前回5位から3位に躍進しました。4位筑波大とはわずか0.150点の差でした。

前回1部（トップ10校）への再昇格を決めた女子も7位と健闘を見せました。

種目別は南一輝（体育2年）が男子床運動でG難度の「リ・ジョンソン」を決めるなど、14.900の高得点で初制覇。社会人を含めた全日本種目別王者としての実力を示し、東京五輪代表入りを目指して出場する今秋の種目別ワールドカップ（W杯）へ弾みを付けました。南は跳馬でも14.475点をマークし2位に入りました。男子鉄棒では青木翔汰（体育3年）が力強さと華麗な技を見せ、13.950点で3位に食い込みました。



全日本学生選手権で男女とも活躍を見せた仙台大の体操陣＝維新大晃アリーナ

このほか本学の入賞者は次の通りでした。

<男子床運動>6位松田光平（体育3年）14.050点、7位松見一希（体育4年）13.950点

<男子つり輪>8位山根直記（体育3年）13.700点

<報告：体操競技部>

第24回全日本高校・大学生書道展に出品 及川和香さん（健福3年）が準優秀賞

健康福祉学科3年生の及川和香さん（雅号：及川桜香）が第24回全日本高校・大学生書道展に出品し、全出品点数10,402点の中で準優秀賞となりました。

8月5日（月）には遠藤保雄学長に報告を行い、及川和香さんは今回の結果を受け、「来年こそは大賞に選ばれるように頑張ります」と次の出品に向け、目標を話してくれました。



遠藤学長に報告をする及川和香さん

「夏季海外留学・研修結団式、危機管理研修会」を開催しました

8月8日（木）に「令和元年度夏季海外留学・研修結団式、危機管理研修会」を開催しました。今回は2つのプログラム（アメリカ／ハワイ大学、中国／瀋陽師範大学）に8名の学生を派遣します。各プログラム毎に参加する学生全員から力強い決意表明がありました。

<国際交流センター>



頸椎表明を行う学生の様子



遠藤学長の挨拶の様子

地域連携：全国小学生学年別柔道大会 結果報告－熊田愛留が5位入賞－

8月11日(日)に全国小学生学年別柔道大会が愛媛県武道館で行われ、今回16回目となる本大会に、本学主宰の仙台大学柔道塾から、熊田愛留くんが宮城県代表として小学6年生男子50kg級に出場しました。

この大会は小学5年生以上の男女8階級で行われる個人戦であり、各階級、全国から選抜された48名によってチャンピオンシップを争う大会です。

熊田選手は、昨年の2回戦敗退という悔しさを晴らすべく、初戦の一本勝ちで流れをつかみ、3勝の後に準々決勝戦へ進出しました。

メダル獲得を掛けた千葉県代表選手との試合でしたが、相手の巧さに持ち味を発揮することができず、惜しくも敗退となりました。

5位という結果ではありましたが、本人にとっても今後の精進に貴重な経験となりました。

<報告：仙台大学柔道塾>



写真左から南條監督、熊田愛留選手

男子バレーボール部：活動報告 札幌市バレーボール教室・講習会



バレーボール教室の様子

男子バレーボール部の中村祐太郎監督、安部祐馬コーチ、河野格大選手（体育学科3年）が8月4日（日）～8月6日（火）に北海道札幌市で高校生の男子バレーボール部を対象にバレーボール教室を行いました。

バレーボール教室では、実技講習のほか、運動栄養学科の真野芳彦准教授による「スポーツと栄養の関係性について」、スポーツ情報マスメディア学科の溝上拓志助教に「バレーボールと情報戦略の関わりについて」の座学講習も行われました。

3日間という短い期間でしたが、ICTを活用したフィードバックなどを取り入れながら、コーチングの技術を最大限に生かした指導で北海道のバレーボールの強化に貢献することができたと考えています。

今回の取り組みは、6月に札幌市で行われた東日本バレーボール大学選手権大会の時に、応援に来てくださった本学OBが、北海道に仙台大学をもっと広めたいと尽力してくださり開催されました。

参加した生徒からは実技だけでなく、栄養や情報戦略など「支えるスポーツ」も大変好評でした。

<報告：男子バレーボール部>

女子サッカー部：ベトナム女子サッカー代表チームとトレーニングマッチが行われました

8月2日（金）本学サッカー場でベトナム女子サッカー代表とトレーニングマッチが行われました。

ベトナム女子サッカー代表は福島市のホストタウン登録国で、東京2020大会出場を目指し、来年実施されるアジア最終予選にも進出している強豪国です。

トレーニングマッチでは前半に本学が先制しましたが、後半に追いつかれ引き分けとなりました。

世界で戦うチームとの対戦は、本学女子サッカー部にとって、とても貴重な経験となりました。



記念写真

「法制執務の基礎」に関するSD研修会を開催しました



研修会の様子

8月1日（木）A棟2階大会議室で教職員対象の第1回SD研修会を開催し、16名が参加しました。

今回は学校法人朴沢学園の安倍寿広 常務理事兼法人事務局長を講師に迎え「法制執務の基礎」をテーマに大学運営に関する法令等の基礎的な知識を修得し、学内規程等の作成・見直しに必要な資質を身に付けることを目的として研修が行われました。

参加者からは「引き続き法令や財務等について研修会を開催してほしい」等の声が多く挙がり、良い雰囲気の中、研修会が行われました。今後も教職員対象のSD研修会を継続していきますので、是非ご参加ください。

令和元年度SD研修会を実施しました



朴澤理事長・学事顧問より訓示



ワークショップの様子

8月9日（金）10日（土）仙台秋保温泉・岩沼屋で「令和元年度学校法人朴沢学園SD研修会」がおこなわれ、初日は午前中に、朴澤理事長・学事顧問より「仙台大学付属明成高校が目指すもの」と題した訓示があり、午後から尚絅学院大学 合田隆史学長を講師をお招きし、「教育改革の動向について」の講演を頂き、次いで明成高校 佐藤浩二教頭より「高大接続教育を実現するための高校・大学の役割について」について研修を行いました。

2日目は三島法律事務所 三島卓郎 弁護士より「ハラスメントの防止のために」、日本経済新聞社 横山晋一郎 様に「高等教育界を外から見て想うこと」について講話を頂きました。

本研修会は一昨年4月に「大学設置基準等の一部を改正する省令」が施行され、職員が大学等の運営に必要な知識・技能を身に付け、能力・資質を向上するための研修、いわゆる「SD」スタッフ・ディベロップメントが義務化となり、大学教育において、学生をどのように成長させるか、保護者の期待にどう応えるのか、どのような人材を社会に送り出すのか等々の多様なニーズに対応することが強く求められており、この求めに対応するために教職員の知識やスキル向上を目的とした研修会です。

学生が集まる、選ばれる大学・高校となれるよう、引き続き、教育内容、方法等の改善に積極的に取り組みながら、地域の知の拠点となることを目指します。

子ども運動教育学科と柴田町船岡保育所と交流活動を始めました

子ども運動教育学科では、保育の「知識」だけでなく、子どもと接する中で、実践を通した「経験」をより多く積み重ね、「人として大切なもの」を育成し、魅力のある保育者を養成することを目標としています。

地元の船岡保育所との交流活動において、科目「全学教養演習」を受講する学生と保育所児との実践型交流授業を行いました。この活動は、今年度から行っており、大学側も保育所側も共に学びの場となるよう準備を進めてきました。



学生の模倣をするダンスが楽しめるように、学生がまず楽しそうに踊ること、そして、子ども達と一緒に踊ることが大切です。初めて子どもの前に立つ学生の緊張度はマックスです。事前に練習を積み、どういう風に子どもにおろせば初めてのダンスであっても楽しく踊ることが出来るかを考え、いろいろな指導方法の工夫を準備しました。



「サーキットあそび」は幼児体育指導法の一つで短い時間の中でいろいろな動きを経験し、運動量をたくさんとることが出来る運動あそびです。乳幼児の「体を動かしたい」という生理的な欲求を満たすため、十分な運動量を確保し、情緒の安定をはかることが大切だと考えています。



乳幼児期は運動機能が急速に発達し、這ったり、跳んだり、バランスを取って歩いたりといった多様な動きを身に付けやすい時期です。多様な運動刺激を与えて、体内にさまざまな神経回路を複雑に張り巡らせていくことが大切です。それらが発達すると、タイミングよく動いたり、力の加減をコントロールしたりするなどの運動を調整する能力が高まり、生活で必要とされる動きやとっさの時に身を守る動きなど人が生きていくうえで必要な運動能力を身に付けやすくなります。

サーキットあそびすることによって、現代の子どもたちの成長にかかせない調整力をはじめ運動機能全般を高め、尚且つ、好奇心や探究心を満たし、主体性の発揮にも寄与すると考えられます。こうした乳幼児期の特徴を配慮した体育あそびとして、自分の手足つまり四肢を自由にコントロールして、自分の身体を使いこなすコントロール性の獲得をねらいとして行っています。



しかし、運動となると、つい私たちは「出来た」「出来ない」とみて、一喜一憂してしまいがちです。確かに出来ないことが出来るようになることは嬉しいことではありますが、私たちが大切にしている保育の基本は、目ではみることができない「こころ」の育ちです。

サーキットあそびをしていると、次は何かなといった興味や関心を持った姿勢。また、初めての種目に消極的になったり、うまくいかなかった時の悔しい表情、難易度の違う種目のどちらかに迷っている葛藤の場面、友達同士の励まし合っている姿、失敗しても最後まで諦めないで取り組む姿勢、やってみようという等、「こころ」の育ちをみることがあります。目にはみえないこれから生きていく上での基礎となる土台、すなわち、土の中で育つ

「根っこ」を育てることが出来る「サーキットあそび」をこれからも行っていききたいと思います。

<報告：子ども運動教育学科>

芝草通信 NO. 5

担当：小島文雄体育施設管理コンサルタント

1. 噴水まわり天然芝生の維持管理

8月3日のオープンキャンパスに合わせて、維持管理を進めてきました。施肥と草刈りのタイミングを調整しながら「軸刈にならず、伸び過ぎず」を注意しながら、青々とした密度の濃いグリーンを提供できたと思います。その後の経過を観察すると、肥料の効果が出過ぎた所もあるので、機会を見て芝刈りを実施します。

2. 第二グラウンド天然芝生ラグビー・アメリカンフットボール場の維持管理

【バミューダグラス生育状況】

7月の雨と気温低下で発育が遅れていましたが、8月に続いた高温により順調に成長してきました。一方、寒地型洋芝は高温と水分不足により衰退してきました。ちょうど選手交代のように地表面を覆っていた芝生の草種が寒地型から暖地型に変換してきました。この切り替えが大変困難であります。

養生期間を十分に確保できる競技場では除草剤を用いて寒地型を枯らしてから暖地型を生育するところもあります。

また、散水を意識的に少量にして寒地型の成長を弱めてから暖地型洋芝を旺盛にして切り替えるところもあります。いずれにしろ一時的に全面裸地状態になるので暖地型の発芽がある程度成長するまで長い養生期間を設けております。

本学のグラウンドは練習場として使用しておりますので、ほぼ毎日（毎週5日間7回くらい）の利用が有り養生期間を設定しにくい状況です。それでも年に2回くらいは利用する各部活動の方々の協力で、2週間程度養生します。今年の7月初めは雨が多く、日照不足と温度低下で、発芽状況に影響が有り、やっと発芽しても成長が遅く、小さな芽（芝草通信N04の写真参照）しか認められませんでした。2週間の養生期間を3週間に延長して協力をいただきながら小さな芽を見るたびに頑張れと声をかけるありさまでした。春先に実施した寒地型洋芝播種の時は、養生期間なしの連続使用でしたので、発芽率は低下していると感じています。

5月から始めていた各部活動の学生による実習も2～3回行なったので、ほとんどの学生が芝刈り機の操作経験を積むことが出来ました。練習後のデイボット補修（スパイクで掘れた穴に補修用砂を埋め込む作業）も慣れてきました。必要な日常管理を学習して、成長のメカニズムをよく理解しながら、利用して欲しいと願っております。



〈写真1〉ラグビー・アメリカンフットボール場、全景
バミューダグラス占有率 約90%、8/26現在



〈写真2〉東南ブロック、接写
ほぼ全面バミューダグラスに切替わった



〈写真3〉東南ブロック、接写
寒地型洋芝は茎葉が1本ずつだが、バミューダグラスは真横に多数の葉が出るので密度が濃い



〈写真4〉西北ブロック、近景
左側、本日の剥ぎ取られた芝草：すぐに砂を掛ければ復活する
右側、前日以前に剥ぎ取られた芝草：放置されて乾燥しすでに枯死している

「高校スポーツの安全を守る」Vol.17

担当：小野 勇太 助手

今年の夏も暑い日が続き、川平アスレティックトレーニングルーム(ATR)を利用する、明成高校特定研究指定部活動の生徒達は、それぞれの目的、目標に向けて日々練習に励んでいます。夏のニュース、「熱中症」という用語は一般化されつつある一方で、言葉を知っていても、発生後どのように対処すべきか、または予防すべきかについてはまだまだ専門家の介入が必要ではないかと思えます。

我々川平ATRは、対象部活動向けに「熱中症予防」を目的とした講習会を開催し、高校生と指導者へ熱中症予防教育を進めています。夏休みという期間は部活動に取り組む高校生にとって普段以上に時間と場所を確保できることなどから、強化時期としてとても重要な時期です。そんな高校スポーツ現場にとって厄介な問題と言えるのが、熱中症による重大事故です。

熱中症は、熱痙攣、熱失神、熱疲労、熱射病の総称ですが、軽度なものから重度なものまで症状は様々で、中でも熱射病については処置が遅れたり適切な処置が成されなければ命を落とすことさえあるため、要注意です。発生後の対処は勿論現場の責任者である指導者の方々には身につけていただきたい内容ではありますが、それよりも何より、「予防」が重要です。天候をコントロールすることはできませんが、天候をあらかじめ把握し、状況に応じて休息回数を増やし、十分な水分と塩分補給をすることや、身体が十分に暑さに慣れるまでは徐々に運動量を変化させること等ができれば、熱中症は予防できます。

川平ATRでは、スポーツ現場（明仙フィールド）の気温、湿度、暑さ指数(WBGT)を測定し掲示板に載せて、高校生達が日々それらの数字を見ることで、熱中症へのリスクを意識して活動するように注意喚起をしています。これらの甲斐あって、最大で気温34℃、WBGT31℃を超える日もありましたが、十分な休息と水分補給等の徹底により、本来であれば運動中止が必要な状況下においても練習を行い、かつ熱中症の発生を防ぐことができています。スポーツ傷害も熱中症同様に「予防」が重要です。

川平ATRではこの「予防」という観点を重視し、引き続き高校スポーツの安全を守る活動を広めていこうと思います。



WBGT測定(明仙フィールド)



休息時の水分補給をする様子

Monthly Report

Vol.161 / 2019 .SEP

体操競技部：南、国際大会で優勝／五輪へ弾み



表彰台の真ん中で金メダルを手に表情がほころぶ南

うれしいニュースが入ってきました。体操の種目別ワールドチャレンジカップ・パリ大会が9月14（土）、15（日）の両日（フランス現地時間）行われ、体操競技部の南一輝（体育2年）が床運動で優勝しました。「床運動のスペシャリスト」として東京2020への出場を目指す南にとって大いに弾みがつくスタートとなりました。

大会に同行した本学体操競技部の鈴木良太監督、山口貴久副部長からの連絡によると、南は予選を1位通過し決勝でも着地をうまくまとめました。総合得点は15.100で2位のイスラエル、ドルゴピア・アダム選手に0.200の差をつけました。技の難易度をみるDスコアは6.600点で出場選手（決勝44人）中トップ、演技の雄大さをみるEスコアも8.500点の高得点をマークしました。2位のイスラエル選手は現在世界ランキング上位に位置するだけに大変価値ある優勝です。

南の東京五輪への挑戦は今後、11月のワールドカップ（W杯）シリーズのコトブス（ドイツ）大会からが本番となります。ご声援よろしくお願い致します。

<報告：体操競技部>

大塚製薬株式会社と連携協定を締結



写真左から朴澤泰治理事長・学事顧問、吉田雅郎 大塚製薬株式会社仙台支店長

9月24日（火）本学L棟1階において、学校法人朴沢学園仙台大学は、大塚製薬株式会社と「地域における健康増進及びスポーツ振興に関する連携協定」を締結しました。本協定は、両者が有するそれぞれのリソースを相互活用しながら、産学間の連携協力による健康増進及びスポーツ振興の取組みを推進し、地域住民の健康で豊かな暮らしの実現に資することを目的としています。今後本協定に基づき、より多くの地域貢献活動を行っていくようさまざまな事業に取り組んでまいります。

<報告：事業戦略室>

Monthly Report

<目次>

・体操競技部：南、国際大会で優勝／五輪へ弾み ・大塚製薬株式会社と連携協定を締結	1
・全日本大学選手権で漕艇部 男子が総合優勝！	2
・柔道部：4年ぶりの複数入賞！～2019全日本学生柔道体重別選手権大会～ UNIVAS CUP2019：漕艇部と柔道部が大活躍 総合22位に ・男女バレーボール部：樫の木杯開催	3
・サポート研究会メディア班の作品が全国視聴覚教材コンクールで優秀賞 ・「マルチメディア論」デジタル社会のジャーナリズムを考える ・「総合英語B」、「総合英語D」の成績優秀者に対する表彰式を実施しました	4
・芝草通信 NO. 6	5
・「高校スポーツの安全を守る」Vol.18 ・仙台空港（国際線・国内線）看板をリニューアル	6

学生の活躍や、取り組みなどをご存知でしたら広報室までお寄せください。

Monthly Reportで紹介する他、報道機関にも旬な話題を提供して参ります。

本誌へのご意見・ご質問等がありましたら広報室までご一報ください。

仙台大学 広報室

直通 0224 - 55 - 1802

Email kouhou@sendai-u.ac.jp

全日本大学選手権で漕艇部 男子が総合優勝！

9月5日（木）から9月8日（日）に戸田ボートコースで行われました第46回全日本大学選手権で、男子では初の総合「日本一」を果たしました。

本学では種目別で毎年のように優勝種目を出してきましたが、**今年は種目別(全7種目)で過去最多の4種目で優勝**、花形の男子エイトでも2位と健闘し、日本大学の14連覇を阻止しました。

高校時代のトップアスリートの多くが関東の強豪校に入学している中、本学では阿部肇監督の指導のもと、選手たちが努力を惜しまず、他大学の追従を許さない競技力向上の成果を見せました。



総合優勝を果たした男子漕艇部

結果は以下の通り

男子総合 優勝

男子エイト 準優勝

佐々木雄也さん（主将：体育学科4年）
松浦大河さん（副将：体育学科4年）
上中屋敷拓志さん（体育学科4年）
信夫 涼さん（体育学科3年）
杉浦 旭さん（体育学科3年）
村野滉太郎さん（体育学科3年）
桑村 潤さん（体育学科3年）
阿部亮平さん（体育学科2年）
別府弘崇さん（体育学科2年）

男子舵手なしフォア 優勝

村上和貴さん（体育学科4年）
古賀健嗣さん（体育学科3年）
梶原龍将さん（体育学科3年）
横尾剛士さん（子ども運動教育学科3年）

男子舵手付きフォア 5位

村松史也さん（現代武道学科3年）
岸本健吾さん（体育学科1年）
藤岡駿平さん（現代武道学科3年）
鳥居勢矢さん（体育学科3年）
立野 陸さん（体育学科2年）

男子クォドルプル 優勝

内田智也さん（体育学科2年）
石倉嵩大さん（体育学科2年）
石垣達也さん（体育学科2年）
佐竹洸紀さん（現代武道学科2年）

男子ダブルスカル 優勝

山下大和さん（現代武道学科2年）
小沢 源さん（子ども運動教育学科2年）

男子シングルスカル 優勝

一瀬卓也さん（大学院1年）

女子舵手付きクォドルプル 3位

内海美香さん（女子主将 体育学科4年）
大出若奈さん（体育学科4年）
平松柊華さん（体育学科4年）
上浦実咲さん（健康福祉学科3年）
玉田夢子さん（体育学科2年）

女子舵手付きフォア 3位

落合ゆきさん（女子副将 体育学科4年）
佐々木遥香さん（運動栄養学科2年）
加藤彩香さん（運動栄養学科3年）
柴田寿音さん（運動栄養学科2年）
酒巻有利さん（体育学科1年）

<報告：漕艇部>



柔道部：4年ぶりの複数入賞！～2019全日本学生柔道体重別選手権大会～

9月28日（土）・29日（日）の2日間にわたって全日本学生柔道体重別選手権大会が秋田県立武道館で開催されました。

本学からは、男子6名、女子22名の合計28名が出場しました。

この大会は、例年日本武道館で行われておりましたが、2020東京オリンピック・パラリンピックの開催に伴う改修工事のため、本年度は秋田県にて実施されることとなりました。

本大会では、女子2名の選手が3位入賞を果たしました。2名以上の複数入賞は4年ぶりとなります。

また昨年は入賞者1名でしたが、今年はその結果を上回ることができました。

入賞者を輩出できた一方で、男子を含め、全国大会の壁に阻まれた選手も見受けられました。

来月には全日本学生柔道体重別団体優勝大会（尼崎開催）を控えておりますので、引き続き余念無く稽古を続けていきたいと思います。

ご声援をいただきまして誠にありがとうございました。

以下、5位以上の入賞者です。

52kg級 対馬みなみ（現武1） 第3位

78kg超級 廣谷姫奈（現武3） 第3位

48kg級 山口かなえ（現武4） 第5位

78kg級 土佐真紀子（現武3） 第5位

< 報告：柔道部 >



52kg級 対馬みなみ（現武1） 第3位
表彰の様子（左から3番目）



78kg超級 廣谷姫奈（現武3） 第3位

UNIVAS CUP2019：漕艇部と柔道部が大活躍 総合22位に（9月29日時点）

全日本大学選手権大会で初の男子総合優勝を果たした漕艇部や全日本学生柔道体重別選手権大会で複数入賞した柔道部の活躍によりUNIVAS CUP2019総合順位が22位となりました。

○結果は以下の通り

< 漕艇部：第46回全日本大学選手権大会 >

男子エイト 2位（68pt）

男子舵手なしフォア 優勝（114pt）

男子クォドルブル 優勝（114pt）

男子ダブルスカル 優勝（114pt）

男子シングルスカル 優勝（114pt）

女子舵手なしクォドルブル 3位（45pt）

女子舵手つきフォア 3位（45pt）

< 柔道部：2019全日本柔道体重別選手権大会 >

52kg級 対馬みなみ（現武1） 第3位（50pt）

78kg超級 廣谷姫奈（現武3） 第3位（50pt）

48kg級 山口かなえ（現武4） 第5位（30pt）

78kg級 土佐真紀子（現武3） 第5位（30pt）

男女バレーボール部：樫の木杯開催

8月27日（土）、28日（日）本学を会場に、第38回仙台大学樫の木会長杯争奪高等学校女子バレーボール大会、および第1回仙台大学樫の木会長杯争奪高等学校男子バレーボール大会を開催しました。

今大会は本学OB・OGの先生方からなる樫の木会のご協力の元、本学の男女バレーボール部員が「仙台大学の専門教養演習」の授業の一環で、大会運営に関して中心的に関わって行っています。今年は県内外から女子10校、男子4校の計14校にご参加いただき、熱戦が繰り広げられました。樫の木の会の先生方からのご指導や、高校生のプレーから新たに得るものも多く、本学生にとって学び多い2日間となりました。

今後も、大学生と高校生の交流する機会が増えていければ良いと思います。

< 報告：男女バレーボール部 >



表彰時の様子

スポーツ情報マスメディア学科：サポート研究会メディア班の作品が全国視聴覚教材コンクールで優秀賞

スポーツ情報マスメディア学科のサポート研究会メディア班が制作した映像作品が、令和元年度全国自作視聴覚教材コンクールの社会教育部門で優秀賞を受賞しました。

優秀賞を受賞したのは去年研究会のメンバーが宮城県内で開催されたプロアマのスポーツイベントで活躍するボランティアを取材した19分25秒の映像作品「スポーツの場で活躍するボランティア」です。

9月13日（金）に東京・霞が関で開かれた表彰式には、学生を代表して4年の高橋雅弥さんと指導に当たった小野寺努さんらが出席、日本視聴覚教育協会の生田孝至会長から表彰状が贈られました。審査員からは「スポーツ・ボランティアの活動領域は広範に及ぶ。競技者、指導者以外に支援者がいなければスムーズな運営はできない。本作品は、日常的なスポーツ活動におけるボランティアの意義や、ボランティアとして活動する人々の様子を描いている。オリンピックのボランティア活動領域の分類をも踏まえて、もう少し分かりやすい分類に整理する方法もあったのではないかな。その上で、それぞれの意義を掘り下げるなどすれば、なお良い作品になっただろう。」という評価をいただきました。

この作品は6人のメンバーがいる4年生が中心となって制作したのですが、現在3年生のメンバーはいないため、今後は2年生1人と1年生4人という少人数で活動を引き継いでいくことになります。

<報告：スポーツ情報マスメディア学科>



写真左から、小野寺努さん、高橋雅弥さん（スポ情4年）



表彰の様子

スポーツ情報マスメディア学科：「マルチメディア論」デジタル社会のジャーナリズムを考える

スポーツ情報マスメディア学科の3、4年生を対象とする集中講義「マルチメディア論」の授業が9月9日（月）～11日（水）の3日間、本学内で開かれました。デジタル社会の最前線で地域の「いま」を発信し続けるフリーのジャーナリストや新聞社でデジタル戦略に取り組む担当者らを講師に迎え、変貌するメディア環境のなかでジャーナリズムはどうあるべきなのかを学びました。

学外講師は元河北新報社メディア局長で現在メディアプロジェクト仙台代表を務める佐藤和文さん、NPO法人メディアージの常務理事漆田義孝さん、河北新報社デジタル推進室長の安倍樹さん、同写真部次長の長南康一さん。4人はそれぞれの立場からデジタル社会の過去・現在・未来を語り、メディアの課題と可能性を分かりやすく解説してくれました。



上段左から、佐藤和文さん、漆田義孝さん
下段左から、安倍樹さん、長南康一さん

「総合英語B」、「総合英語D」の成績優秀者に対する表彰式を実施しました



表彰式の様子

9月30日（月）本年度前期開講の英語必修科目「総合英語B」と「総合英語D」の成績優秀者134名に対して、英語力向上のための日頃の努力への賛辞とその努力の今後の継続を願って、表彰式が実施されました。成績優秀者には、本学を会場として実施するTOEIC試験の受験費無料の特典（1年間）と、成績に応じてクオカードが贈呈されました。

表彰式では遠藤保雄学長が「皆さんが常日頃、継続的に努力をしてきた結果であると思います。今後も努力することによって世界が2倍、3倍に広がることを念頭に置いて頑張ってください」と表彰者を激励しました。

芝草通信 NO. 6

担当：小島文雄体育施設管理コンサルタント

芝生（ハイブリッド芝）の視点からラグビーワールドカップを楽しむ

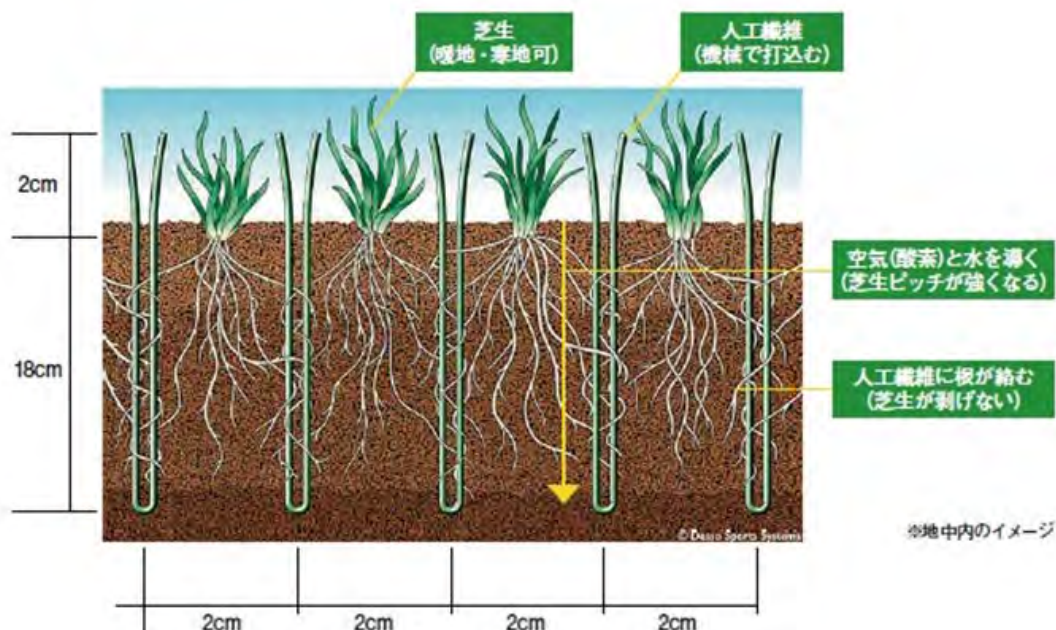
ラグビーワールドカップで日本は9月28日に世界ランク第2位のアイルランドを19-12で歴史的勝利の大金星でした。素晴らしい試合中継の一方で、今回は芝生の断面構造について話をします。どのスタジアムも濃い緑色の元気な芝生が整備されています。多くは暖地型洋芝バミューダグラス系統の「ティフトン419」ですが、中には寒地型洋芝「ケンタッキーブルーグラス」もあり、全国で各々の地域性が有ります。一般的には天然芝生のグラウンドと人工芝生のグラウンドに区分されていました。今年の春から日本サッカー協会と日本ラグビー協会はヨーロッパの有名スタジアムで採用されている、天然芝生に補強材として人工芝生を組み合わせる「ハイブリッド芝」として公認しました。

昨年ロシア開催のサッカーW杯は12会場のうち9会場がこの「ハイブリッド芝」でした。天然芝生の根茎が人工芝生に絡み付き剥離されにくくなります。また空気の通りが良くなり土壌固結を和らげると共に排水性も向上する様です。日本ではいち早く神戸のノエビアスタジアムで採用されています。

尚、釜石鶴住居復興スタジアム（9/25, 10/13試合会場）だけは、これと違った構造になっています。人工芝生の繊維と、天然コルク、砂をあらかじめ芝生の床土と混合して敷き均し、その土壌に天然芝生を生育させている構造で、表面に人工芝生は存在しない。また、カーペットタイプは基盤面上に人工芝を配置し、その上に天然芝生を生育し、その根茎が絡みつくことで補強している。日産スタジアムがこのタイプです。

どのスタジアムが「ハイブリッド芝」断面構造なのか或いは従来通りの天然芝生だけの断面構造なのかなどと推測しながら試合を観戦して見ると、今までとは違った興味も湧くと思います。W杯では熱戦を応援・楽しみながら、少し視点を変えてプロの芝生グラウンド整備の優れた手法を楽しむことが出来るでしょう。

もし、解説者がグラウンドの芝生に触れた時には、気になるワードを検索して楽しく観戦を推奨します。その時に注意することとして「ハイブリッドターフ」と検索すると某社の人工芝生が現れますが、これは某社が登録商標を申請した人工芝生のことです。そのために芝草学会では「ハイブリッド芝」と言ってます。（9月30日記）



ハイブリッド芝の断面構造

川平キャンパスAT・S&Cレポート

「高校スポーツの安全を守る」Vol. 18

担当：浅野 勝成 助手

高校では後期の授業が開始しました。今年度も、健康スポーツコースに対して4つの授業を担当させて頂いております。1年生にはトレーニングの基礎（座学）とレジスタンストレーニング（座学＋実技）、2年生にはプライオメトリクスとアジリティ（どちらも座学＋実技）の授業を展開しています。他のATスタッフが担当する解剖学やスポーツ傷害などの科目もあります。日頃の練習やトレーニング、そしてコンディション調整などに応用できるように学習してもらえればと思いながら教鞭を取っています。

先日、解剖学の授業の一面でおもしろいことがありました。「太もも裏の筋肉は俗になんと呼ぶでしょうか？」という問いに対して大勢の生徒が自信を持って「ハム！！」と答えたことです。ハムとは私の大好きな食べる方ではなく、太もも裏の3つの筋肉から構成されるハムストリングの略語です。普段のトレーニングで鍛えることに重きを置いている部位の一つがハムです。その成果（？）なのか、生徒達が自然と部位と名前を覚えていたようです。その光景を目の当たりにした私は、つつい拍手をしてしまいました。

日々実践していることを授業で学ぶ、または授業で学んだことを実践に活かしてみる。ある種アクティブラーニングになっていると感じます。私自身も大学時代は、授業で運動生理学やバイオメカニクスなどを学習しながら、大学所属のS&Cコーチにお願いしてボランティアとしてインターンを3年間行って実務経験を積んできました。実践経験を積んでいるからこそその疑問が沸くことが多々あり、それを授業（もしくは教授に質問）で学ぶ。または、授業で学んだことを実践の場で確認してみる。やはり、座学も実践も双方のバランスを使い分けながら学習していくのがベストではないかなと改めて思います。この授業を通して、生徒達が“学び方”を習得し、大学や就職先での学びに活かしてもらえればなと思います。

次回は、前期の活動を振り返って（担当：白坂）

仙台空港（国際線・国内線）看板をリニューアル



日本語表記



英語表記



設置後の外観

9月9日（月）仙台空港1階（国際線・国内線エレベーター付近）に掲出している、本学の広告看板をリニューアルしました。

「本学と国際交流を行う11か国18大学・1機関」をテーマに仙台大学開学50周年記念交流イベントIFE in SENDAIで披露された国際交流を締結している大学の演武や舞踊等が紹介されています。

是非ご覧ください。

Monthly Report

Vol.162 / 2019.OCT

漕艇部がアジアボート選手権で銅メダル獲得



集合写真

10月23日～27日に韓国・忠州で開催された「2019アジアボート選手権」において、日本代表として出場した漕艇部メンバーが軽量級男子舵手なしフォア（LM4-）で銅メダルを獲得しました。

また今大会には本学卒業生も出場し、活躍しました。

○軽量級男子舵手なしフォア（LM4-）メンバー

杉浦 旭さん（体育学科 3年）
 信夫 涼さん（体育学科 3年）
 松浦大河さん（体育学科 4年）
 桑村 潤さん（体育学科 3年）

○アシスタントコーチ

猪股優人さん（健康福祉学科 4年）

○本学卒業生の活躍

三浦友之さん（NTT東日本所属）
 ダブルスカル 8位
 小野紘輝さん、中島希世紀さん（ともにチョープロ所属）
 舵手無しペア 5位

＜目次＞

・漕艇部がアジアボート選手権で銅メダル獲得	1
・朴澤泰治理事長・学事顧問が仙台キワニスクラブで講演「八村塁とNCAA」	2
・陸上競技部：日本選手権リレー男子4×400mリレーで銅メダル ・佐々木琢磨新助手が34年ぶりに日本ろう新記録を樹立 ・軟式野球部員が、家出人を無事保護	3
・軟式野球部：東日本軟式野球選手権大会東北地区予選で優勝 ・女子サッカー部：皇后杯東北大会で連覇達成 ・令和元年度 科研費研修会を開催	4
・2019プロ野球ドラフト会議で本学硬式野球部から2名が指名されました ・女子バスケットボール部：リーグ戦初優勝 3年連続17回目インカレ出場決定！	5
・健康福祉学科：介護ロボットセミナーを開催しました ・中山晴雄先生による頭部外傷セミナーを開催	6
・令和元年度 ハワイ大学アスレティックトレーナー研修 アドバンスコース（通算29回目）の実施報告	7 8
・2019マイナビベガルタ仙台レディース・スポンサー報告会開催 ・ラグビーW杯 アメリカ代表リエゾンオフィサーの金岡友樹氏が明成高校で講演会を開催 ・河北新報社主催「防災ワークショップ」が開催されました	9
・「仙台大学スポーツ懇話会～アスレティックトレーナーを高等学校現場へ普及させるには～」を開催しました ・第43回新日美展 ホルベイン工業賞受賞	10
・芝草通信 NO. 7 ・「高校スポーツの安全を守る」Vol.19	11

学生の活躍や、取り組みなどをご存知でしたら広報室までお寄せください。

Monthly Reportで紹介する他、報道機関にも旬な話題を提供して参ります。

本誌へのご意見・ご質問等がありましたら広報室までご一報ください。

仙台大学 広報室

直通 0224 - 55 - 1802

Email kouhou@sendai-u.ac.jp

朴澤泰治理事長・学事顧問が仙台キワニスクラブで講演「八村塁とNCAA」



講演の様子



10月10日（木）、仙台キワニスクラブの招きにより、朴澤泰治理事長・学事顧問は仙台国際ホテルにて「八村塁とNCAA」と題した講演を行い、約40名もの会員の方が熱心に耳を傾けました。

キワニスクラブは、全世界85ヶ国の主要都市に7400クラブ、約20万人の会員を有する奉仕団体で、ライオンズクラブ・ロータリークラブ同様、さまざまな慈善事業に力を入れています。

同クラブは活動の一環として、毎月2回講師を迎え講演会を開催しており、例会委員長で産経新聞東北総局長である廣瀬典孝氏じきじきの依頼により、講演会が実現の運びとなりました。

最初に、朴澤理事長・学事顧問は、人口減少のなかで新たに始まる教育の無償化など、大学を取り巻く環境は大変厳しい状況ではあるが、そのような時代ではあっても英知をもって次世代を担う人を育てる取組みを行っていきたくと抱負を述べました。次いで、今日は、米国の制度を参考にした日本の大学スポーツ界での新しい動向「UNIVAS」をテーマに、朴沢学園が経営する明成高校出身で、米国の大学スポーツ界(NCAA)で大活躍し、ドラフト1巡目9位でNBA入りし米国プロバスケット選手となった八村 塁を事例に、様々な動画で紹介することにより、スポーツ科学を専攻領域とする地方私学の取組みを紹介したい～ と挨拶されました。

八村塁選手は、明成高校を卒業後、アメリカ西海岸・ワシントン州にあるバスケットボールの名門ゴンザガ大学に入学、類まれな技術と礼儀正しく謙虚な人柄が周囲の方々に愛され、めきめきと頭角をあらわし、今年の6月、日本人として初めてNBAドラフトで指名されワシントン・ウィザーズに入団しました。

最初に、今では流ちょうな英語を駆使して、記者からの難かしい質問にもユーモアを交えて答え、来年開催される東京オリンピック男子バスケットボールの日本代表における最主力選手である八村選手も、高校時代は英語に苦労したことが動画で紹介されました。次いで、明成高校の男子バスケットボール部での人間性を陶冶する教育の事例として、2011年3月、東日本大震災で殆ど全ての場所が断水した際、明成高校バスケ・ラボにある屋外水道だけは通水があり、バスケ部の生徒たちが総出で給水作業を手伝い、地域の方からとても喜ばれる様子が示されました。さらに、八村選手の同期で、現在、日本の有力大学でバスケット選手として活躍している明成高校同級生たちが、「苦しい時に塁が支えてくれた」、「バスケットの楽しさを塁が教えてくれた」と口々に感謝する動画が流れました。八村選手がドラフト指名された場面では、講演会場にいた方々から歓声があがるなど、まるでドラフトの現場に自分たちもいたかのような臨場感で、聴衆者は魅了されました。

朴澤理事長・学事顧問は、最後に、現在、日本で開催され、盛り上がりを見せるラグビー・ワールドカップの日本選手が多国籍で構成されるチームになっている様相に触れ、「これは、これからの日本では、どのスポーツに限らず外国籍選手で構成される時代へのターニングポイントとなるのではないか。島国日本に単一民族が暮らす時代から、日本国自体が他民族を受け入れる時代へと変化する兆しを感じる」と述べました。

聴講していた一人で（株）東芝の東北支社長・谷内聡氏は

「いまやニュース・新聞で引っ張りだこの八村塁選手が、苦労しながら明成高校時代に恩師や仲間たちに恵まれ、素晴らしい選手に成長されたことがよくわかる価値ある秘蔵映像の数々に引き込まれました。八村塁選手には来年のオリンピックでぜひ活躍してほしいです」と述べていらっしゃいました。

2020東京オリンピック・パラリンピックに向けて、明成高校および仙台大学は、優れた選手や指導者の育成にますます真摯に取り組んでいくことを伝える貴重な場となりました。

陸上競技部：日本選手権リレー男子4×400mリレーで銅メダル

10月27日（日）に北九州市立本城陸上競技場で開催された第103回日本陸上競技選手権リレーにおいて、男子4×400mリレーで銅メダルを獲得しました。出場した選手はもちろんのこと、控えメンバーも全員で丸となって勝ち取ったメダルです。

今年度の全国規模の大会はこれで最後となりますが、来年度の日本選手権やインカレに向けて、厳しい冬期練習に励みます。

今後とも応援よろしくお願いします。

【結果】

男子4×400mリレー 第3位 仙台大学 3:09.89

1走 水戸 大了（運動栄養学科 3年）

2走 遠藤 大河（体育学科 3年）

3走 築場 丈（体育学科 3年）

4走 松本 宏二郎（大学院スポーツ科学研究科 2年）



全員で記念写真

< 報告：陸上競技部 >

佐々木琢磨新助手が34年ぶりに日本ろう新記録を樹立

9月28日（土）仙台大学陸上競技場にて第6回仙台大学競技会が行われ、男子100mに出場した本学新助手の佐々木琢磨が、10秒62（+1.5M）で日本ろう新記録を樹立しました。これまでの日本記録は10秒68で34年ぶりの更新です。

○コメント

今回はランプなしの音のみでスタートしました。遅れても気にせずに自分のレースに集中することができました。また、耳が聞こえる選手達も揃って争いましたが、良いタイムが出せたので、今回の経験は、今後のレースにつながります。

デフリンピック大会記録が10秒61なので国際大会でも良いタイムが出せるように今後も練習に励んでいきたいと思います。

引き続き、応援のほどよろしくお願いいたします。



佐々木琢磨新助手

< お手柄でしょう > 軟式野球部員が、家出人を無事保護



去る9月14日（土）、軟式野球部2年の吉永 太一さんはアルバイト終了後、自宅へ帰る途中に見知らぬ中学生から不意に声を掛けられましたが、話を訊くと家出中であることがわかったため、無事自宅まで送り届けました。中学生の両親は、警察に捜索願を提出し、正に捜索中でした。現在、本学では、学生による「ながら見守り活動」を実施中で、その模範的な行為を讃えて、10月30日（水）、大河原警察署から感謝状を贈呈されるとともに、遠藤学長からも表彰状と副賞及びお誉めの言葉を頂きました。

< 報告：学生生活室 >

軟式野球部：東日本軟式野球選手権大会東北地区予選で優勝

9月30日（月）～10月2日（水）まで仙台市民球場などで開催された第40回東日本大学軟式野球選手権大会東北地区予選、本学は決勝戦で東北学院大学を3対2で下し、予選1位で全国大会への出場を決めました。

9月30日（月）の1回戦では東北大学を14対0で6回コールド勝ちした後、10月1日（火）の2回戦、東北福祉大学を2対1の接戦で下し準決勝に進みました。

10月2日（水）準決勝では、宮城教育大学を9対5で下して決勝進出を決めました。同日から行われた東北学院大学との決勝戦、1対1の同点で迎えた7回裏、1アウト1塁、3塁からヒットエンドランで1点勝ち越し、さらにスクイズで1点を加え3対1とします。そして9回表、東北学院は連打で1点差まで追いますが、最後のバッターをセンターフライに打ち取り試合終了。東北地区予選で見事優勝を果たしました。

本学は準優勝の東北学院大学とともに、11月1日（金）～6日（水）まで大和市の大和スタジアムなど神奈川県内8会場で開かれる全国大会に出場します。

<報告：軟式野球部>



記念写真

女子サッカー部：皇后杯東北大会で連覇達成

10月5日（土）・6日（日）に行われた、河北新報旗争奪第38回東北女子サッカー選手権で、2年連続4度目の優勝を果たし、東北第一代表として11月2日から行われる皇后杯全日本女子選手権に出場します。

○結果

10月5日（土）準決勝

対 聖和学園高校 1-0 勝ち

10月6日（日）決勝戦

対 常盤木学園高校 1-1 PK戦5-3 勝ち



記念写真

前半33分に菅野 桃香選手（体育学科4年）が頭で押し込み先制。後半に追いつかれていましたが、PK戦で5-3と激戦を制しました。

今大会を通して厳しい試合が続きましたが選手達が試合の中で、相手をよく分析して、冷静に戦うことができました。

また今回の課題をしっかりと分析し、さらに精進いたします。

引き続き、応援の程よろしくお願い致します。

<報告：女子サッカー部>

令和元年度 科研費研修会を開催

10月1日（火）18：00～LC棟1階において「令和元年度 科研費研修会」を開催しました。今年度は外部講師として東北大学大学院医工学研究科の永富良一教授をお招きし、「知っておきたい研究計画作成のポイント」をテーマに、ご自身のこれまでの科研費獲得の経験を踏まえた貴重なお話を伺いました。研修後の質疑応答では、活発な意見交換がなされ一つ一つ丁寧に応えていただきました。令和2年度の科学研究費補助金獲得に向けたいへん有意義な研修会となりました。

<報告 学術会事務局>



硬式野球部：2019プロ野球ドラフト会議で本学硬式野球部から2名が指名されました

10月17日（木）に2019プロ野球ドラフト会議が行われ、本学硬式野球部から大関友久投手（体育学科4年）と佐藤優悟外野手（体育学科4年）の2名が指名されました。

指名後、江尻雅彦部長、森本吉謙監督と記者会見が行われ、今後の意気込みやこれまで支えてもらった皆様への感謝の気持ちを語りました。



大関友久投手（体育学科4年）

福岡ソフトバンクホークス育成ドラフト2位



プロ野球選手になるということが、小さいころからの夢であり、こうして指名して頂けたことはとてもうれしいです。

今後は試合に勝てる投手になり、チームに貢献できるように努力します。

佐藤優悟外野手（体育学科4年）

オリックス・バファローズ育成ドラフト7位



吉田正尚選手のようにスイングも豪快で、ホームランでファンの方を魅了できるような選手になりたいです。

また、今まで支えて下さった皆さんに恩返しができるよう頑張りたいと思います。

女子バスケットボール部：リーグ戦初優勝 3年連続17回目インカレ出場決定！

第20回東北大学バスケットボールリーグ兼 男子71回・女子66回東北大学バスケットボール選手権大会が、8月30日（金）～9月8日（日）（一次リーグ）、10月18日（金）～20日（日）（二次リーグ）に行われ、女子バスケットボール部創部以来となるリーグ戦初優勝を果たしました。（3年連続17回目の全国大会出場権を獲得）

首位で一次リーグを通過しましたが、他大学との勝ち点に差がなかったため、二次リーグに向けて、約一ヶ月間を気を引きしめて練習に励みました。

二次リーグでは苦しい場面もありましたが、コートでプレイしている選手だけではなく、控え選手も一体となり、チーム全員で勝利を勝ち取ることができました。

今後は、12月に行われる全日本大学バスケットボール選手権大会に向けて、更にレベルアップができるように練習に励みます。応援よろしくお願いします。



記念写真

○一次リーグ

仙台大学 ○94-60 富士大学
 ×92-105 山形大学
 ○103-69 岩手大学
 ○97-78 福島大学
 ○88-73 東北学院大学

○二次リーグ

仙台大学 ○70-68 福島大学
 ○81-78 山形大学
 ○96-60 東北学院大学

○個人賞

最優秀選手賞 柴田紅葉（健康福祉学科 4年）
 優秀選手賞 工藤明日香（体育学科 4年）
 千葉沙希（体育学科 3年）
 得点王 柴田紅葉（健康福祉学科 4年）
 リバウンド王 柴田紅葉（健康福祉学科 4年）

<報告：女子バスケットボール部>

健康福祉学科：介護ロボットセミナーを開催しました

10月4日（金）仙台大学LC棟において、明成高校介護福祉科に在籍している42名を対象に介護ロボット体験セミナーを開催しました。

介護現場等で導入されている最新の介護ロボットに触れることで、介護や支援の在り方について考える機会とすることを目的に、仙台大学が明成高校と連携して取り組みました。

移動支援型ロボットではHALやマッスルスーツを着けて重い荷物を持ち上げる体験、コミュニケーション型ロボットではPALROを用いたレクリエーションやOri Himeを通したコミュニケーション、赤ちゃんや動物モデルのロボットと触れ合うことによるコミュニケーションの体験をしました。また、認知症を持つ人の困りごとについてVR体験をし、本学学生と明成高校生と触れ合いながら、楽しく学ぶことができていました。

介護の魅力や介護に関する最新の情報を広く発信する大学として、今後も取り組んでいきます。

<報告：健康福祉学科>



セミナーの様子

中山晴雄先生による頭部外傷セミナーを開催

10月15日（火）17：00から本学LC棟で今年も東邦大学大橋病院脳神経外科から、国内スポーツ頭部外傷研究の第一人者である中山晴雄先生にお越しいただき、頭部外傷セミナーを開催いたしました。

命に関わる頭部外傷から選手の安全を守るために、

- ①頭部外傷後は、脳内の血流の低下が起こる事から、脳活動に変化が生じ、様々な症状を引き起こすことを理解する。
- ②受傷後24-48時間は、他の怪我と同様に、安静にすることが望ましく、しかしその後は症状に応じた活動をしていくことが、回復に良い影響を及ぼす。
- ③神経細胞の回復には睡眠が重要であるため、眠れるように支援する事は大切である。
- ④女性と男性、子供と成人では脳神経の太さが違い、女性と子供の方がより影響を受けやすく、また回復にも時間がかかるということを理解する。
- ⑤選手がチーム内で孤立しないよう、メンタルケアや状況に配慮することが大切である。
- ⑥受傷後の対処について、各教育機関や競技団体でのルール作りをしていくことが大切である。特に教育機関では、競技復帰の前に、就学復帰を支援する体制を築いていくことが必要である。
- ⑦我々スタッフは、各選手が脳震盪を起こした原因を究明・情報共有し、各選手に合わせた対策を実施し、再発の予防を目指すべきである。
- ⑧我々スタッフは、選手にとって一番良い判断を支援できるよう、常に情報収集し、それらをアップデートしていくべきである。
- ⑨脳震盪を複数回受ける事による将来的な問題は、まだ明らかになってはいない。しかしながら、脳震盪も他の怪我と同様に、繰り返さないことが非常に重要である。一度大丈夫だったからといって、次も大丈夫とは限らないということ、選手も我々スタッフも理解するべきである。

以上の周囲のスタッフが知っておくべき9つについてお話をいただきました。

今回は、本学教職員やアスレティックトレーナー一部学生ら25名が参加し、非常に充実した時間を過ごすことができました。

UNIVAS加盟大学として、今後本学での安全対策にも活かしていきたいと思えます。

中山先生には、台風19号の影響の中お越しいただき、一同深く感謝いたします。

<報告：アスレティックトレーナールーム>



記念写真



受講生の様子



セミナーの様子

令和元年度 ハワイ大学アスレティックトレーナー研修 アドバンスコース（通算29回目）の実施報告

9月2日～9月10日の日程で、ハワイ大学アスレティックトレーナー研修アドバンスコースを実施しました。参加学生は、男子1名、女子4名の計5名でした。引率には、朴澤泰治理事長・学事顧問、末永精悦教授、山口貴久准教授、佐藤美保広報室長、鈴木のぞみ助手の5人が携わりました。天候に恵まれ、すべての研修を予定通りに受講することができました。ただし、最終日には台風15号の影響を受け、帰国する飛行機の出発が予定よりも1時間半ほど遅れるという経験をしました。では、研修内容について報告いたします。

オープニングセレモニー

9月3日10時30分からハワイ大学マノア校キャンパス内にあるKRSという事務棟の会議室で行われました。入場早々、黒を基調とした素敵な首飾りをはじめとする記念品を贈呈されるなど温かく迎え入れてもらいました。スタッフのリーダーである金岡氏から研修日程の確認と要点、心構えなどが伝えられました。日本語ではなくすべて英語での説明でした。ハワイでの研修が始まったのだなあと実感いたしました。緊張しながらも学生の表情は意欲で輝いていました。ビギナーズコース経験者はさすがに違います。



献体解剖

9月3日14時からハワイ大学メディカルスクールで献体解剖に臨みました。メディカルスクールはハワイ大学マノア校キャンパスから車で25分くらいのところにあります。死後に医学の進歩と健康の増進に寄与したいという意思を示した方たちのご遺体を解剖するとの説明を受けました。その高潔な志に感服しました。写真や図表によってしか確認できない筋肉の構造や骨格の働きについてまさに実物で学習できたわけです。同行してくださった田村先生からも懇切な解説を日本語でしていただき、5人は学びを深めていました。

アメリカンフットボール早朝練習

9月4日の早朝5時30分からアメリカンフットボール部の練習を見学しました。日中の暑さを避け、効率的に成果を上げるためにこの時間に練習するとのことでした。金岡氏の指導を受けながらアスレティックトレーナーの在り方について考えを深めることができたようです。100人を超える部員が在籍しているので、テーピングにするにしても時間との勝負であることを理解できたという感想を学生から聞くことができました。

英会話

9月4日・5日の両日8時30分から2時間にわたる英会話教室に参加しました。講師はDon Pomes先生でした。Don先生のEnglish is easy!!!論のもと、学生は楽しく伸びやかに英語に触れることができたようです。初日は主に自己紹介を、2日目はATにとって必要な評価の仕方を英語で楽しく学びました。中学・高校時代から発音やイントネーションをもっと勉強すべきだったという学生の感想が印象的でした。

スパインボーディング

9月4日・5日の両日10時30分から2時間にわたり、アメリカンフットボール中の負傷を想定し、選手の装具を外し担架で搬送するまでの一連の流れを学びました。日本においても同様の学習はしています。しかし、英語を使って指示を出したり協力を仰いだりすることが難しかったようで、何をすればいいのかは分かるがそれを伝えられないというもどかしさを初日に味わったようでした。2日目には気分を転換できたようで、同じクラスで学んでいた立命館大学の学生との3本勝負に3対0で勝利を収めることができました。



マッキンリー高校アスレティックトレーナー

9月4日の14時30分から金岡氏が勤めているマッキンリー高校で、ATの実際の仕事について学びました。男子バスケットボール部のトレーニング指導の見学を通して、日米のATの在り方の違いを考えたり自分が実際にATになった時のイメージ作りをしたりすることができたようです。

女子バレーボール観戦

9月6日の夕方、女子バレーボール部の試合を観戦しました。大学内に観客席と売店を完備したホールがあることに驚きました。ゆったりと観戦することができるのです。観客を楽しませるためのイベントも用意されていました。男子バレーボール部員も応援に駆け付けるなど大学としての一体感の高さに感心しました。

アメリカンフットボール観戦

9月7日18時試合開始のアメリカンフットボールの試合を観戦しました。対戦相手はオレゴン州立大学で、会場は観客が数万人入るアロハスタジアムでした。入場料や飲食物持ち込み禁止などを考えると、ほぼプロと言える規模の試合でした。学生は、試合内容はもちろんのこと要所でのトレーナーの動きにも注意を向けていました。手に汗握る熱戦で最終的には僅差でハワイ大学が勝利しました。地元の応援の威力は誠にすばらしいものです。

ワークショップ エビデンスに基づく評価

9月5日14時30分から90分間の指導を受けました。評価（スペシャルテスト）の信頼性や各テストの優位性について学ぶことができたようです。「エビデンス」の重要性を再認識できたとの感想が学生から寄せられています。

トピック 脳震盪への対処

9月6日10時から約2時間の講義を受けました。ふだん大学で使っている脳震盪の評価ツールscat3とは違うツールを用いての評価方法を体験したようです。ここでも英語による説明や表現には苦労したようですが、途中でゲーム形式の問答もあり、耳がだいぶ英語の慣れてきたことを感じさせました。

クロージングセレモニー

9月6日12時から正規日程の最終となるクロージングセレモニーが、EDWIN S.N. WONG LOUNGEで行われました。ハワイ大学マノア校教育学部学部長Dr. Nathan Murataをはじめとするハワイ大学関係者の皆様、共に学んだ立命館大生の皆さんが参列する中で、和やかに進行了。一人ひとり思い出を英語で数分述べた後、Dr. Nathan Murataから修了証が手渡されました。会の締め括りとして朴澤泰治理事長・学事顧問が挨拶なさいました。その後、会食となり、参列者一同、おいしい料理に舌鼓を打ちながら、時間の許す限り交流を深めました。

充実した8日間をハワイで過ごすことができました。入念な事前準備、現地での関係者の皆様の心配り、そして5人の参加者のやる気と出会いを大切にする姿勢がその要因です。現地関係者の中でも陰に陽に懇切に対応してくださったのが村上泰司さんでした。村上さんは仙台大学卒業後渡米し、2018年7月からハワイ大学大学院のプログラムを受講し2年目を迎えています。2020年5月の卒業予定で、現在、ハワイ大学や近隣の高校で実習に励んでいるとのこと。彼の言動一つ一つが参加者5人にとって大きな指針になったようです。

<報告：末永精悦教授>



2019マイナビベガルタ仙台レディース・スポンサー報告会開催

11月2日（土）「2019マイナビベガルタ仙台レディース・スポンサー報告会」が今シーズン最終戦終了後、ユアスタで開催され、朴澤理事長兼学事顧問と中村明成高校校長が参加しました。学校法人朴沢学園が早稲田大学スポーツ科学部卒業生である同チームの奥川千沙選手の雇用主になっていることから、スポンサー企業として招かれました。

奥川選手は、ディフェンスの要としてチームの重責を担っていますが、今シーズンは途中で負傷し、残念ながら不本意なシーズンとなってしまいました。

現在は、負傷個所の手術も終了し、併せて古傷についても加療して来シーズンに備えているところであり、仙台大学明仙フィールドで敷設している明成高校生向けATルームでリハビリの傍ら、仙台大学職員としてスポーツマネジメント分野の業務に従事する毎日となっております。

<報告：朴澤理事長・学事顧問>



写真左から朴澤理事長・学事顧問、西川社長、奥川千沙選手

<高大連携>ラグビーW杯 アメリカ代表リエゾンオフィサーの金岡友樹氏が明成高校で講演会を開催

10月24日（木）明成高校でラグビーW杯 アメリカ代表リエゾンオフィサーの金岡友樹氏が講演会を開催しました。金岡氏は、ハワイマッキンリー高校でアスレティック・ヘルスケア・トレーナーとして勤務するかたわら、本学の「NATAアスレティックトレーナーの実際Ⅰ・Ⅱ」の講義を行っています。

講演会では「私とラグビーとアスレティックトレーニング」と題し、ラグビーに関わってきたこれまでの人生を振り返り、ご自身の夢を叶えることができた一番の理由は「日本を離れ、海外留学から様々な体験と出会いがあったことだ」と生徒達に熱く語っていただきました。



講演中の金岡友樹氏

河北新報社主催「防災ワークショップ」が開催されました

11月1日（金）、河北新報社主催の「防災ワークショップ」が本学LC棟を会場に開催され、東日本大震災の記憶がまだ冷めぬうちに、被災した際の対応の在り方、防災・減災への課題について住民同士が語り合い、これからの減災に活かそうというもので、宮城県内の大学生や地元住民が参加して行われております。

今回は本学学生7名と柴田町内の区長3名が参加し、東北大学災害科学国際研究所の講師及び河北新報社の防災・教育室の方がコーディネーターを務めながら、経験談や課題を出し合いました。

話し合いの中では、先月の宮城県地方に最接近した台風19号による豪雨の避難の事例も含め、たくさんの意見が活発に飛び交いました。ポイントとしてはやはり備えが最も重要であることが再確認されました。今回の台風もそうであったが、数年前の西日本豪雨の際も決して雨量が多いところが甚大な被災地ではないこと、即ち、常に雨量の多い地域（高知など）はそれなりに備えをしており、逆にそうでない地域（広島・岡山等）が甚大な被災地となったこと等が例示された。また、興味深いことは、町内の区長さんたちから、仙台大学の若い学生が近くに住んでいるということだけで、高齢者にとっては大きな安心になっているとの話がだされた。多くの若い本学学生が町内に居住していること、それだけの意義は想像以上にありそうだと認識させられた会となりました。

<報告：学生支援室>



「仙台大学スポーツ懇話会～アスレティックトレーナーを高等学校現場へ普及させるには～」を開催しました



ハワイ州のアスレティックトレーナーについて話している金岡友樹氏



全体の様子

10月29日（火）に「仙台大学スポーツ懇話会～アスレティックトレーナーを高等学校現場へ普及させるには～」を開催しました。

本会は、本学遠隔授業「NATAアスレティックトレーナーの実際Ⅰ・Ⅱ」の講師であり、ハワイ州立マッキンリー高等学校でヘッドアスレティックトレーナーとして活躍されている金岡友樹さんが、ラグビーワールドカップのアメリカ代表チームリエゾンオフィサーとして来日されている機会を利用して、高等学校へアスレティックトレーナーを普及させる方法を検討するために、学内外から広く意見を求める目的で企画されました。金岡氏の他にも、株式会社エフエム仙台専務取締役でスポーツコミッションせんだいアドバイザーの児玉聡氏、仙台市スポーツ振興事業団専務理事の清水義明氏、宮城柴田高等学校長の土生善弘氏、明成高等学校長の中村勝彦氏に学外メンバーとして参加していただきました。

金岡氏の講義では、ハワイ州の公立高校にアスレティックトレーナーの配置義務が条例で定められた経緯から、現在の勤務体系や予算に至るまで、ハワイ州のアスレティックトレーナーについて幅広く話していただきました。その後、本学が実施している高校へのアスレティックトレーナー派遣モデルの紹介として、高橋陽介准教授と白坂広子助手が、それぞれ明成高等学校で行っている活動内容について報告しました。

これらの発表を受け、懇話会メンバーからは「是非日本でも取り入れるべきだが、そのためには人材と財源の確保が一番の課題であろう」ことが示されました。また「高校部活動にも必要だと思うが、むしろ育成年代である小・中学校へ普及させることの方が重要ではないか」という意見もいただきました。

本学では今回の懇話会を皮切りに、さらに議論を重ね、アスレティックトレーナーの職域拡大について画策していきます。

<報告：山口貴久准教授>

第43回新日美展 ホルベイン工業賞受賞

～ UN DIA DE NOVIEMBRE（11月のある日） ～

この度、予算管理室の只野健一室長が第43回新日美展（主催：新日本美術協会、後援：文化庁・東京都）に『UN DIA DE NOVIEMBRE（11月のある日）』という絵画を出展し、栄えあるホルベイン工業賞を受賞されました。

9月27日～10月5日まで東京都美術館で展示された後、本学LC棟1階に寄贈いただきました。ホルベイン工業（株）は大阪に本社がある絵具など絵画材料の製造販売を行う大手企業で、新日本美術協会を長年バックアップしており、その画材メーカーから賞を頂くのは大変名誉なことです。

只野室長からは「rain」（第5体育館2階に展示）、「un dia despues そのあくる日」（第5体育館2階会議室）、「組曲」（LC棟1階）に続き4点目の寄贈となりました。

作品名である『UN DIA DE NOVIEMBRE（11月のある日）』とは、世界的に有名なクラシックギタリスト、レオ・ブローウエルによる同名の曲があり、只野室長ご自身もその曲を演奏なさるそうです。作品はF80号サイズと大きなもので、完成にいたるまで実に1年以上かかったとのことでした。

受賞に際し只野室長は「たいへん嬉しく思います。」とおっしゃっています。

黄色とオレンジのイチオウの葉をモチーフに樹木の影をブルーで表現した大変ユニークな作品は、LC棟1階を訪れる方々を明るく迎えてくれます。



『UN DIA DE NOVIEMBRE（11月のある日）』



第43回新日美展

芝生（ハイブリッド芝）の視点からラグビーワールドカップを楽しむーその2

日本代表は前回号（9月30日記）から更に勝利を重ね4戦全勝で初めてベスト8に進出して、歴史的な快挙として称賛の声が上がりました。優勝した南アフリカに準決勝で負けましたが、その戦いぶりは見事で、日本中が盛り上がり今回のラグビーW杯は大成功と世界中から認められました。

準々決勝が行われた大分スポーツ公園総合競技場と東京スタジアム、更に準決勝が行われた横浜国際総合競技場はそれぞれの会場では二日連続で、2試合が行なわれました。スクラムの回数など試合の内容によって天然芝生の損傷に違いがありますが、ラグビー競技の特性である芝生の剥離は各チームの試合に懸ける意気込みに比例して違いがありました。またその損傷をカバー出来る「ハイブリッド芝」の機能により素晴らしい天然芝生のグラウンドを世界に提供できたと感じました。一方、各会場においてはグラウンドごとの特色も見えてきました。前回紹介した種類の「ハイブリッド芝」の違いや整備の違いによって剥離の状態も違っていました。又同じ構造の『ハイブリッド芝』でも天然芝生が寒地型か暖地型かによっても違いがあるようです。

専門的な話で恐縮ですが、直立系の匍匐茎を持たない寒地型洋芝はメンテナンスが比較的容易で、地面すれすれを伸びていく匍匐茎がある暖地型洋芝はメンテナンスに工夫が必要で、それによって剥離の生じ方が違います。その事を今回準々決勝が行われた東京スタジアムを翌日視察して、現地でテクニックを教示して頂き貴重な研修が出来ました。この東京スタジアムは大きな剥離は無く、小さな剥離でも人工芝生が残り、表層を守っていました。（11月3日記）

<東京スタジアムの2試合連続終了翌日の状態>



写真1. 西側遠景
大きな剥離は無い



写真2. 近景
小さな剥離部分



写真3. 接写
先端の色の濃い人工芝

川平キャンパスAT・S&Cレポート

「高校スポーツの安全を守る」Vol.19

担当：白坂 広子 助手

○前期まとめ

令和元年の前期が終了しました。川平AT・S&Cの前期の主な活動とその結果をまとめたいと思います。

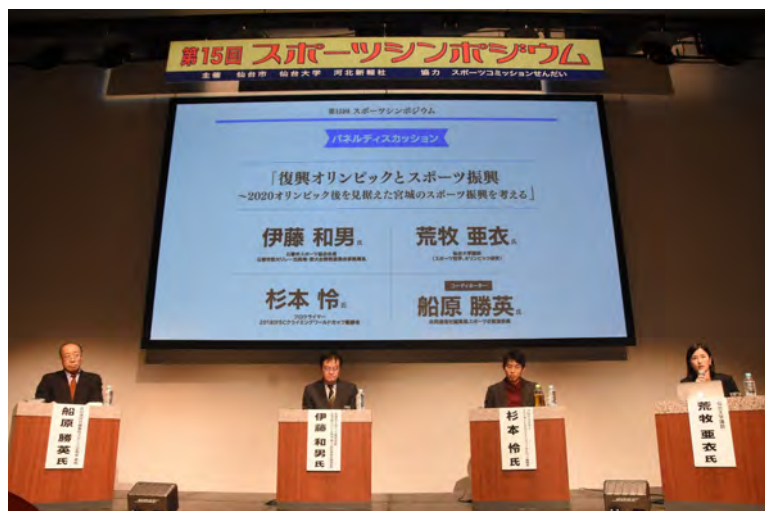
- ・4月はFESを開催し、指定研究部活動に所属する新1年生全員のフィジカルチェックを行いました。
- ・5月はFESのフィードバックを行う中、男子サッカー部の高校総体予選と陸上競技部の高校総体県大会が行われ、男子サッカー部は県大会出場、陸上競技部は800mと1500mで東北大会出場を決めました。
- ・6月は女子バスケ、女子サッカー、男子バレーボール部の高校総体県大会が行われ、女子バスケ部は優勝しインターハイへ進出、男子バレーボール部はベスト8入りを果たし、女子サッカー部は4位となりました。
- ・7月は各部活動に熱中症講座を開催、明成フェスティバルでの対応を行いました。
- ・8月は遠征や合宿などへ出発する各部活動へのフィジカル準備や対応、そして明仙フィールドで開催される各種の大会のサポートを行いました。そして女子バスケ部はインターハイに出場、2回戦敗退という結果ではありましたがすべてを出し尽くした素晴らしい試合となりました。
- ・9月は男女サッカー部の県選手権が行われ、男子サッカーは現在も勝ち進んでいる状況、そして女子サッカーは4位という結果でした。そして健康スポーツコースを対象に体育授業も始まっています。

テーマは「運動学」、「コンディショニング」、「レジスタンストレーニング」など多岐に渡っています。令和元年前期は新1年生の春の怪我を減少させ、3年生の集大成となる高校総体で結果を出すためのサポートをすることを大きな目標としてきました。毎年同じ目標を持っているのですが、今年は前年度までの傾向と反省を最も反映させた活動にしました。FESはその大きなステップとなり、実際に新1年生に発生する春の怪我は減少につながりました。しかしながら、3年生でメインとなる生徒の怪我が目立ち、高校総体に出場できなかった生徒がいました。これには力不足を感じ、また新たな反省材料とし来年に生かしていくしかありません。ATとS&Cがフルタイムで関わっている高校は全国的にみてもありません。もっと結果を出さなくては、と心意気を新たに後期も活動が続けていきたいと思っています。

Monthly Report

Vol.163 / 2019 .NOV

第15回スポーツシンポジウムを開催しました



「復興オリンピックとスポーツ振興～2020オリンピック後を見据えた宮城のスポーツ振興を考える～」題した、パネルディスカッション時の様子

11月18日（月）18：00～20：30、せんだいメディアテークを会場に、仙台市・河北新報社・仙台大学の共催及びスポーツコミッションせんだいの協力により「第15回スポーツシンポジウム」が開催され130名が聴講しました。

2020東京オリンピック・パラリンピックを来年に控えた今回のテーマは「震災からの復興とオリンピック」で基調講演とパネルディスカッションが行われました。

開会あいさつでは、遠藤学長とともに、2020東京五輪ベラルーシ新体操競技仙台大学・柴田町・白石市ホストタウン親善大使であるセベツ・アリーナさんも登壇し、来場者に丁寧な日本語で語りかけると会場はあたたかい拍手で包まれました。

その後「復興とオリンピック」をテーマに、筑波大学の真田久教授による基調講演が行われ、嘉納治五郎氏のスポーツを通じて関東大震災からの復興を目指した理念と実行力で1940東京オリンピック誘致に尽力した功績、幻のオリンピックからレガシーが引き継がれ平和の尊さを訴えた第二次世界大戦後のアジア初1964東京オリンピック開催、そして2020東京オリンピックでは災害に対する「スポーツの力」の挑戦となる大会となることなどが話されました。

「復興オリンピックとスポーツ振興～2020オリンピック後を見据えた宮城のスポーツ振興を考える～」と題し、パネリストに石巻市スポーツ協会会長の伊藤和男氏、2020東京五輪正式種目となったクライミング競技のプロクライマーで2018 I F S Cクライミングワールドカップ優勝の杉本怜氏、本学の荒牧亜衣講師を迎え、共同通信社編集局スポーツ企画室委員の船原勝英氏がコーディネーターを務めパネルディスカッションが行われました。地域の課題等を考慮しながら、より長期的な視点で有形無形のレガシーをどう着実に残していくか、競技者、運営者、研究者それぞれの立場から活発な意見交換がなされました。スポーツを科学する体育大学として、仙台大学の存在感をより一層深めるシンポジウムになりました。

<報告：学術会>

< 目 次 >

・第15回スポーツシンポジウムを開催しました	1
・学生たち新聞製作し配布／スポーツシンポジウム ・「保護者のための就活セミナー」を開催しました	2
・10連覇達成！東北地域大学女子サッカーリーグ ・男子バレーボール部：東北地区大学体育大会 優勝 ・男子バレーボール部：東西大学選抜強化合宿（ユニバーシアード選考会）参加	3
・令和元年度東北学生バドミントン秋季リーグ戦 結果 ・全日本大学対抗選手権大会（2部）～男女個人で表彰台に8名入賞！団体でも男女ともに最高順位で有終の美！～	4
・体操競技部：南、W杯シリーズV ・バドミントン部：高校生に情報戦略サポート講習会を開催 ・「令和元年度（前期）健康づくり運動サポーター認定証授与式」を開催	5
・「キャンパスライフサポートグループ」による交流活動を実施 ・芝草通信 NO. 8	6
・楽天生命パーク宮城にて第4回スポーツ施設見学会が開催されました ・「高校スポーツの安全を守る」Vol. 20	7

学生の活躍や、取り組みなどをご存知でしたら広報室までお寄せください。

Monthly Reportで紹介する他、報道機関にも旬な話題を提供して参ります。

本誌へのご意見・ご質問等がありましたら広報室までご一報ください。

仙台大学 広報室

直通 0224 - 55 - 1802

Email kouhou@sendai-u.ac.jp

スポーツ情報マスメディア学科： 学生たち新聞製作し配布／スポーツシンポジウム



自ら取材し製作した新聞紙面を聴講者に配るスポ情の学生たち



発刊された新聞

スポーツ情報マスメディア学科で開講する「スポーツ取材・報道演習A」を学ぶ学生30人は11月18日（月）、本学が河北新報社、仙台市と共に主催する第15回スポーツシンポジウムで、実習として新聞を製作し講者約130人に配りました。

パネルディスカッションの終了後に配られた新聞「仙台大学タイムス」はA4判サイズでカラー2カ面。当日のテーマ「震災からの復興とオリンピック」に基づく内容で、基調講演や討論会の様子を盛り込みました。1カ面を読むとシンポ全体が分かり、2カ面は聴講者の声が写真とともに紹介されています。これらはいずれも学生たちが自ら取材し執筆・撮影したものです。会場の一角でパソコンと格闘しながら紙面を作っていく、出来上がった紙面データは近くのコンビニエンスストアに走りコピー機で出力しました。

会場で手に取った聴講者からは「まるで号外みたい」「まさに本物の新聞」「内容も面白い」といったお褒めの言葉をいただきました。同学科は今後も「楽しい」「面白い」授業の展開に挑戦して参ります。

<報告：スポーツ情報マスメディア学科>

「保護者のための就活セミナー」を開催しました

11月2日（土）本学において、3年生の保護者の方を対象に、学生の就職活動について理解を深めていただくために「保護者のための就活セミナー」が実施され、144名の方々にご参加いただきました。

冒頭に遠藤保雄学長からの挨拶の後、前半では「仙台大生の就職活動の特徴と保護者の役割」と題し、本学の学生に焦点をあてた切り口で、創職チームリーダーの藪耕太郎准教授より説明がなされ、引き続き「教員採用試験の現状と対策」について、教職支援センター長の金井里弥准教授より本学の学生の教員採用試験への出願状況や各自治体の教員採用試験の状況、また教員志望者への支援や取り組みを説明いたしました。

後半には、本学OBでもある株式会社ディスコ東北支社の貫洞直希氏より「大学生を取り巻く就職環境と就活における親の関わり方」をテーマに、現在の就職環境や就職活動の流れ、保護者が理解しておくべきことや役割について講演頂きました。

これからも入試創職部では、目まぐるしく変わる就職環境の中で学生一人一人が十分納得した就職活動ができるよう支援を継続してまいります。

<報告：入試創職室>



女子サッカー部：10連覇達成！東北地域大学女子サッカーリーグ

10月26日（土）インカレの予選を兼ねた東北地域大学女子サッカーリーグの最終戦が八戸学院大学サッカー場で行われ、八戸学院大学を3-0で勝利し、10連覇を達成しました。



【東北地域大学女子サッカーリーグ】

○最終戦

対 八戸学院大学 3-0で勝利

悪天候・グラウンド不良でしたが、選手達は我慢強く、賢く戦ってくれました。

12月24日（火）からのインカレ本大会では、ベスト4進出を目指し、努力していきます。

今後ともご支援の程、何卒、よろしくお願い致します。

<報告：女子サッカー部>

男子バレーボール部：東北地区大学体育大会 優勝

第70回東北地区大学体育大会バレーボール競技が11月2日（土）3日（日）に仙台大学第5体育館で行われ、2日は2回戦で青森大学と、3日は準決勝で東北福祉大学、決勝で東北学院大学と対戦しました。

2回戦 仙台大学 2（25-16、25-21）0 青森大学

準決勝 仙台大学 2（25-23、25-19）0 東北福祉大学

決勝 仙台大学 3（25-17、25-19、25-19）0 東北学院大学

秋リーグで敗れた東北学院大学に決勝で勝利し優勝することができました。

今後も男子バレーボール部の応援のほどよろしくお願いいたします。

<報告：男子バレーボール部>



男子バレーボール部：東西大学選抜強化合宿（ユニバーシアード選考会）参加

10月30日（水）～11月4日（月）にナショナルトレーニングセンター（NTC）で開催された東西大学選抜強化合宿（ユニバーシアード代表選考会）に本学男子バレーボール部で体育学科3年の十文字龍翔選手（福島県郡山北工業高校出身）が参加してきました。この合宿は東日本と西日本の大学からそれぞれ14名が選抜されるものであり十文字選手は北海道、東北、北信越地区の代表としての参加となりました。

○今回の合宿で学んだこと、感じたこと

「今回の合宿では自分のレベルの低さを改めて感じました。技術、体力、メンタルすべてにおいて2～3段階劣っていました。しかし「これは技術を盗む良い経験だ」と思い必死に食らいつき頑張りました。各ポジションの自分がうまいと思った選手を観察し勉強しました。自分が学んだことをチームに還元できればいいと思います。」

○今後の目標や将来のビジョンについて

「全日本インカレにおいては時間のない中ではありますが、高さのあるチームに対しての対応をしっかりと4年生にプレーで恩返ししようと思います。個人としては自分のレベルを高めつつ4年生になるということで後輩たちに目を配りチームをまとめ後悔のない4年目を送りたいです。将来はVリーガーを目指して頑張ります。」

<報告：男子バレーボール部>



十文字龍翔選手（体育学科3年）

バドミントン部：令和元年度東北学生バドミントン秋季リーグ戦 結果

11月9日（土）～11日（月）、仙台市青葉体育館にて令和元年度東北学生バドミントン秋季リーグ戦が行われ、男女とも、最終戦前最下位という状況を逆転して3位になりました。

男子 1勝2敗（得失マッチ差にて3位）

× 1-3 東日本国際大学

× 2-3 富士大学

○ 3-2 東北学院大学

女子 1勝2敗（得失マッチ差にて3位）

× 2-3 東北学院大学

× 1-3 東北福祉大学

○ 3-1 東日本国際大学

男子Bリーグ（レギュラー以外の選手のトーナメント戦） 準優勝

1回戦 ○ 3-1 東北大学B

準決勝 ○ 2-0 富士大学B

決勝 × 0-2 東日本国際大学B

男子は成田行磯（体育学科1年）が単3勝、複2勝1敗で5勝1敗とチームを牽引しました。特に、東北学生選手権シングルスチャンピオンをストレートで勝利したことは価値がありました。

女子も徳能あすか（現代武道学科3年）が単3勝、複2勝1敗で5勝1敗でした。最終戦3-1での勝利が3位になるための絶対条件という中で松田ほのか（体育学科4年）が意地を見せてシングルスで逆転勝利、ダブルスでも敗色漂う中から逆転勝利を収めました。

Bリーグは、主将の二階堂弘貴（体育学科3年）を中心に勝ち進みました。それぞれが力をつけてきていることがよくわかる戦い方をしていました。決勝は敗れてしまいましたが、レギュラーを脅かす存在となれる選手も出てきています。

男女両エースは東北トップの力をつけてきています。それに次ぐ2番手選手の育成を課題として来季での頂点を目指して精進いたします。

<報告：バドミントン部>



集合写真

ウエイトリフティング部：全日本大学対抗選手権大会(2部)

～男女個人で表彰台に8名入賞！団体でも男女ともに最高順位で有終の美！～

11月1日（金）～3日（日）に大阪府羽曳野市で全日本大学対抗選手権大会(2部)が開催されました。

この大会で61kg級の戸嶋響愛（体育学科2年）の優勝を皮切りに表彰台に男女で8名の学生が昇りました。

その中に、女子55kg級 大野美幸（健康福祉学科4年）は準優勝、男子109kg級 保科魁斗（体育学科4年）も共に表彰台に昇り、最後のインカレで有終の美を飾りました。

また団体においては、男子が第3位、女子が第2位と過去最高順位で終わることができました。これは、学生一人一人がチームのために日々努力してくれたことが良い結果に繋がってくれたのではないかと思います。

残念ながら1部に昇格とは行かず、改めて1部昇格の壁は高いと感じました。この壁をどうやって超えていくかは来年度の課題にし、1部昇格に向けてこれからもチーム一丸となって頑張っていきたいと思います。

○8名に入賞者

【男子】

61kg級 戸嶋響愛(2年) スナッチ優勝 クリーン&ジャーク優勝 トータル優勝

96kg級 橋本豊夢(2年) スナッチ準優勝 クリーン&ジャーク3位 トータル3位

109kg級 保科魁斗(4年) スナッチ優勝 クリーン&ジャーク優勝 トータル優勝

【女子】

55kg級 大野美幸(4年) スナッチ準優勝 クリーン&ジャーク3位 トータル準優勝

64kg級 大谷江里奈(2年) スナッチ3位 クリーン&ジャーク優勝 トータル準優勝

高橋凜 (1年) スナッチ準優勝 クリーン&ジャーク4位 トータル3位

76kg級 福塚真羽(3年) スナッチ3位 クリーン&ジャーク準優勝 トータル準優勝

81kg級 遠藤朱李(2年) スナッチ準優勝 クリーン&ジャーク準優勝 トータル準優勝

<報告：ウエイトリフティング部>



集合写真

体操競技部：南、W杯シリーズV

本学体操部の南一輝（体育2年）がまたもやってくれました。国際大会で堂々の優勝です。東京五輪につながる種目別ワールドカップ（W杯）シリーズ第5戦、コトブス国際（ドイツ・コトブス）に出場した南は23日、男子床運動の決勝で15.100点をマークし同種目を制しました。「床のスペシャリスト」一。まさにその名にふさわしい活躍です。

引率した鈴木良太監督（本学体操競技部監督）によると、南は21日の予選前半を1位で通過すると、8人による決勝の舞台も伸び伸びとした演技でまとめました。

W杯シリーズは来年3月までの8大会のうち、成績のいい3大会の結果で各種目トップが五輪出場権を得ます。南は夢の五輪代表入りを目指して着実にポイントを重ねています。今後ご声援をお願いします。

<報告：体操競技部>



コトブス国際大会で優勝した南一輝（中央）

バドミントン部：高校生に情報戦略サポート講習会を開催

11月17日（日）福島県尚志高等学校バドミントン部から依頼を受け、競技における情報戦略サポートを行いました。バドミントン部監督・林直樹准教授と、スポーツ情報マスメディア学科1年・須田翔大さん（スポーツ情報サポート研究会・バドミントン専属アナリスト）が、本件について担当しました。

バドミントンのゲームにおいて情報を収集して分析していく手法とそこで得た情報の整理について、まずは講習を行って説明し、その後に実際のゲーム練習の中で実習を行いました。

高校生たちは新たな試みに戸惑いながらも、ディベートの際には活発に発言し、自分自身や仲間のプレーの傾向などについて議論していました。顧問の先生方についてもデータの見方について説明し、今後の競技力向上の一助となることを期待させる講習となりました。

今後も東北地方の高校へのサポート活動など積極的に地域に関わっていきけるよう、活動して参ります。

<報告：バドミントン部>



実際にゲームを通して情報を分析する様子

「令和元年度(前期) 健康づくり運動サポーター認定証書授与式」を開催



認定証書授与式



中級指導実習



養成講座

11月26日（火）に健康づくり運動サポーターの認定証書授与式を開催しました。今回は令和元年前期の資格認定評価会で認定された初級7名、中級1名に対して認定証書が授与されました。今回の認定者を含めこれまで延べ603名が本資格を取得してきました。

今回中級を取得した長谷川麗央さん（健康福祉学科2年）は「中級受講者が1人だったが、たくさんのサポートもあり、取得することができた。来年度は上級を受講し、さらにスキルアップしたい」。初級を取得した安部美里さん（体育学科3年）は「現場実習のとき、参加者とコミュニケーションをとる難しさを実感した。今後中級を受講し、将来に活かしたい」と2名の学生が今後の抱負を述べてくれました。

この資格取得には、全10回の講義受講と地域の運動教室での現場実習や指導実習が必要となります。実際に地域の方々と関わりながら学生はコミュニケーション能力や指導力、ホスピタリティを身に付けます。

多くの学生がこの活動を経験し、「安全に」「元氣よく」「楽しい」運動指導のできる実践力を身に付け活躍できるよう今後もサポートして参ります。

<報告 田中亨新助手>

「キャンパスライフサポートグループ」による交流活動を実施

11月14日（木）本学の学生支援センター前にて今年度2回目となるキャンパスライフサポートグループによる本学の学生や留学生たちの交流活動が行われ、学生116名、留学生7名、教職員11名、合計134名が参加しました。

今回の活動の目的は、学生が主体的に活動を企画し活動・運営を行うことによって、学生同士が協力して助け合い、共に考え合う経験を通して友達の輪を広げることで、活動はキャンパスライフサポートグループに登録している学生が中心となり、学生支援センターの教職員スタッフが支援する形で企画・運営を行いました。

食材を食べやすい大きさにカットしたり、こんにゃくをちぎったりする作業は留学生が中心となりました。

ポスターを学内に張り宣伝することによって多くの学生たちが足を運び、嬉しそうに芋煮を頬張り、「美味しい」「寒いから温まる」という嬉しそうな声が聞こえ、はじめて出会う学生たち同士でも国境や学年を越えて楽しそうに交流する姿が見られました。

今回は風の強い中での活動となりましたが、みんなで協力し合い安全に楽しく活動をすることができました。本グループの活動は、誰でも自由に参加することを念頭に置いているため、一緒に活動することでサポートグループの「楽しい雰囲気」を感じることができます。季節に応じた簡易な調理による共同作業を通して、共に協力し合い学生同士のつながりや関わりを深めることができ、充実した活動となりました。

（報告：学生支援室 廣谷珠奈 臨時職員）



芝草通信 NO. 8

担当：野口 翔 新助手

芝生実習と冬の管理について

12月になり、最近は寒さも厳しくなってきました。芝生も霜が降りると一気に緑色から茶色へと変色し冬支度へと入っていきます。今回は、先日行った芝生実習と、今後の芝生の管理について紹介したいと思います。

1. 芝生実習

11月26日（火）に今年最後の芝生の刈込を「スポーツターフ管理概論Ⅰ」の講義内の実習で行いました。

①手押しリールモア（写真1）

歯車式の家庭用の刈込機です。10台を横に並べて順番に刈込をしてもらいました。

②手押しロータリーモア（写真2）

エンジン付きの刈込機です。長い芝生を刈りこむときに使います。

③自走式リールモア、グリーンモア（写真3）

エンジン付きの刈込機で、ゴルフ場のグリーンなど細かい芝生を刈るときに使用します。仙台大学の噴水周りはこの芝刈り機を使うことが多いです。



写真 1 手押しリールモア



写真 2 手押しロータリーモア



写真 3 自走式 リールモア

2. 冬の芝生管理

以前も紹介しましたが、仙台大学の噴水周りの芝生は「コウライシバ」と呼ばれる暖地型の芝生です。夏は緑色ですが、冬になると茶色く枯れたようになります。しかし、実際には、地中の根は休眠しているだけなので翌年の春咲きにはまた、茎をのばして緑色の葉を出します。

そこで、冬に入る12月までに肥料や刈込を行い、来春の芽出しを促す準備を行います。また、地中で休眠しているとはいえ、芝生の上を歩かれるとダメージを負い枯れてしまうこともあるので、12月から3月の間、養生期間として立ち入りを制限させていただくことになりますが、健全な芝生の育成のためご協力のほどよろしくお願いいたします。

楽天生命パーク宮城にて第4回スポーツ施設見学会が開催されました

11月17日（日）に楽天生命パーク宮城において「スポーツ施設管理概論」及び「スポーツターフ管理概論」の授業の補講として施設見学会が行われました。

この授業は、スポーツ施設管理の法的規制や基本事項を学ぶとともに、県内にあるスポーツ施設を実際に見学して知識修得を促進するものであり、昨年に仙台大学と楽天野球団との間で締結したアカデミックパートナーシップの一環として、楽天生命パーク宮城の見学会は4回目の開催となりました。

担当の小島文雄体育施設管理コンサルタント兼非常勤講師の引率の下、56名の学生が参加しました。

株式会社楽天野球団 経営企画室長 江副翠氏、ボールパーク本部施設管理グループ マネージャー 長谷川誠一氏 営業本部 横山ゆりか氏より、楽天野球団の戦略、スタジアムのコンセプト、安全管理体制等に関する講義を受け、その後球場や管理施設を見学し、天然芝生・クレイグラウンド整備の機械や、グラウンドの天然芝生の生育状態を確認しました。

参加した学生からは「天然芝生を間近で観察し、理解が深まった」、「特に普段見ることが出来ない芝生の管理やサブエアーシステム（芝生の床に暖房した空気を送風したり雨水を吸引したりするシステム）を学ぶことができたことは大変貴重な体験でした。」と感謝の声が多く上がっていました。



映像を見ながらの講義



映像を見ながらの講義



天然芝生遠景



天然芝生接写

川平キャンパスAT・S&Cレポート

「高校スポーツの安全を守る」Vol. 20

川平アスレティックトレーニングルーム(以下川平ATR)では、職員間への救急法講習会、特定研究指定部活動への傷害予防講習会をそれぞれ実施致しました。本年度より、川平キャンパス勤務となった3名の管理栄養士と、明仙フィールド管理を担当されている方を含め4名に対して、白坂広子助手が救急法講習会を開催致しました。突然誰かが倒れてしまった時に、その現場近くにいる誰かが、迅速で適切な対応をしなければ、倒れた人の命を救命することが困難となります。救急車要請の判断、そして救急車到着までの間に現場で行う救命処置の有無が、救命率を大きく左右するため、意識がない傷病者が発生した場合、適切な心臓マッサージやAED(自動体外式除細動器)の使用をしなければなりません。そんな時に咄嗟に行動を起こすことが出来るかどうかは、日々の意識づけは勿論ですが、正しい教育活動なくしては成し得ないと思います。白坂助手は日本体育施設協会スポーツ救急法プロバイダーコース・インストラクター資格を保有しており、講習会受講者は受講後の試験合格をもって資格付与も行えます。これまで、多数の明成高校教職員へ同講習会を開催し、資格付与をしており、川平スタッフ始め、明成高校教職員の多数の方々が、救急処置を迅速に行動できる体制が整ってきています。

また、特定研究指定部活動へ年に4回ずつ計画している傷害予防講習会の第3回目を私が担当しました。内容は、「感染症予防」についてです。今の時期は特に風邪とインフルエンザが流行してくるため、部活動に励む生徒達にとって感染症予防はコンディショニングの観点から非常に重要です。この講習会では、それらに加え、部活動現場で「突然チームメイトが倒れたらどうしますか?」という緊急時の生徒の対応についても講話しました。学校部活動現場においては、指導者がいない時間というのが生じてしまいがちです。というのも、部活動顧問の先生は指導者のみの仕事ではなく、学校業務を主とする教員が担当することが大抵ですので、学校業務の関係により部分的に指導現場から離れることもありえるのです。そんな時に、緊急時が生じたら、選手である生徒達しかその場にはいません。ですので、そんな緊急時も想定して、事前に対応の手順や行動計画を周知していくことは、重大事故発生時の悪化防止として非常に重要なのです。

私達川平ATRは、スポーツ現場で最も重要な選手の「命」を何より大切に重んじ、スローガンである「高校スポーツの安全を守る」を引き続き実践していこうと思います。

担当：助手 小野勇太



救急法の実践を学ぶ職員



傷害予防講習会を受講する高校生

Monthly Report

バスケB2リーグ・仙台89ERS 冠スポンサーゲームで
体操競技部男子が演技披露& セベツ・アリーナ 2020
東京ホストタウン親善大使がMVP賞プレゼンター



©SENDAI 89ERS

コートで演技を披露し会場を沸かせる体操競技部男子

12月14日、ゼビオアリーナ仙台で、バスケB2リーグの仙台89ERS・東京EX戦が行われ、ハーフタイムで仙台大学体操競技部男子の南選手他が、明成高校体操部選手とともに床運動の演技披露を行いました。また、ベラルーシ新体操事前合宿ホストタウン親善大使のセベツ・アリーナさんがプレゼンター役を勤め、勝利した仙台89ERSチームの片岡選手に、ベラルーシ共和国を代表する花をあしらった民芸品の「テーブルクロス・セット」をMVP賞として授与しました。

この試合は、「仙台大学附属明成高校発足記念」と冠し、設置学校法人の朴沢学園がメイン・スポンサーとなったところから、各種イベントに仙台大学が参画し、仙台89ERSとのアカデミック・パートナー協定に基づく菊地遥管理栄養士(出向)によるスポーツ栄養関係の連携その他、各種提携内容についてのビデオ紹介、また、NB Aで活躍中の明成高校出身の八村塁選手の高校時代の雄姿の披露等を行いました。



©SENDAI 89ERS

MVPプレゼンターを務めた
セベツ・アリーナさん



会場には八村ブースを設置

＜目次＞

・仙台89ERS 冠スポンサーゲームで体操競技部男子が演技披露& セベツ・アリーナ 2020東京ホストタウン親善大使がMVP賞プレゼンター	1
・「中学校部活動支援事業」に関する連携協定調印式を開催しました ・第3回学内ATプログラム認定証書授与式を開催 ・女子サッカー部：4連覇達成 東北Liga Student2019	2
・第24回仙台大学新体操演技発表会を開催しました ・ウエイトリフティング部：全日本学生選抜大会で保科魁斗が大会新記録 結果報告	3
・体操競技部：王者の貫禄、男女とも団体・個人で上位独占／東北・北海道学生選手権	4
・「留学生交流クリスマス会」を開催しました ・女子バスケットボール部：インカレ結果報告	5
・アスレティックトレーナー(AT)による中学生へ体幹トレーニング指導 ・「仙台大学教育実習懇談会」開催報告について ・UNIVAS研修会報告及び指導者向けコンプライアンス研修会を開催	6
・女子サッカー部：5年連続なでしこリーグへ！船木里奈選手がなでしこリーグ1部マイナビベガルタ仙台レディースに入団 ・子ども運動教育学科：ピアノの発表会を開催しました	7
・第2回仙台大学アスレティックトレーナー会開催 ・芝草通信 NO. 9	8
・「高校スポーツの安全を守る」Vol. 21	9

学生の活躍や、取り組みなどをご存知でしたら広報室までお寄せください。

Monthly Reportで紹介する他、報道機関にも旬な話題を提供して参ります。

本誌へのご意見・ご質問等がありましたら広報室までご一報ください。

仙台大学 広報室

直通 0224 - 55 - 1802

Email kouhou@sendai-u.ac.jp

「中学校部活動支援事業」に関する連携協定調印式を開催しました



連携協定調印式の様子



岩沼市内中学校の女子バレー部を指導する菅野舞香さん

12月3日（水）岩沼市役所にて、岩沼市・仙台大学・(株)フクシ・エンタープライズ社における、「中学校部活動支援事業」に関する連携協定調印式（三者協定）が行われました。

本協定は、教育現場の長時間労働における問題の解決が大きなねらいであり、岩沼市内の部活動に対して、本学から学生を派遣し、部活動指導を行う取り組みになります。

将来、指導者を目指している学生に対して、大学で学んだことを教育現場で実践できる貴重な機会でもあります。

先月から、岩沼市内中学校の女子バレー部の指導に当たっている菅野舞香さん（健康福祉学科4年）は「将来は学校の先生になってバレーボールを教えたいと考えており、こういう機会を頂けることは私にとって非常に嬉しく、生徒の皆さんにもバレーボールの楽しさを知ってもらえたらと思います」と話してくれました。

<報告：スポーツ局>

第3回学内ATプログラム認定証書授与式を開催

12月4日（水）A棟大会議室にて、第3回学内ATプログラム認定証書授与式が行われました。昨年までの初級・中級に加え、今回は初となる上級の認定も行いうことが出来ました。今回認定されたのは、初級11名、中級5名、上級4名の計20名でした。

このプログラムは、学内のNATAアスレティックトレーナーと日本スポーツ協会ATが一定期間の講習と検定試験を行い、アスレティックトレーナーを志す学生の学習意欲の向上を促し、活動の指標とすることなどを、主な目的として実施しております。

授与式では、遠藤学長より「将来を担う若者に対し、正しいサポートが出来る人材となれるよう尽力してもらいたい」と激励のお言葉をいただき、認定された学生からは「今後さらなる高みを目指して周囲を引っ張っていきたい」「将来若者のサポートに携われるようになりたい」などといった、力強い抱負が述べられ、大変良い雰囲気での認定式を終えることが出来ました。最後になりますが、今回の上級の認定に際し、多くの方々にご協力いただき、認定式を開催できましたことに、深く感謝いたします。

<報告：鈴木のぞみ 助手>



記念写真

女子サッカー部：4連覇達成 東北Liga Student2019

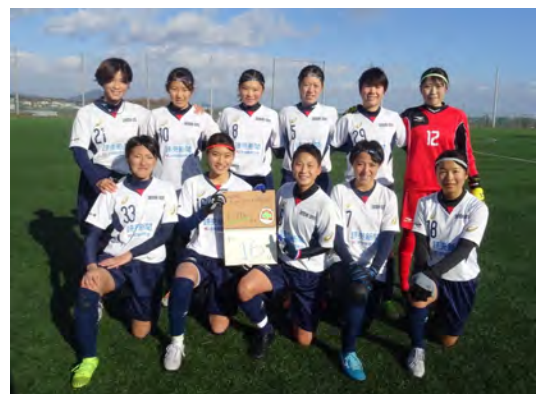
12月8日（日）東北Liga Student2019の決勝戦が明仙フィールド川平で常盤木学園高校と決勝戦が行われ、7対1で勝利し、見事4連覇を達成しました。

本大会は、東北地域の高校及び大学の14チームが参加し、4月～12月まで行われました。

今回の結果を自信にして、12月24日（月）から行われる第28回全日本女子サッカー選手権大会（インカレ）に繋がります。

1回戦は筑波大学と三木総合防災公園第2陸上競技場（11：00キックオフ）で行われます。引き続き、ご支援の程、よろしくお願いいたします。

<報告：女子サッカー部>



第24回仙台大学新体操演技発表会を開催しました



12月8日(日)本学第5体育館にて「第24回新体操演技発表会」を開催し、約150名のお客様にご来場いただきました。

冒頭に遠藤保雄学長と白石市・柴田町の東京オリンピック・パラリンピックホストタウン親善大使のセベツ・アリーナ氏よりご挨拶いただき、2020年東京オリンピックのベラルーシ共和国新体操ナショナルチームのホストタウンとして本学の役割をご来場頂いた皆様に向けて発信しました。

演技発表では新体操競技部、男子新体操競技部、仙台大学開放講座ジュニア新体操教室生の子どもたちがこれまでの練習の成果を発表し、幼児から小学生までのジュニア新体操教室生は、新体操競技部員の指導の下、小さなからだをいっぱい動かした元気な演技を披露してくれました。

新体操競技部員は、一年間の活動の成果を演技にて発表いたしました。

会場に足をお運びいただいた観客の皆様をはじめ、発表会の開催にあたりご尽力いただきました皆様のおかげで発表会を無事に開催できましたことを心より感謝申し上げます。

今後の活動も部員一同精一杯頑張っていりますので、ご声援の程よろしくお願いいたします。

<報告：新体操競技部>

ウェイトリフティング部：全日本学生選抜大会で保科魁斗が大会新記録 結果報告

第64回全日本学生ウェイトリフティング新人大会(12月5～7日)、第16回全日本学生ウェイトリフティング選抜大会(12月7～8日)が埼玉県上尾市にあるスポーツ総合センターで行われました。

新人大会においては、高橋凜(体育1年)が3位になり表彰台に昇りました。

選抜大会においては、保科魁斗(体育4年)、遠藤朱李(体育2年)が優勝、福塚真羽(体育3年)が第3位と健闘し、その中でも保科魁斗は大会新記録による記録での優勝でした。

結果の詳細につきましては、以下の通りになります。(種目別、トータルにおいて3位入賞の学生のみ掲載)

●全日本学生新人大会

【女子】

59kg級

佐藤愛香(体育1年) スナッチ3位 クリーン&ジャーク5位 トータル4位

64kg級

高橋凜 (体育1年) スナッチ3位 クリーン&ジャーク3位 トータル3位

●全日本学生選抜大会

【男子】

109kg級

保科魁斗(体育4年) スナッチ優勝 クリーン&ジャーク優勝(大会新記録 185kg)

トータル優勝(大会新記録 318kg)

【女子】

76kg級

福塚真羽(体育3年) スナッチ3位 クリーン&ジャーク3位 トータル3位

81kg級

遠藤朱李(体育2年) スナッチ優勝 クリーン&ジャーク準優勝 トータル優勝

<報告：ウェイトリフティング部>



体操競技部：王者の貫禄、男女とも団体・個人で上位独占／東北・北海道学生選手権

第51回東北・北海道学生体操競技選手権大会は12月1日（日）、本学の第3体育館で行われ、仙台大勢が男女とも団体、個人、種目別で上位を独占しました。4年生が引退し1～3年生にとっては「腕試し」の大会でしたが、何とか好成績で乗り切ることができました。新年にはいよいよ全国の舞台です。大きく羽ばたきます。

成績は次の通り。

< 本学関係分 > (3位以上)

【男子】

団体総合 ①仙台大A293.150点②仙台大B287.850点

個人総合 ①中澤岳大（体育3年）74.300点②西村琉（体育2年）

73.500点

種目別床運動 ①西村琉12.65点②あん馬 ①中澤岳大13.05点③西村琉10.30点

つり輪 ①中澤岳大12.20点③西村琉10.60点

跳馬 ①西村琉14.00点②中澤岳大13.80点

平行棒 ①西村琉13.05点②中澤岳大12.35点

鉄棒 ①西村琉12.90点②中澤岳大11.90点

【女子】

団体総合 ①仙台大A151.250点

個人総合 ①社家間楓花（子ども運動2年）51.700点②藤本亜祐奈（運動栄養2年）49.600点③道林千咲希（体育3年）48.900点

種目別跳馬 ①藤本亜祐奈13.70点②社家間楓花13.10点③道倉羽花（子ども運動2年）12.50点

段違い平行棒 ①道倉羽花14.30点②道林千咲希13.50点③社家間楓花13.10点

平均台 ①社家間楓花13.10点②道林千咲希11.00点③藤本亜祐奈10.90点

床運動 ①道林千咲希12.50点②社家間楓花12.40点③道倉羽花12.20点

大会は新人選手権も兼ねて行われました。

< 本学関係分 > (3位以上)

【男子】

種目別床運動 ①杉本祥永（体育3年）13.75点②上原史温（体育1年）13.10点③村上遼青（体育2年）12.45点

あん馬 ①表慎一郎（体育1年）12.80点②岡田空知（体育2年）11.85点③青木直樹（子ども運動3年）11.75点

つり輪 ①杉本祥永12.80点②上原史温11.80点③岡田空知11.70点

跳馬 ①杉本祥永13.90点②青木直樹13.80点③寺島龍雅（体育1年）13.80点

平行棒 ①杉本祥永12.95点②青木直樹11.90点③村上遼青

鉄棒 ①杉本祥永13.10点②吉川英駿（現武1年）12.20点③星慶弥（体育2年）11.80点

【女子】

種目別跳馬 ①富岡こころ（体育1年）13.20点③里見萌々子（体育2年）12.40点

段違い平行棒 ①里見萌々子13.10点②松井桃香（体育1年）12.10点③鈴木莉子（体育1年）11.80点

平均台 ①里見萌々子12.50点②松井桃香12.10点

床運動 ①富岡こころ13.10点②松井桃香12.60点

< 報告：体操競技部 >



団体、個人とも上位を独占した本学体操競技部。
写真は男子の面々

「留学生交流クリスマス会」を開催しました



大山さく子支援センター長より乾杯の挨拶



ジェスチャーゲーム



おでこに乗せたクッキーを手を使わずに
だれが一番早く食べられるかゲーム

12月17日（火）学生支援センター主催の留学生交流クリスマス会を学生食堂なちゅらで開催しました。この会は、留学生と本学の学生との交流を通し、学生たちが主体的に日本人の学生とかかわるきっかけとなるような活動を行っていき、留学生と仙台大学の学生の交流をもっと深められるようにすることを目的としています。参加者は以下の通りです。

教職員24名、留学生16名、国際交流サークル10名、外部講師1名、語学支援ボランティア学生7名 総計 58名

9月以降、本学に入学、復学した留学生は、中国から2名、台湾から4名、韓国から1名で、クリスマス会では参加した留学生全員に日本語で自己紹介をしていただきました。自己紹介の時には参加者から質問が飛び交いなど和やかな雰囲気で行われました。

また、9月から留学している中国の留学生たちからは手作りの生チョコ、台湾の留学生たちからは手作りのタピオカミルクティーを差し入れしていただき、参加者はおいしそうに食べたり、飲んだりしていたのが非常に印象的でした。

学生支援センター主催の留学生交流ゲームでは「ジェスチャーゲーム」と「おでこに乗せたクッキーを手を使わずにだれが一番早く食べられるか」という2つのゲームを行い、留学生と本学学生が一緒になって交流し、終始笑顔楽しく過ごしました。国籍関係なく学生間で親睦を深められ、非常に意義のあるクリスマス会となりました。

留学生にとって日本人の友達を作るというのは、日本に留学に来た目的の1つでもあります。そのきっかけを作っていくのが、学生支援センターの役割でもあります。今後もこのような留学生と本学学生が交流できるような機会を増やしていき、留学生が本学に留学してよかったと思えるように、これからも学生支援センター一同、努力してまいります。

<報告：学生支援室 櫻井 一樹 臨時職員>

女子バスケットボール部：インカレ結果報告

12月9日（月）～15日（日）にかけて、駒沢オリンピック公園総合運動場体育館・エスフォルタアリーナ八王子にて第71回全日本大学バスケットボール選手権記念大会が行われました。

私たちは10日（火）が初戦で、筑波大学と対戦しました。結果は残念ながら一回戦敗退となりましたが、全員が一つとなり強気な姿勢で試合に挑むことができました。

本大会で、4年生は引退するものの、1・2・3年生は今回の試合で学んだことを生かしてこれから練習に励んでいきたいと思います。

また、1・2年生は12月21日、22日に行われる東北大学バスケットボール新人大会に向けてより一層力を入れ、練習に励んでいます。応援よろしくお願いたします。

<結果>

仙台大学 47（17-28 13-16 11-11 6-30）85 筑波大学

<報告：女子バスケットボール部>



集合写真



試合中の様子

アスレティックトレーナー(AT)による中学生へ体幹トレーニング指導

12月18日(水)、宮城県白石中学校にて「体幹トレーニング」をテーマに講習会を実施してきました。医療法人三省会おおし整形外科様が主催となり、同院の医師とスタッフ(柔道整復師)、白石中学校運動部代表者(約30名)と運動部顧問の先生方、総勢約40名に参加頂きました。内容は、「成長期の特徴、体幹の捉え方、体幹の機能解剖学、体幹トレーニングの意義、体幹能力チェック、トレーニング実技」という流れで進行。中学生達はどの内容も真剣に理解しようと必死に聴講しているのが印象的でした。講演前の狩野隆校長先生から、今回の講演依頼の経緯として、教員発信ではなく、各種運動部の部長達で開催される部長会にて、自分達に必要なことが何かないか話し合い、始めは「怪我の後の応急処置について知りたい」との声が上がる中、「応急処置ではなく、ケガをしないために必要なことを学びたい」と“予防の大切さ”を中学生達自身が感じ講習会依頼に至ったとの話を受け、中学生の意識の高さに驚かされました。さらに、講習会後半の質疑応答では、時間いっぱいまで質問が中学生達から挙げられ、予防分野への関心の高さも伺えました。ATはリスク管理や予防の専門家です。今回の外部講習会にて、我々ATの価値を改めて感じる事ができたことは大きな収穫でした。

<報告：助手 小野勇太>



「仙台大学教育実習懇談会」開催報告について

毎年、教員を目指す本学学生の実習を実施していただいている宮城県内の指定校・協力校の小中学校及び高校の校長先生や実習担当者等との懇談会が、12月6日(金)に行われました。この会は、母校実習以外で教育実習に協力をいただいている県内の学校から校長先生や関係教員の方より、本学学生の実習の様子や課題などについてお話いただき、本学の今後の教員養成の改善に繋げるため、毎年実施しています。今年は、30校の先生方へ出席いただき、本学からは、遠藤学長と朴澤理事長をはじめ、13名が出席いたしました。

朴澤理事長・学事顧問からは、挨拶のなかで教員としての姿勢や心に関し、若いうちから意識を持つことの重要性を話しました。

また、金井里弥教職支援センター長が令和元年度の本学の教育実習の概要について説明を行い、次に本学における教員養成の現状についてプロジェクトスクリーンを使いながら、説明しました。

引き続き、指定校・協力校・通信制とそれぞれ異なった立場からの、教育実習の指導や学生への要望などに対する意見交換が行われました。

出席者からは、本気で教員を目指す学生は教育実習においても元気で生徒たちの信頼も厚い一方、実習日誌を書きに来たのではなく、現場での授業以外にも積極的に参加し、生徒との触れ合いを大事にしてほしいなどの意見も聞かれ、最後に来年度の実習についての協力を要請し、閉会としました。

<報告：教職支援室 室長 西塚重良>



懇談会の様子

UNIVAS研修会報告及び指導者向けコンプライアンス研修会を開催

12月17日(火) 14:00~B棟103教室において「UNIVAS研修会報告及び指導者向けコンプライアンス研修会」を開催しました。指導者向けコンプライアンス研修会では外部講師としてひろむ法律事務所の斉藤雄男弁護士をお招きし、「社会の変化と大学における部活動指導」をテーマに過去の部活動における体罰やハラスメントの実例の紹介や、法律を元にした部活動指導における留意点等を講話頂きました。また、UNIVAS研修会報告では名取教授より、UNIVASの現状や抱える課題等の報告がなされ、質疑応答は活発な意見交換の場となりました。今後のスポーツ局の取組みに向け、大変有意義な研修会となりました。

<報告：スポーツ局>



女子サッカー部：5年連続なでしこリーグへ！船木里奈選手がなでしこリーグ1部マイナビベガルタ仙台レディースに入団

この度、女子サッカー部の船木里奈選手（体育学科4年）が、日本女子サッカーリーグ マイナビベガルタ仙台レディースへの入団が内定しましたのでお知らせいたします。

【船木里奈（ふなき りな）選手（体育学科4年）プロフィール】

■ポジション：フォワード

■生年月日：1997年5月10日

■チーム歴：ジェフユナイテッド市原・千葉レディースU-15 ～仙台育英学園高校～仙台大学（現在）



【船木里奈選手（体育学科4年）のコメント】

来シーズンからマイナビベガルタ仙台レディースに加入することになりました。なでしこリーグという高いレベルでプレイできることを楽しみにしています。常に全力を尽くし取り組み、チームの勝利に貢献していきたいと思っています。

応援よろしくお願い致します。

【黒澤尚監督（講師）のコメント】

この度、本学女子サッカー部の船木里奈選手がマイナビベガルタ仙台レディースに入団が内定し、大変嬉しく思います。

なでしこリーグでプレーしたい目標を持ち、自分が進化するために日々、目的意識を持ってサッカーや大学生活に取り組んできた成果です。

船木選手には現状に満足せず、さらに進化し、世界で戦える選手になることを期待します。

子ども運動教育学科：ピアノの発表会を開催しました



ピアノ発表会の様子①



ピアノ発表会の様子②



遠藤保雄学長より激励の言葉が送られました

12月24日（火）仙台大学 第4体育館2階において、子ども運動教育学科1年生41名による＜ピアノの発表会（弾き歌い）＞を開催しました。

4月に入学し、ピアノを弾くのが初めてという学生が多かったのですが、前期（7月）はピアノで子どもの歌を弾くという発表形式で、後期は難易度を上げてピアノを弾きながら歌うという弾き歌いの形式を取りました。

1年生41名と、ピアノの先生方2名、学科の教員1名が見守る中、1人1人が前に出て弾き歌いを行いました。

そんな中、緊張している学生のところに、遠藤保雄学長先生がサプライズでお見えになり、発表前に練習している様子をご覧いただき、学生たちに「保育士、幼稚園教諭としてしっかりピアノを学び、将来に向けて日々頑張ってください」と、力強い励ましの言葉をプレゼントしてくださいました。

初めてピアノに触れる学生たちのために、KMCH棟の2階にあるピアノ室に毎日午後の時間ピアノの先生方が来て教えてくださるという練習環境を整えていたとき朴澤理事長・学事顧問、遠藤学長に感謝を申し上げます。

来年度、子ども運動教育学科は完成年度を迎えます。今後4学年160名の学生が、ピアノの練習ができるように、来年度からは週2日、午前中もピアノの先生に来て頂きレッスンができるように、環境をさらに整えていきたいと思っています。

参加した学生は、「発表会当日は緊張しましたが、仲間達と一緒に練習に励み、無事演奏することができました」、「毎週ピアノに触れて練習してきたので、7月よりも自信を持って弾くことができました」、「ピアノの他に、楽器遊びや合唱の練習ができる音楽室が欲しいです」と、感想を述べていました。

今後も、前期・後期1回ずつ全学年の学生がピアノ発表会を行い、保育士、幼稚園教諭としての技術を高めていきたいと思っています。

<報告：子ども運動教育学科 佐々木和 講師>

第2回仙台大学アスレティックトレーナー会開催

12月22日(日)、仙台大学第4体育館演習室にて、仙台大学アスレティックトレーナー会(AT会)の第2回目を開催致しました。講師として、本学卒業生であり現在龍谷大学ATとして活躍されている森嶋和樹さんによる「ATの立場から考えるアンチ・ドーピング」というテーマにてご講演頂きました。参加者は、日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー(JSP0-AT)有資格者が5名(講師含む)、国家資格者(柔道整復師・鍼灸師)1名、専門学生(柔道整復科)2名、現役大学生(AT部)3名と総勢11名が参加し、講師からのたくさんの情報提供後に行われたグループディスカッションでは、非常に活発で有意義な意見交換が行われ、参加者全員の自己研鑽の場となりました。JSP0-AT資格の取得後においては、NATA-ATC(全米アスレティックトレーナーズ協会公認トレーナー)のように、資格取得後のCEU制度が不十分である事が、JSP0-ATとNATA-ATCとの大きな違いです。JSP0-AT認定校である本学において、資格取得後の研鑽の場としての機能を果たすべく、このAT会発足に至った経緯があり、第2回目とまだまだ駆け出しばかりの会ですが、こういった活動を継続し、仙台大学同窓生が中心となってAT領域のリーダー的役割を担っていこうと思います。



<報告：助手 小野勇太>

芝草通信 NO. 9

担当：体育施設管理コンサルタント 小島文雄

1月(冬)の芝生管理 (暖地型芝生と寒地型芝生) について

この時期の維持管理について記載しますのでご自宅などの芝生の参考にしてください。

1. 噴水まわりの天然芝生の維持管理 (暖地型日本芝生)

1月から2月は最も気温が低くなる時期で、温暖な気候を好む暖地型芝生のコウライ芝生(噴水まわりの芝草)には厳しい季節です。葉は完全に白っぽく枯れ上がりますが、地表や地中を這っている匍匐系やそこについた芽は生きていて、休眠状態で冬を越します。

- 1) 刈り込み：この時期は行いません。
- 2) 草取り：緑色の葉をつけた雑草はよく目立ちます。大きくなる前に、抜根しましょう。
- 3) 水やり：必要ありません。寒地型には乾燥が続くようなら必要です。
- 4) 肥料：施しません。雑草だけに有効になり逆効果です。
- 5) 病虫害防除：必要ありません。

2. 第二グラウンド天然芝生ラグビー・アメリカンフットボール場の維持管理 (寒地型洋芝+ 暖地型洋芝)

寒地型洋芝(ペレニアルライグラスorトールフェスク)にサマーオーバーシーデイング(S.O.S)を実施した暖地型洋芝(バミューダグラス)が混じりあっています。それゆえに白っぽい休眠中の芝に緑色の寒地型芝生が混じり、ぶち模様を呈しています。冬季間でも授業や部活動の利用が継続する当グラウンドは、通常の練習場であるので、裸地化を防ぐために、また管理費低減のために、ぶち模様でも結構と考えています。

- 1) 刈り込み～5) 病虫害防除までは同様です。

6) 保温：寒さには強いとされている寒地型洋芝ですが、霜や寒風にあたって、葉色がくすんだ鈍い色になってきます。夜間不織布などをかぶせて霜よけをしてやると、葉色が悪くなるのを防ぐ効果があります。日中は外しておきます。当グラウンドではシートが少ないので中心部の一部しか行っておりません。(12月23日記)



写真1. 噴水まわり芝生
暖地型のため休眠中



写真2. 第二グラウンド
暖地型+寒地型



写真3. 第二グラウンド 接写
休眠中の暖地型+緑色寒地型

「高校スポーツの安全を守る」 Vol. 21

担当： 浅野 勝成 助手

明成高校生を対象としたS&C事業も3年目を終えようとしています。1年生時から指導を続けてきた生徒たちもう卒業間近となります。3年間指導をさせて頂いた各部活動を振り返ってみたいと思います。

【女子サッカー部】

今年は高校総体県予選で第3位に入りました。ウエイトを必死に取り組んでスクワット75kgを挙げる選手、ラントレではトップであり続けることでチームを引っ張るエース、そしてキツイトレーニングでも士気を下げないよう笑顔で声を出して周りを鼓舞する3年生全員。3年生が示す模範的な行動・言動がチームに良い影響を与えているのかなと思います。

【陸上部長距離】

ウエイトやプライオメトリクスにあまり馴染みのない競技ですが、顧問の先生の理解や選手が効果を実感してくれることもあり、継続してトレーニングを行っています。競技特性上、身体の硬い選手が多い多い・・・そんな中でチームのエース（3年生）は日頃からストレッチを欠かさず行っています。継続的な取り組みがエースに押し上げたのかもしれない。

【陸上部短距離・投擲】

スクワット140kgを挙げるなど、身体の強い選手が集まっていて、ウエイトに対する取り組みも熱心でした。大学で競技を続ける者は、引退後も真摯にトレーニングに取り組んで、ウエイトに取り組む姿勢などは後輩達の良いお手本になっています。

【男子バレーボール部】

春高バレー県予選で2年ぶりのベスト4を果たしました。今年の3年生もウエイトに熱心に取り組んでくれました。リバーランジ（5回3セット）を100kgで行うキャプテンやバックスクワット145kgを挙げるサブ選手など、物静かでしたが、トレーニングに対する前向きな姿勢を示すことで下級生・チームを引っ張って行ってくれました。

【女子バスケットボール部】

今年の3年生は見事にインターハイとウィンターカップの出場を決めてくれました。3年生のリーダーシップはかなり強かったです。1年生時は腰のケガで離脱が続いたが、トレーニングで身体を強くし、献身的なプレーと笑顔でチームを引っ張るキャプテン。ウエイトが苦手だが根気強く取り組んで跳躍力を伸ばし、今や高さでリバウンド力でチームに欠かすことの出来ない選手までに成長したセンター。意欲的に高重量に挑戦し続け、主力が取り組むトレーニングへのあるべき姿を他へ見せつけるエースガード。例を挙げれば枚挙に暇がありません。

【スケルトン同好会】

この3年間で身体が大きく・強くなったことはもちろん、人間的な成長を強く感じました。スケルトン同好会は2名しかいません。良きトレーニングパートナーであり、良きライバルでもあります。2年生時は、競技成績の優劣でお互いや他者への尊敬や礼儀が薄くなっていたよう感じていました。ですが3年生になると、周りへの感謝の意を表す礼儀、相手の実力を認めて良い所を自分に落とし込む他者への尊敬と自己成長のための工夫、そして何よりも家族をととても大切にするという点が見られました。彼らの競技成績を押し上げた一番の要因は、身体が強くなったことや滑走技術が向上したことよりも、人間性の成長がとても大きいと感じています。

3年間継続して指導を行った初めての学年でした。高校にS&Cを落とし込めてきている背景には、彼ら3年生の存在がかなり大きいです。トレーニングへの真摯かつ継続的な取り組みによって競技パフォーマンスが上がった3年生の背中を見ている後輩達もトレーニングに精進する。良いサイクルが徐々に出来てきているのかなと思います。私自身もかなり勉強させて頂くことの多かった学年です。今後の彼らの活躍を期待しつつ、令和2年度の高校S&C事業も更なる飛躍を目指して努めていきます。

今回は、「はじめまして」（担当：今野 桜 新助手）

Monthly Report

尚絅学院大学と連携協定を締結しました



写真左から尚絅学院大学の合田隆史学長、佐々木公明理事長・学院長、本学の朴澤泰治理事長・学事顧問、遠藤保雄学長

1月10日(金)、本学は、尚絅学院大学と連携協定を締結しました。

イオンモール名取3階にある尚絅学院大学地域連携交流プラザで締結式が行われ、本学からは、朴澤泰治理事長・学事顧問、遠藤保雄学長、高橋仁副学長、青沼一民副学長、渡邊一郎事務局長が、尚絅学院大学からは、佐々木公明理事長・学院長、合田隆史学長、赤坂和昭副学長、木村清副学長、佐藤修二事務部長が出席されました。

両大学は、共に宮城県南部に位置し、地域における健康福祉、教員・保育士分野の人材養成において大きな役割を果たし、地域における生涯学習や健康福祉の増進にも寄与しています。本協定は、これまで培ってきた互いの特色を活かし、教育研究活動や地域貢献活動を更に推進していくことを目的としています。

今後本協定に基づき、より良い教育研究活動や幅広い地域貢献活動を行っていきましょうさまざまな事業に取り組んでまいります。

<報告：事業戦略室>

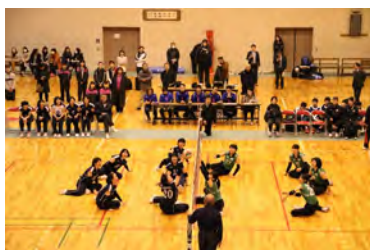
シッティングバレーボールの普及活動を開催しました

1月12日(日)、尚絅学院大学との連携協定締結記念イベントとして、仙台大学・尚絅学院大学の女子バレーボール部によるシッティングバレーボールの広報普及活動を開催しました。

普及イベントは、中学校のバレーボール部の大会である「第20回尚絅カップ」に引き続きの開催だったこともあり300人を超える多くの皆さんにご来場いただきました。

当日は試合の様子をWEB中継でも配信し、たくさんの方々がシッティングバレーボールの魅力を感じたことでしょう。

<報告：スポーツ局>



プレーやルールの解説も行われ、よりシッティングバレーボールの魅力が分かる試合となりました

<目次>

・尚絅学院大学と連携協定を締結しました	1
・学生たちが取材協力／ミニコミ紙で地域貢献賞 ・令和元年度 学生相談室・修学サポート委員会共催 教職員研修会 「変容する学生と学生指導、担任教員にできること」	2
・ハノイ首都大学訪問報告 ・令和元年度 仙台大学第6回学術講演会を開催しました	3
・芝草通信 NO. 10 ・「高校スポーツの安全を守る」 Vol. 22	4

学生の活躍や、取り組みなどをご存知でしたら広報室までお寄せください。

Monthly Reportで紹介する他、報道機関にも旬な話題を提供して参ります。

本誌へのご意見・ご質問等がありましたら広報室までご一報ください。

仙台大学 広報室

直通 0224 - 55 - 1802

Email kouhou@sendai-u.ac.jp

スポーツ情報マスメディア学科：学生たちが取材協力／ミニコミ紙で地域貢献賞

本学スポーツ情報マスメディア学科の学生たちによる取材・執筆の協力で、河北新報船岡販売所（千葉和雄所長、宮城県柴田町）が毎月2回発行するミニコミ紙「オアシス」が、2019年度「日本新聞協会 地域貢献大賞」の地域貢献賞に選ばれました。全国から57件応募があり、このうち26件選ばれたなかの一つです。

オアシスは1994年創刊です。販売エリアに本学があり、本学学生たちも積極的に新聞作りをお手伝いしてきました。取材は格好の学びでもあります。小学校の入学式、中学校の体育大会、老人ホームの慰問、わが家のペット自慢……。地域の出来事を、学生たちはカメラを肩に追い続けています。沼田美咲（1年）は「街の人に取材していると、いろいろ勉強になる。今後も続けていきたい」と意欲的です。

紙齢800号に届こうとする同紙は毎回4500部発行。千葉所長は「これまでも、これからも仙台大学の学生さんたちの力が頼り」と期待を口にします。皆さん、柴田地域に来られたときはオアシスを飲食店などで手にしてみてください。「仙台大学」が見えてきますよ。

<報告：スポーツ情報マスメディア学科>

夏祭りを取材した後に記念写真をパチリ。左から中山美里、沼田美咲、納代真奈



地域的话题を伝えるミニコミ紙「オアシス」



令和元年度 学生相談室・修学サポート委員会共催 教職員研修会 「変容する学生と学生指導、担任教員にできること」

令和2年1月21日（火）LC棟において、令和元年度学生相談室・修学サポート委員会共催教職員研修会を開催しました。東北大学名誉教授の吉武清實先生より「変容する学生指導、担任教員にできること」をテーマに講演いただき、教職員と教員志望の学生37名が参加しました。

吉武先生は日本学生相談学会の会長を歴任され、現在も学生相談室の相談員やスーパーバイザーをされている、学生相談に関する第一人者として大変著名な先生です。今回はテーマをもとに「今どきの学生像」、「担任教員としてできることは何か」という2つの観点からご講演頂きました。

調査研究から明らかになった学生像として、最近の若者は「いつも友人と連絡を取っていないと不安」、「友だちというより一人である方が落ち着く」との回答割合が高く、友人関係に多くの不安を抱いている、その背景にSNSの影響が考えられる。親子関係では、情緒的にも経済的にも子が親に依存する傾向が高まった結果、若者は親の支配を受け、自分のしたいことを通すよりも親の勧めに従うため、意欲向上に繋がらない。また、「努力しても報われない」と感じる若者が増えている。かつては校内や地域で上位にいたが、大学など外の世界に出ると、自分よりさらに上位の存在に出会うため目標を失い、挫折する。それを挫折で終わらせず、学生が目標を再設定すること、そのサポートが非常に重要であると、データを示しつつお話下さいました。

吉武先生は相談活動実践の中でも、最近の若者は劣等感を強く持ち、叱られると怯んでしまいがちで、その背景には叱られた傷を癒す人間関係が形成されていない特徴があると強く感じていると話されていました。教員から学生に必要なことを伝える際には、その伝え方に配慮し、本人に納得のいくような説明をすることが求められます。学生が「切り捨てられた」と感じてしまうと、そこに恨みが生まれてしまう可能性があること、また、「お前はダメだ」と言われてしまうと「どうせダメだから、どんどんダメな方へ行ってやろう」という感情が湧く可能性も指摘し、うまくできない・失敗してしまった学生を切り捨てるのではなく、チャンスを与えることが必要であり、それこそが教育であると強調していました。

担任、教員として、気になる学生を心にかけ、見守る必要があり、タイミングを見て働きかけをします。そのタイミングや方法は難しいものの、自分だけで抱え込まずに同僚や学内の援助資源を活用しながらあたっていくこと、学生に接する際は相手をリスペクトする姿勢で接していくこと、身近な存在だからこそ人間関係を構築していくのは非常に難しいため、学生の多角的な理解と構えを持つことが重要と話していました。

今回の講演は、学生の特徴や担任として対応する際の留意点について学習でき、再考する機会となりました。今回の講演が、今の学生の在りようを捉える糸口となり、目の前にいる一人の学生を理解し、より良い教育をしていくための一助となればと考えています。

<報告：学生相談室>



東北大学名誉教授の吉武清實先生

ハノイ首都大学訪問報告

令和2年1月4日（土）ベトナム社会主義共和国の首都ハノイ市にあるハノイ市立ハノイ首都大学を訪問し、国際交流協定締結の打合せ・締結セレモニー及び市内の3つのキャンパス視察を実施しました。

昨年11月に同大学訪問の際、同大学の教育学部学生の仙台大学大学院受入および同大学に新設されたスポーツ健康科学学部との交流等に関して打合せを実施し、これに基づき、ハノイのノイバイ国際空港近辺に整備されたスポーツ健康科学学部キャンパスを視察の上、国際交流協定締結に向けた動きとなりました。



ハノイ首都大学スポーツ健康科学学部キャンパス (google map より加工転載)



新キャンパスは、同国際空港から車で10分程度の場所に整備されており、短期滞在施設も設置されていました。

ベトナムは1月初旬も通常学業期であり、土曜日でも日本語学習カリキュラムの授業が実施されていました。

日本語学習では、日本語習得のみならず、右の写真のように、「報連相（ホーレンソウ）」など日本人教育にも当てはめるべき社会に出てから必要な生活習慣に関する各種標語も多数掲示され、就業に関するベトナム人の勤勉性を増進させる教育も実施されており、人口構成の若さも含め、今後のアジアにおけるベトナム人の役割の拡大化を窺わせるものでした。



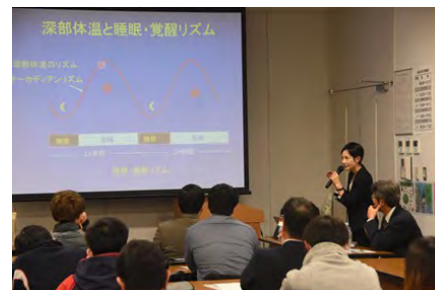
新キャンパスでの交流締結のセレモニーには、仙台大学からは、朴澤理事長・学事顧問、関矢教授（JICA協力・足漕ぎ車椅子研究支援）・入試創職部長、鈴木美生事業戦略室職員（日本私立大学協会国際交流委員会・ベトナム担当協力員）が参加し、首都大学からは、ド・フォン・クオン副学長、ファム・ドン・ドク・スポーツ健康科学部学部長、ファン・トラン・キエン・職業教育学部長、グエン・ティ・キム・ソン開発協力化学管理部長、ファム・ティ・ミン総合サービスセンター長、および学生等が参加しました。

<報告：朴澤泰治理事長・学事顧問>

令和元年度 仙台大学第6回学術講演会を開催しました



講演①「睡眠と運動・スポーツ」



講演②「暑さ寒さと睡眠」

令和元年12月4日（水）に本学第5体育館2階大会議室において、仙台大学学術講演会を開催しました。学術講演会は学術会運営委員が企画・運営し、学内外の方々にも広く聴講していただける機会とし、今年度で第6回目の開催となります。

今回の学術講演会は「睡眠と生活・スポーツ」をテーマに、二つの講演を行いました。

講演①では「睡眠と運動・スポーツ」と題し、東北福祉大学教育学部・准教授の水野康氏を講師にお迎えし、スポーツ選手に及ぼす睡眠の影響等のお話を伺いました。

講演②では「暑さ寒さと睡眠」と題し、東北福祉大学感性福祉研究所・特任研究員の水野一枝氏を講師にお迎えし、温熱環境と睡眠の関係と研究結果に基づく対処方法等のお話を伺いました。

今回の学術講演会には教職員・学生あわせて約80名が聴講し、会場の大教室がほぼ満員となりました。質疑応答では「競技者にとって最大のパフォーマンスを発揮するために競技開始の何時間前に起床するのがベストか？」など、教員のみならず、学生からの積極的な質問が次々となされ、質の良い「睡眠」を取る重要性を改めて再認識させられる、たいへん有意義な講演会となりました。

学術会では、学術講演会を通じ、仙台大学が学内外に開かれた大学としてより一層「体育・スポーツ・健康」に関わる最新の学術情報を提供できる場であるよう、今後も引き続き尽力して参ります。

<報告：学術会事務局>

芝草通信 NO. 10

担当：体育施設管理コンサルタント 小島文雄

2月（冬）の芝生管理（暖地型芝生と寒地型芝生）について

この時期の維持管理について記載しますのでご自宅などの芝生の参考にしてください。基本的には1月と同様です。

1. 噴水まわりの天然芝生の維持管理（暖地型日本芝生）

この時期は、生育期にははっきり見えなかった芝生面の微妙な起伏がわかります。凹凸の状態を記憶にとどめておいて、3月末に例年行っている陸上競技部の実習の時に一緒に実施（陸上競技場インフィールドの芝生の維持管理と兼務）する目砂作業の参考にします。1月の維持管理とほぼ同様です。

- 1) 刈り込み：この時期は行いません。
- 2) 草取り：寒地型の雑草は冬枯れの高麗芝生の中では目立ちますので小さいうちに抜根しましょう。
- 3) 水やり：必要ありません。
- 4) 肥料：施しません。雑草だけに有効になり逆効果です。
- 5) 病虫害防除：必要ありません。
- 6) エッジ切り：縁石や植え込みとの境目にだらしく伸び切った匍匐茎をカッターを使って切り落とします。
- 7) シバ踏み：霜柱で芝生が持ち上げられたら、よく踏み固めておきます。

2. 第二グラウンド天然芝生ラグビー・アメリカンフットボール場の維持管理（寒地型洋芝+暖地型洋芝）

1月と同様に白っぽい休眠中の芝に緑色の寒地型芝生が混じり、ぶち模様を呈しています。

- 1) 刈り込み～5) 病虫害防除までは同様です。

但し寒地型洋芝には乾燥が続くときは散水が必要になります。

（1月20日記）



写真1. 噴水まわり芝生
寒地型雑草が目立つ 【近景】



写真2. 噴水まわり芝生
寒地型雑草が目立つ 【接写】

川平キャンパスAT・S&Cレポート

「高校スポーツの安全を守る」Vol. 22

担当：今野 桜 新助手

はじめまして、昨年の12月に川平ATルームに配属された今野桜です。私はATC（全米アスレティックトレーナーズ協会認定トレーナー）の資格を持っており、先月から川平ATルームで高校生のサポートをはじめました。

私は生まれも育ちも山形県で、高校を卒業するまでの18年間は山の中でのびのびと育ちました。小学校から高校までの間に約10年間バレーボールに夢中になり、将来はスポーツに関わることがしたいと思っていた矢先に知ったのがアスレティックトレーナーという仕事でした。私は部活動中に怪我をして、患部が治っていないのに練習を続け、同じ場所を繰り返し怪我するという事が何度もありました。当時は怪我や身体に関する知識を持っていなかったため、練習を休みたいという思いから無理をしていました。今思うと、当時の自分はいっと自分の体を大事にしてあげるべきでしたし、もしそういった状況になった時に相談できる人が身近にいたら当時の自分は違う選択をしていたかもしれません。高校生の時にATを目指し始め、せっかく勉強するならAT発祥の地でもあるスポーツ大国アメリカで学びたいと思い、高校卒業後にアメリカへ留学しました。最初は全く英語が話せず、ホストファミリーや先生達との会話も一苦労、ATの勉強は想像以上に大変でしたが、無事にウェストバージニア大学を卒業しATCになることができました。卒業後1年間はオハイオ州にある大学でインターンアスレティックトレーナーとして働き、昨年日本に帰国しました。将来は怪我をして私と同じような思いをする人を減らしたいと思っていたので、日本では珍しい高校のATルームで明成高校のアスリート達をサポートできる日々をととても嬉しく思います。まだまだATとしての経験は浅いですが、生徒たちがより良い部活動生活を送れるよう日々頑張りたいと思います。よろしくお願い致します。



Monthly Report

 Vol.166 / 2020.FEB
(月1回発行)

福島県郡山市と連携協定を締結しました



連携協定を締結した品川萬里市長（左）と朴澤泰治理事長・学事顧問

1月31日（金）、本学は福島県郡山市と「スポーツ振興、健康増進への取り組みを通じた地域活性化及び教育研究の充実・発展に関する協定」を締結しました。

郡山市役所庁舎で締結式が行われ、本学からは、朴澤泰治理事長・学事顧問、遠藤保雄学長、高橋仁副学長、江尻雅彦教授、白坂牧人助手（S&Cコーチ）、内野洋材助手（アスレティックトレーナー）、同窓会副会長の鶴田雅之様が、郡山市からは、品川萬里市長、本田文男文化スポーツ部長、橋本裕樹次長、相楽靖久スポーツ振興課長が出席されました。

本学はこれまでも郡山シティーマラソンへのアスレティックトレーナーの派遣などを行って参りましたが、今後はそれに加えて、郡山市民を対象としたスポーツ教室への講師派遣、スポーツ団体への指導者研修会開催、スポーツ施設利活用の高度化方策の検討、ICTを活用した部活動指導などが検討されています。これらの事業をとおして教員の教育・研究の質の向上を図るとともに、学生の実践の場としても期待されています。

郡山市体育協会指導者研修会で朴澤理事長・学事顧問が講演しました

郡山市との連携協定締結式を同日に開催された郡山市体育協会指導者研修会において、朴澤泰治理事長・学事顧問が「スポーツのおかれている現状—大学スポーツを中心として」と題して講演しました。講演会には、郡山市内のスポーツ指導者など約70名が出席。講演では、NBAワシントンウィザーズの八村塁選手の明成高校時代のエピソードの紹介、日米の大学スポーツの比較とUNIVASの役割等について解説しました。



講演を行う朴澤理事長・学事顧問

<報告：スポーツ健康科学研究実践機構事務局>

<目次>

・福島県郡山市と連携協定を締結しました	1
・首都圏就職一泊丸ツアーを開催しました ・地域交流：船岡保育所で日本の「節分」を体験 ・「春季海外留学・研修 結団式」を開催しました	2
・船木里奈（体育4年）マイナビベガルタ仙台L入団記者会見を開催 ・第3回仙台カップ全国女子学生柔道団体対抗大会を開催しました ・健康づくり優良団体スマートみやぎ健民大賞受賞について	3
・スポーツ情報マスメディア学科就職情報 ・国立花山青少年自然の家より、ボランティア学生に対し表彰状が授与されました	4
・本学連携：槻木小・東船岡小で「マイナビベガルタ仙台Lサッカー教室」を開催しました ・バドミントン部：宮城県会長杯団体対抗選手権大会 結果	5
・令和元年度ハワイ大学アスレティックトレーナー研修 ビギナーコース（通算30回目）実施報告 ・韓国国立体育大学校に遠藤学長が訪問	6 7 8
・令和元年度 介護実習・社会福祉援助技術現場実習 教育懇談会を開催しました ・芝草通信 NO. 11	9
・「高校スポーツの安全を守る」Vol. 23	10

学生の活躍や、取り組みなどをご存知でしたら広報室までお寄せください。

Monthly Reportで紹介する他、報道機関にも旬な話題を提供して参ります。

本誌へのご意見・ご質問等がありましたら広報室までご一報ください。

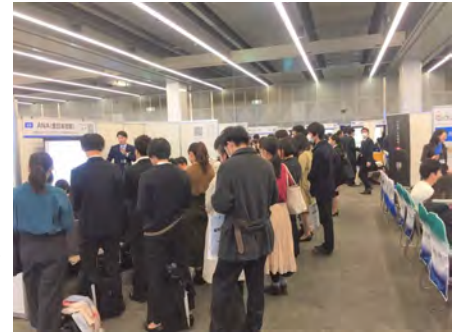
仙台大学 広報室

直通 0224 - 55 - 1802

Email kouhou@sendai-u.ac.jp

首都圏就職一日弾丸ツアーを開催しました

2月11日（火）に首都圏就職一日弾丸ツアーを開催しました。
 本学3年生への就職支援の一環として、保護者会からの援助を受け、首都圏で開催される就職イベントに参加するという企画です。
 事前に業界研究などについて、2日間にわたる事前指導を受けた上で、いざ本番の合同業界説明会に参加しました。今回は、計42名が参加し、昨年を9名上回る過去最高の参加人数となりました。
 当日は仙台駅に8時30分に集合し、新幹線と中央線・総武線を乗り継ぎ水道橋の東京ドームプリズムホールに向かいました。合同業界説明会は12時から17時までの5時間でしたが、一人あたり約5～6社の説明会に参加した後、株式会社文化放送キャリアパートナーズの谷田氏より、今日の経験を今後どのように活かしていくかについて講義が行われ、学生たちは真剣に耳を傾けていました。
 講義終了後は首都圏学生との交流会を実施し、早稲田大学、明治大学、日本女子体育大学など、いずれも就職に意識の高い学生の皆さんと貴重な情報交換を行い、お互いに初対面とは思えない盛り上がりを見せ、今後の就職活動に資するものになった様子が伺えました。
 <報告：入試創職室>



合同業界説明会に参加している様子

地域交流：船岡保育所で日本の「節分」を体験

2月3日（月）船岡保育所でベラルーシから本学が招聘している、マリア・マカロア氏とアリーナ・セベツ氏（東京2020ホストタウン柴田町・白石市ベラルーシ新体操ナショナルチームの親善大使）が園児ら約180名と一緒に豆まき体験をしました。
 日本の伝統文化を体験した2人は、「ベラルーシには節分はなく、とても楽しかった。日本の文化をもっと知りたい」と感想を述べました。



園児らと一緒に鬼を退治しました

翌2月4日（火）に豆まきに参加させていただいたお礼として、マリア・マカロア氏とアリーナ・セベツ氏が専門の新体操やアクロバット体操を披露すると、一つ一つの技に大きな歓声上がるなど、参加した園児らも目を輝かせていました。
 最後には園児達から日本の伝統であるコマ回しと歌の発表、またコマのプレゼントがあるなど、最高の交流となりました。

「春季海外留学・研修 結団式」を開催しました



決意を述べる学生の様子



新型コロナウイルス感染症対策について説明を受ける様子

2月4日（火）に「令和元年度春季海外留学・研修 結団式」を開催しました。今回は、6つのプログラム（台湾・台東大学／アメリカ・カリフォルニア州立大学ロングビーチ校／アメリカ・ハワイ大学／デンマーク・ノアフュンズ国民大学／フィンランド・カヤニ応用科学大学／ニュージーランド・カンタベリー大学、CCEL）に23名の学生を派遣する予定です。各プログラム毎に参加する学生全員が自己紹介ならびに決意表明を行いました。また、新型コロナウイルス感染症への対策として、健康管理センターの担当者が具体的な手洗いの仕方やマスクのはずし方など注意すべき事項について指導しました。

なお、世界保健機関（WHO）が「国際的に懸念される公衆衛生上の緊急事態」を宣言していることから、すでに中国をはじめ3つのプログラムの派遣中止を決定し、今後の動向によりさらに派遣中止を検討していく予定です。
 <報告：国際交流センター>

船木里奈（体育4年）マイナビベガルタ仙台L入団記者会見を開催



2月21日（金）本学内で船木里奈（体育4年）のマイナビベガルタ仙台レディース入団記者会見が行われました。会見で船木は「自分の持ち味は裏への抜け出しとスピードに乗ったドリブルです。チームの勝利に貢献できるように頑張ります」と述べ、また1年目の目標について「全試合に出場し、FWで出場する時には1試合1点を取るか、得点に絡めるようにしたいです」と力強く決意を述べました。

マイナビベガルタ仙台レディースの齋藤美和子特任部長は「どのポジションもできるオールマイティな選手で、とても明るく、すでに今シーズンのキャンプに参加し、すぐチームの輪にも溶け込みました」と評価しました。

また女子サッカー部、黒澤尚監督は「持ち味のスピードと左右差なく正確に蹴れるキックを存分に発揮し、マイナビベガルタ仙台レディースでレギュラーになる。そして、なでしこジャパンでも活躍できるような選手になって成長してほしいです」とエールを送りました。

第3回仙台カップ全国女子学生柔道団体対抗大会を開催しました



2月18日（火）本学柔道場において、「第3回仙台カップ 全国女子学生柔道団体対抗大会」を開催しました。

2017年に本学の50周年記念大会として女子アスリート発掘・育成、ならびに女子柔道の振興を図るために開催し、今年で3回目を迎えました。

今回は16大学（台東大学含む）20チーム、約160名が参加し、本学はAチーム、Bチームの両チームが予選リーグを2位で通過しましたが、ともに決勝トーナメントの準々決勝で敗れ、ベスト8となりました。

本学女子柔道部の南條和恵監督は「この時期、全日本の代表選手はヨーロッパを回っていて、そうではない選手は、いままでは試合機会がなかったのですが、このようにたくさんの強豪大学と試合や交流ができることは選手にとって非常に成長につながります。」と話してくれました。

健康づくり優良団体スマートみやぎ健民大賞受賞について

今回、本学が認定している「健康づくり運動サポーター」事業が評価され、健康づくり優良団体スマートみやぎ健民大賞を受賞しました。

健康づくり運動サポーター事業は、平成19年度に文部科学省の「現代的教育ニーズ取組支援プログラム」の補助採択を受け、3年間地元柴田町と連携を図りながら学生を対象に「健康づくり運動サポーター」を養成し、補助採択終了後も柴田町だけでなく、角田市や美里町、JA宮城など県内市町村や企業等への健康づくり教室の運営支援等を行い、継続して地域の健康づくり教室の質の向上に関与してきました。また、東日本大震災被災地での健康支援活動では、確かな知識と技術を持った人材を継続的に派遣し、被災者の健康の保持増進等に成果を上げてきました。

今後も引き続き、介護予防・生活習慣病予防対策において実践的な運動指導ができる人材を育成するとともに、育成した人材を地域に派遣し、よりよい地域の健康づくり活動を進めていきたいと思います。

<報告：スポーツ健康科学研究実践機構 田中亨・後藤佳恩>



スポーツ情報マスメディア学科就職情報

スポーツ情報マスメディア学科を、この3月に卒業する学生が、それぞれ4年間の学びを経て、夢をかなえることができました。

今回はそのうちの2人、マスメディアモデルの納代真奈さん（三陸河北新報社・内定）、情報戦略モデルの中釜智哉さん（V1リーグ所属 大分三好ヴァイセアドラーアナリスト・内定）を紹介します。

ーマスメディアモデルー

納代 真奈さん（三陸河北新報社・内定）

「学科に設けられたスポーツ情報サポート研究会で4年間活動してきました。メディア班の一員として部活動や各種イベント取材し伝えてきたことで、多くのことを学びました。本学科は映像機材がきちんと完備されています。高いレベルで『報道』に携われたことは喜びです。就活はマスコミ出身の先生方に折に触れて相談しました。貴重なアドバイスを頂き、進むべき道が徐々に広がっていった感じで、とても感謝しています」



ー情報戦略モデルー

中釜智哉さん（V1リーグ所属 大分三好ヴァイセアドラーアナリスト・内定）

「この度、V.LEAGUE Division1の大分三好ヴァイセアドラーにアナリストとして加入することが決まりました。本学バレー部のアナリストの活動を行いながら、スポーツ情報マスメディア学科の実習の一環として、インターンシップで現場のアナリストの経験を多くできたことが、自分の夢を叶えることにつながりました。日本最高峰のリーグのチームでアナリストができることに感謝し、チームの上位進出に貢献できるように頑張ります。」



○アナリストとは

バレーボールの「ゲーム分析」と呼ばれる活動を中心に行っている人。技術・戦術を分析してコーチや選手に役立つ情報を提供する。他国や他競技ではスカウトマン、スコアラー、statistician(統計学者)、テクニカルコーチなどと呼ばれることがある。

4月からのさらなる活躍を期待しています。

<報告：スポーツ情報マスメディア学科>

国立花山青少年自然の家より、ボランティア学生に対し表彰状が授与されました

2月19日（水）本学A棟2階大会議室にて国立青少年教育振興機構より、ボランティア学生に対して表彰状が手渡されました。これは全国28カ所ある施設で、概ね3年以上の期間にわたりボランティア活動をした学生で他の模範として高く評価されるものに対し、その功績をたたえて表彰状が手渡され、本学からは桑原空さん（体育4年(指導教員：岡田先生)）が対象となっており表彰状が授与されました。桑原空さんは過去2年間にわたり、宮城県をはじめ、福島県、岩手県、北海道の計6施設にて、述べ59日間にわたり活動をしてきました。



写真前列中央左側 桑原空さん（体育4年）

国立花山青少年自然の家の山中和之所長は「子供たちや職員から非常に人気があり、子供たちのお兄さんのような存在としてボランティア活動を行ってくれました」とお話しくださいました。

桑原さんがこのような活動に興味を持ったのは2年次の「スポーツマネジメント実習」で花山青少年自然の家で活動をしたことがきっかけで、それ以降各地でボランティア活動をするようになりました。また、卒業論文もこの活動に絡めたことをテーマに、自身の学びの場としても活用しました。

表彰式の中で桑原さんは、「3年生のころから始めて最初は先輩を見ながら活動をしていました。この経験を社会人になっても生かしていきたいと思います」と話していました。表彰式にご出席された遠藤保雄学長も「子供は自然のなかで触れ合いながら育っていくのが非常に重要。桑原さんにとってこの経験を積んだのは成長の糧になったと思います」とお話しくださり、桑原さんのさらなる成長に期待しました。

<報告：学生支援室>

本学連携：槻木小・東船岡小で「マイナビベガルタ仙台Lサッカー教室」を開催しました



校庭に元気ハツラツな声飛び交ったサッカー教室

柴田町トップアスリート育成事業を受託する本学は2月18日（火）に槻木小学校で、同20日（木）に東船岡小学校でマイナビベガルタ仙台レディースサッカー教室を開催しました。

教室にはマイナビベガルタ仙台レディースより、有町紗央里選手、北原佳奈選手、齋藤直幸コーチ、谷口靖明コーチが参加。ドリブルやパスの練習などを行い、ミニゲームなどを通じサッカーの楽しさを分かりやすく伝えてくれました。

谷口コーチは「今日のサッカー教室をみんなで楽しめたことは非常に大事なことです。これからいろんなことに楽しんでください」と激励。参加した児童からは「プロのサッカー選手と一緒にサッカーができて楽しかった」「サッカーを久しぶりにできてとても嬉しかった」などの感想が寄せられました。

教室の終了後は、多くの児童たちが選手やコーチにサインをおねだりしていました。

<報告：スポーツ健康科学研究実践機構>

バドミントン部：宮城県会長杯団体対抗選手権大会 結果

2月16日（日）塩釜ガス体育館にて第32回宮城県会長杯団体対抗バドミントン選手権大会に出場しました。本大会は、宮城県内の各カテゴリー上位の計12チームが一堂に会して覇を争う大会です（前回優勝1、実業団2、社会人3、大学2、高校2、中学2）。

結果

予選	メンバー
3-0 HIROSE CLUB（社会人2位）	山口将史（体育2年）
2-1 YKK AP 東北（実業団2位）	舘田悠汰（体育2年）
準決勝	本間雄大（体育2年）
2-1 BEER's（前回優勝）	成田行磯（体育1年）
決勝	伴野匠（体育1年）
0-2 東北マークス（実業団1位）	



予選で社会人、実業団のチームに勝利し、準決勝では前回優勝のBeer'sにも快勝。決勝では全日本実業団ベスト8の東北マークスに挑戦し、全力を尽くしましたが0-2で敗れ、準優勝となりました。

日本のトップカテゴリーに位置する東北マークスに挑戦できるこの大会に来年度も出場できるように一年間頑張っています。

その為にも東北学生春季リーグでの優勝を目指し、精進していきます。

これからも応援宜しくお願いします。

<報告：バドミントン部>

令和元年度ハワイ大学アスレティックトレーナー研修 ビギナーコース（通算30回目）実施報告～さらなる発展に向けて～

令和2年2月10日から18日にかけて実施された「令和元年度ハワイ大学アスレティックトレーナー研修ビギナーコース」の報告をいたします。

2003年から続いているハワイ大学での研修も、今回で第30回目。この記念すべき研修には、本学からは1年生7名（女子2名、男子5名）が参加しました。引率者は、朴澤泰治理事長・学事顧問、高橋仁副学長、小勝健司講師、内野洋材助手、佐藤美保広報室長の5名でした。

2/11（研修1日目）

オリエンテーション

この研修のコーディネートをいただいている金岡友樹氏（マッキンリー高校アスレティックトレーナー）の司会進行のもと、オリエンテーションが行われました。本研修に対して初回から多大なご理解とご協力いただいているDr. Murataハワイ大学教育学部学部長の挨拶からスタートし、今回のコース概要やハワイ大学のアスレティックトレーナースタッフの紹介がありました。その後、仙台大学の学生7名の自己紹介が行われましたが、初日ということもあり、それぞれ緊張の面持ちで、慣れない英語を使い頑張って自己紹介をしていたのが印象的でした。



英会話講座

「English is easy!」というフレーズで仙台大学の学生の心をあつという間に解きほぐしていた英会話担当のDon先生、御年86歳。「英語は楽しむもの、失敗は恥ずかしいことではないから、まずは口に出そう」という独特のリズムとテンションで学生に多くの質問を投げかけます。学生の頭のモードは徐々に「English is easy!」へ。



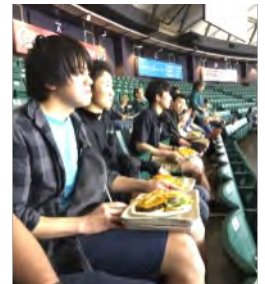
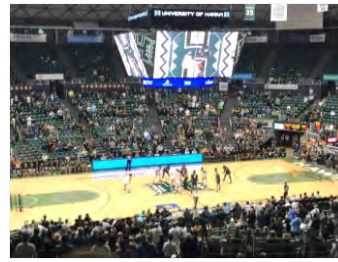
マッキンリー高校実習②

この日は、マッキンリー高校男子バスケット部のハワイ州2部リーグのプレイオフがあり、その準備の手伝いをさせてもらいました。平日夕方の開催にも関わらず、多くの方が観戦しに来ていて、ローカルTVの放送や高校関係者により運営されていることなど、いかにスポーツがハワイの地域社会に文化として根付いているかを実感することができました。



ハワイ大学男子バスケットボール 試合観戦 (vs Long Beach State)

夜は、ハワイ大学STAN SHERIFF CENTERにて、Long Beach Stateとの試合を観戦しました。アメリカの大学スポーツの人気を肌で実感した様子の学生たち。試合結果は、49対50で惜しくもハワイ大学の敗戦となりましたが、シーズンゲームの試合展開に会場は大いに盛り上がっていました。



2/13 (研修3日目)

ワークショップ (大庭先生)

大庭有希也先生（ハワイ大学ATプログラムコーディネーター）とのワークショップ。大庭先生がどのように英語を学んできたかや、MLB（マイナーリーグ）でATとして活躍された体験談をお聞きました。英語を習得するための工夫や心構え、アメリカATの現状を真剣に耳を傾け、学生が自分の将来像を膨らませていることが想像できます。

ATルームの見学と体験

リン ナカガワ ヘッドAT、小山あずみさん（ハワイ大学大学院生）によるATルームの見学と実際に治療機器の体験をさせていただきました。珍しい治療機器を目の前に、めったに出来ない臨床体験を通してATと選手の模擬体験をすることができました。



ハワイ大学女子バスケットボール 試合観戦 (vs CSUN)

この日の夜は、STAN SHERIFF CENTERにて、女子バスケットボールの試合観戦をしました。この試合は接戦での勝利、スポンサーからのプレゼントも何名かの学生が当選し、大変盛り上がりました。



2/14 (研修4日目)

授業見学 (救急処置)

ビギナーコースの最終日は、小山あずみさんの担当する救急処置の授業の見学から始まりました。実際に三角巾やシーネ固定、BLS（一次救命処置）をさせていただき、学生も大きな学びを得たようです。



S&Cエクササイズ体験

STAN SHERIFF CENTER内にある、トレーニング施設でトミー先生によるS&Cのトレーニングプログラムに参加しました。ウォーミングアップからメディシンボール、ダンベルを用いたサーキットエクササイズなどを体験し、トミー先生からの圧倒的なパワーとテンションに引き上げられ、必死にトレーニングに励む学生の様子がとても頼もしく思えました。



クロージングセレモニー

この研修の最後にハワイ大学スタッフと昼食をとりながら、クロージングセレモニーが行われました。Dr. Stickley 学科長から、学生に修了証が手渡され、その後、仙台大学の7名の学生からこの研修の感想や今後の抱負を英語でスピーチしました。この4日間ですっかり英語に対する抵抗も少なくなったせいか、それぞれが積極的なスピーチを行っていました。現在、ハワイ大学修士課程の本学AT部の先輩でもある村上泰司君のスピーチもあり、学生からは先輩への憧れの強い眼差しとともに、自分の目標を再確認しているように感じました。



最後に

今回は、2003年から続くハワイ大学との30回目となる節目のAT研修でした。長きにわたりハワイ大学との連携が継続的に実現できていることは、Dr. Murata ハワイ大学教育学部学部長と朴澤泰治理事長・学事顧問との堅い信頼関係だけでなく、ハワイ大学の教員スタッフの研修プログラムに対する温かな受け入れやご協力とご支援の上に成り立っているものであり、改めて感謝の意をお伝えしたいと思います。

今回が初の海外渡航となる学生も多く、大きな不安とともにスタートした研修であったと思いますが、ハワイ大学で働く日本人教員や、学生として勉学に励んでいる本学の卒業生や多くの日本人留学生の姿に、大きな刺激と希望と勇気をもらうことが出来たのではないのでしょうか。アスレティックトレーナーに限らず、これからの社会において英語の力は必要となります。本研修が、学生にとってその気づきとなり、英会話の継続的学習のきっかけとなることを期待したいと思います。

研修の中で学生だけでなく、引率に当たった我々自身も、学生への指導方法をはじめとして学ぶことが多くありました。Dr. Murata 学部長を中心としてハワイ大学の教員たちは、学生たちの「チャレンジ」を積極的に評価しており、そのことが学生たちの意欲向上につながっていると感じられました。我々の今後の指導に生かしていきたいと考えています。

さらに、本研修が大学関係者のみならず現地の多くの人々に支えられてこれまで継続してきたことも、改めて感じられたところです。その点において、研修を実現するための環境整備や広報等を担当する職員の役割も大きく、今後の本研修の一層の充実に向けて各担当者間でより緊密な連携をとっていくことが重要だと思います。今回の研修スケジュールが最終的に決まったのが、出発する数日前のことでした。研修内容を更に効果的かつ充実させるために、互いにコミュニケーションを密にとり、事前の打ち合わせをスムーズに進行することが課題と感じました。今後については、本学におけるハワイ大学との遠隔授業プログラムを充実させることにより、双方向における教育プログラムやATに関わる情報交換、人的交流の促進を図ることが望まれます。更に、今回の研修を通して海外での活躍を夢見る学生に対して、またATを目指す学生に対するフォローアップ体制の構築と既存プログラムの改善が検討課題として挙げられます。

<報告：小勝健司 講師 >

韓国国立体育大学校に遠藤学長が訪問

令和2年2月11日(火)に遠藤保雄学長、金賢植准教授、馬佳濠准教授が韓国国立体育大学に訪問し、昨年就任した安 ヨンギュ総長をはじめ、テコンドー学科の学科長の李 ジェボン教授(アジア・テコンドー・協会レフ委員長)、朴 ホクン国際センター長に暖かく歓迎して頂きました。

韓国国立体育大学と本学は、国際交流協定を平成20年3月18日に締結し、様々な運動部の練習および授業・研究の交流を活発に行っています。

今回、遠藤学長と安総長は、両大学の交流がより一層発展するため、テコンドー授業の充実化、研究交流の具体化について意見交換を行いました。

特に、柔道、剣道、テコンドー(跆拳道)の競技特性は、競技力を競うのみならず「道」を追求し、人間力を養うという共通の目的を有しており、テコンドーの本質を本学の学生に理解していただくために「形」にも力を入れること、実技指導に加え、テコンドーに関する講義も行うことにより、広範な学習の機会を提供することとしました。なお、教員間の授業や研究の協力についての必要性を双方で再度、確認し、今後、対応を検討していくこととなりました。

<報告：金 賢植 准教授>



令和元年度 介護実習・社会福祉援助技術現場実習 教育懇談会を開催しました

2月14日（金）仙台ガーデンパレスにおいて、「令和元年度 介護実習・社会福祉援助技術現場実習 教育懇談会」を開催しました。

この教育懇談会は、介護福祉士養成のための介護実習と社会福祉士養成のための社会福祉援助技術現場実習の実習施設指導者へ、今年度の介護実習と社会福祉援助技術現場実習の実習結果、学生の学びについて報告し、次年度の実習計画について提案させていただきながら、施設実習指導者より実習についてのご意見を伺い、次年度の実習についてご理解とご協力をいただくことを目的としています。

16施設の実習指導者にご参加いただき、令和元年度の実習報告ならびに令和2年度実習計画の報告後、今年度は、介護福祉士養成カリキュラムの改訂や、社会福祉士の養成カリキュラムの見直し案についての情報提供を行いました。

その後、「実習指導において工夫していることや心がけていること、課題について」というテーマで、教員と実習指導者とで意見交換を行いました。実習生の状況や施設の指導体制、大学側の教育体制、今後の課題などについて意見交換ができ、実習指導者と教員の連携が重要であるという共通理解がさらに深まりました。また、介護現場での介護人材の不足や外国人労働者の雇用の現状など、昨今の介護・福祉を取り巻く情勢などについてもふれることができ、大変有意義な会となりました。

カリキュラムの見直しもあり、これからさらに調整が求められる部分もありますが、今後よりよい実習へとつながられるよう、学内の教育体制の整備や、施設側との連携の強化に努めてまいりたいと思います。

< 報告：健康福祉学科 >



芝草通信 NO. 11

担当：体育施設管理コンサルタント 小島文雄

3月の芝生管理（暖地型芝生と寒地型芝生）について

この時期の維持管理は基本的には1月2月と同様です。

* 自宅などの芝生の参考にもしてください。

1. 噴水まわりの天然芝生の維持管理（暖地型日本芝生）

- ① 刈り込み、② 水やり、③ 肥料、④ 病虫害防除は行いません。
- ⑤ 草取り：越冬雑草が成長し始めます。芝草の萌芽を助けるために有効です。

2. 第二グラウンド天然芝生ラグビー・アメリカンフットボール場の維持管理（寒地型洋芝＋ 暖地型洋芝）

1月～2月と同様に白っぽい休眠中の芝に緑色の寒地型芝生が混じり、ぶち模様を呈しています。

- ① 刈り込み：下旬に施肥の後成長を観察しながら1回行います。
 - ② 水やり：施肥の後に行います。但し寒地型洋芝には乾燥が続くときは散水が必要になります。
 - ③ 肥料：気温の上昇を観察しながら化成肥料（N-P-K＝10-10-10）を1m²当たり20g施します。
- 病虫害防除は必要ありません。



写真1. ラグビー場 【全景】
白っぽい休眠中の暖地型芝草
（バミューダグラス）
＋
緑色の寒地型芝草
（ペレニアルライグラス）



写真2. センターの裸地が多い部分【近景】
夜間養生シートで覆い寒風から保護し、
地温を高くして成長を促進している。
右側の黒いシートを剥がし昼間は風通しを
良くしている。まわりと比較すると寒地型
芝生の成長の促進がはっきりと判別出来る。



写真3. 養生シートで保護された裸地部分 【接写】

まわりの芝草よりはっきりと緑度が高く成長が認められる。
株化している芝草は学生の実習でポットに播種し育てた苗を拉致部分に実習で移植した（根毛が成長しているので強い）
ペン先に見られるうぶ毛模様の芝草はこの場所で播種した寒地型芝草
（シートで養生されているので寒いこの時期でも発芽する）

注記：維持管理資材として、全面被覆できる面積の養生シートが有れば、Jリーグで使用される競技場のような、冬季でも緑度が高められる維持管理が実現できる。

（3月1日記）

川平キャンパスAT・S&Cレポート

「高校スポーツの安全を守る」Vol.23

担当：小野勇太 助手

川平アスレティックトレーニングルーム(川平ATR)では、高校生へのアスレティックトレーニングサポートのみならず、仙台大学アスレティックトレーニング領域の大学生への実習先としての機能も持っており、令和2年2月時点で、昨年の6倍近くの実習生が川平ATRにて実習を積み、学習に励んでいます。中でも、上級生である学生においては、高校生への指導もしっかりと行うことができます。（写真①）対象者への言葉遣い、説明力、実技の実践力、効果についても、十分にスポーツ現場で通用するレベルにまで知識と技能を積んでいる実習生も出てきています。指導を受けた高校生も、普段の我々（教員AT）の指導と違った新鮮な印象と、的確な指導、そして効果の実践を受けて、大学生への尊敬の念を抱いているようでした。明成高校が仙台大学附属高校化にあたり、我々AT領域においては、このような高大連携の形を強化し、高校生と大学生が共に学び、成長できる環境づくりを整備していくことが重要かと思います。私達、川平ATRにおいては、その一部を担えると思いますので、今後も引き続き大学生へのAT実習先としての機能を更に充実させていこうと思います。

また、明成高校健康スポーツコース(1年、2年生)への令和元年度のAT・S&Cによる授業が終了致しました。今年で3年目になる高校生への試みですが、講師を務める我々も、対象者である高校生へいかにして、AT領域やS&C領域の視点から、より普段のスポーツ活動へ活かし、高校生たちへの有益な授業となりうるかを、毎回追求しております。授業終了後のアンケートから、例年以上に授業満足度及び、ATやS&C領域への関心を持つことができたと答える高校生が増加傾向にあり、そのような学生が本学へ進学して、実習生として戻ってくるというような好循環が生まれると更なる発展へ繋がるのではないかと思います。来年度は、明成高校新学科がスタートします。我々AT・S&C領域によるサポートも引き続き継続していく予定となっておりますので、これまでの実績を次へ繋ぎ、益々の発展と成長へ突き進もうと思います。



①指導を受ける高校生(手前)、指導する大学生



②明成高校健康スポーツコース体育AT授業

Monthly Report

白石市と包括連携協定を締結しました



写真左から白石市の菊地正昭副市長、山田裕一市長、本学の遠藤保雄学長、朴澤泰治理事長・学事顧問

3月10日(火)、本学は白石市と包括連携協定を締結しました。

白石市役所で協定締結式が行われ、本学からは、朴澤泰治理事長・学事顧問、遠藤保雄学長、高橋仁副学長、渡邊一郎事務局長が、白石市からは、山田裕一市長、菊地正昭副市長、山家英男総務部長、庄司昭利保健福祉部長、高橋ひろみ健康推進課長が出席されました。

本学と白石市は、柴田町とともに「白石市・柴田町・仙台大学東京オリンピック・パラリンピック事前合宿推進協議会」を組織し、東京2020オリンピック・パラリンピックに出場予定のベラルーシ新体操ナショナルチームを連携して支援するなど良好な関係を築いております。今回の包括連携協定締結を機に、さらに多方面にわたる連携強化を図り、地域の抱える課題解決にともに取り組み、一層の地域活性化に協力をして参ります。

新年度からの連携事業として、白石市内の企業の従業員等を対象とした「働き世代から始める健康づくり推進事業」の検討をすでに始めており、これは働き盛りの現役世代が早い段階から正しい生活習慣と運動習慣を身に付けることによって、将来の生活習慣病を予防しようというものです。この他にも、東京2020オリンピック・パラリンピック終了後のベラルーシ共和国との継続的な相互交流の発展、地域住民の健康づくり・健康増進、スポーツ振興・体力向上など、仙台大学がこれまでに培ってきた経験と知見を活かしながら、地域貢献活動を推進して参ります。また、大学として、これら地域貢献活動をととした研究とその成果の積み上げにも努めて参ります。

<報告：スポーツ健康科学研究実践機構事務局>

<目次>

・白石市と包括連携協定を締結しました	1
・仙台大学第50回体育学部卒業証書・学位記授与式並びに第21回大学院学位記授与式の中止について ・令和元年度カリフォルニア州立大学ロングビーチ校短期留学 日米スポーツ科学事情比較セミナー報告	2
・WEB研究発表会を開催しました／バドミントン研究室 ・県内で一足早い本学の桜が開花しました	3
・芝草通信 NO. 12	4
・「高校スポーツの安全を守る」Vol. 24 ・令和2年度 仙台大学第54回体育学部並びに第23回大学院入学式の延期について	5

学生の活躍や、取り組みなどをご存知でしたら広報室までお寄せください。

Monthly Reportで紹介する他、報道機関にも旬な話題を提供して参ります。

本誌へのご意見・ご質問等がありましたら広報室までご一報ください。

仙台大学 広報室

直通 0224 - 55 - 1802

Email kouhou@sendai-u.ac.jp

仙台大学第50回体育学部卒業証書・学位記授与式並びに 第21回大学院学位記授与式の中止について

仙台大学は、新型コロナウイルス（COVID-19）の影響拡大に伴い、学内外を問わず学内行事に関係するすべての皆様の健康面、安全面に留意し、また、感染リスクを回避するため、3月14日予定していましたが令和元年度卒業式を中止することといたしました。

この卒業式を心待ちにされていた卒業生及びご家族の皆様のご心中を拝察しますと断腸の思いではありますが、万一の感染のリスクをなくし、更に、卒業生の皆さんが4月からの新生活に支障なく臨めるよう、苦渋の決断を致しました。今回の判断を何卒ご理解賜りますようお願い申し上げます。

令和2年2月28日 仙台大学 学長 遠藤 保雄

令和元年度カリフォルニア州立大学ロングビーチ校短期留学 日米スポーツ科学事情比較セミナー報告

2月9日から2月23日（現地研修期間2月10日から2月21日）に、令和元年度カリフォルニア州立大学ロングビーチ校（CSULB）における短期留学「日米スポーツ科学事情比較セミナー」が実施されました。参加者は体育学科より、傳法卓巳（3年）、桜井溜斗（3年）、金田楓佳（2年）、綱木愛花（2年）、田中嵩大（1年）、塩路真海（1年）の6名、運動栄養学科より、山村風月（2年）1名参加で、計7名という構成でした。教員は、前半を山田恵子、後半に interchangeable 形で久保佳子助教が引率しました。

この研修は、「スポーツ科学」というテーマで展開しているため、スポーツに関連する様々な分野の講義が組込まれています。今回は事前に各自の専門分野をまとめ、学生同士で情報共有してからプログラムに臨みました。それもあってか学生は、どの分野の講義にも意欲的に参加していました。講義は、基本的に英語で進行し通訳を介して説明されるため、最初は戸惑いも見られましたが、2週目に行われた『The Role of Coaches in the US』の授業では、綱木さんや塩路君が直接先生に英語で質問し、英語で回答してもらう場面があるなど、積極的に参加している様子が見られました。

約2週間のプログラムには、講義以外に施設見学やスポーツ観戦も含まれています。その中に、メジャーリーグのLos Angeles AngelsのホームAngel Stadium of Anaheimの施設見学がありました。残念ながら選手たちには会えませんが、選手控室や実際に大谷選手の入団会見が行われた記者会見場などの見学ができ、学生達は目を輝かせながら説明を受けていました。またその日はHonda Centerに行き、アイスホッケーの試合観戦でした。白熱した戦いは、映像で見るより遥かに迫力があつたことに加え、試合以外にも観客を引き付ける演出がたくさんあり、学生達はアメリカのスポーツ楽しみの方について体感できたのではないかと思います。

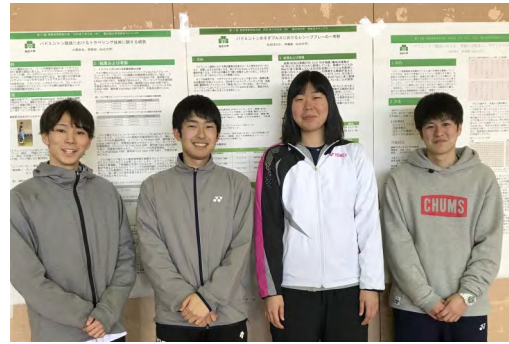
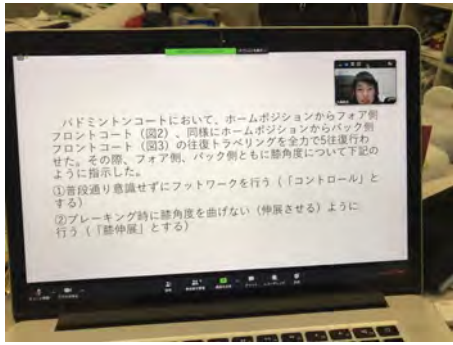
CSULBの学生や職員の方との交流の時間では、今回のグループは、けん玉や習字などの日本文化を紹介していました。中でもCSULBの学生には習字が人気で、筆の使い方や書き順など見本を見せながら英語で丁寧に教えていました。他に、本プログラムの魅力の一つに、ホームステイもあります。ホストファミリーとは、勿論、通訳なしでコミュニケーションが必要です。試行錯誤しながらも自分たちの意志を説明し、講義以外も楽しく過ごしていた印象を受けました。

傳法君は、「様々な場面で、アメリカの人の考えや言動に心を動かされました。多くのことを学ぶことができ、とてもいい短期留学ができました。」との感想を述べています。他にも、「将来は海外で働きたい」「新たな分野に興味を湧いた」などの意見があり、参加学生はよい刺激を受けたようです。

最後に、本年度も準備から約2週間のプログラムを無事に終了できたことを関係者の皆様に感謝申し上げますとともに、来年度以降もより質の高いプログラムにできるよう、ご協力頂ければ幸いです。



WEB研究発表会を開催しました／バドミントン研究室



新型コロナウイルスの影響で様々なイベントが中止・延期となる中、私たちが研究発表する予定であった学会も中止となりました。そこで、今できることを形にするため、3月6日（金）に発表する予定だった学生がWEB研究発表会を開催しました。

インターネット上のクラウドにミーティングルームを設置し、このルーム内に視聴者をお招きして研究発表を行いました。目の前に聴衆がいらないというシチュエーションは学生達にとっても初めての経験であり、戸惑いを感じながらも精一杯発表し、発表後はやりきったという満足感の笑顔に包まれました。

東北における体育・スポーツの研究拠点として、今後も挑戦と継続をモットーに研究成果の発信を心掛けていきます。

発表者：

松田 ほのか（体育学科4年）

「バドミントン女子ダブルスにおけるレシーブプレーに関する一考察」

大森 悦生（体育学科4年）

「バドミントン競技におけるトラベリング技術に関する研究」－膝角度とフットワーク時間に関する検証－

清野 祐介（健康福祉学科4年）

「バドミントン・男子シングルスにおける失点ケースからの戦術戦略分析」－世界ランキング1位・桃田賢斗選手のゲーム分析－

須田 翔太（スポーツ情報マスメディア学科1年）

「バドミントン競技における情報の活用方法と、アナリストの必要性」

<林研究室・バドミントン部>

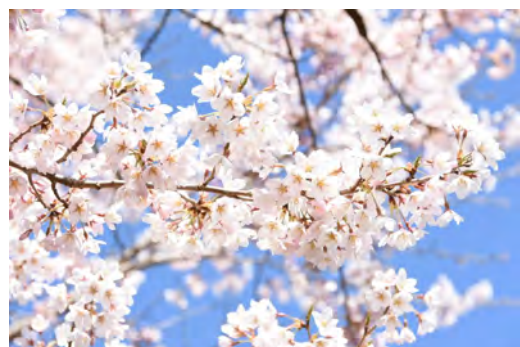
県内で一足早い本学の桜が開花しました

樹齢50年以上となる本学の桜は、冬季の蔵王おろしを建物が遮り、さらに日当たりも良いことから、宮城県内での開花宣言の前にどこよりも早く満開になります。（エドヒガンの変種）

今年は昨年より4日早い、3月18日（水）に開花し、一足早い春のおとずれとなりました。



5輪程度開花（18日10:00時点）



見頃を迎えた本学の桜（25日12:00時点）

芝草通信 NO. 12

担当：体育施設管理コンサルタント 小島文雄

4月の芝生管理（暖地型芝生と寒地型芝生）について

この時期の維持管理は新葉が伸び始め、生育の最盛期を迎えるための準備期です。

*自宅などの芝生の参考にもしてください。

1. 噴水まわりの天然芝生の維持管理（暖地型日本芝生）

- ① 刈り込み、② 水やり、③ 病虫害防除は行いません。④ 雑草刈り込み：芝生の刈高より上げて、背の高い雑草を刈り込みます。【参考、写真1】、⑤ 草取り：越冬雑草の成長に負けないように頻繁に抜根します。【参考、写真2】、⑥ サッチ除去：家庭など小規模では、鉄製レーキを使用して刈屑などを取り除きます。【参考、写真3】、⑦ 目砂入れ：芝生の凹凸がわかるこの時期が適期です。【参考、写真4】、⑧ シバ張り・張り替え・補修は適期です。⑨ 肥料：化成肥料(N-P-K=10-10-10)を1m²当たり20g程度施します。



写真1. 噴水周り芝生 【接写】
背の高い雑草が開花している。種子が生育する前に草刈りを頻繁に行えば自然淘汰される。



写真2. 雑草除根作業3態 【近景】
地際に背を低くして育つスズメノカタビラ（緑色をしているので識別が良くわかる）
左から順に
1. 根元にホークを差し込む
2. テコの原理でホークを起こす
3. 取り上げた状態



写真3. スーパー機械によるサッチ除去 【遠景】
サッチ：芝生の下層部と土壌表面との間に芝草の遺体や活力の衰えた部分、刈屑などが密に混じった堆積物。病虫害の多発など有害な作用が起こる。



写真4. 芝生の凹凸に目砂刷り込み 【近景】
萌芽期のこの時期が最適です。

2. 第二グラウンド天然芝生ラグビー・アメリカンフットボール場の維持管理（寒地型洋芝＋ 暖地型洋芝）

白っぽい休眠中の暖地型芝から緑色の寒地型芝生が分けつしたり、匍匐茎を周辺に伸ばしたりして成長し始めます。

- ① 刈り込み：寒地型芝生が生育し始めたら10日に一度くらい行います。
② 水やり：施肥の後に行います。但し寒地型洋芝には乾燥が続くときは散水が必要になります。
③ 肥料：気温の上昇を観察しながら化成肥料（N-P-K=10-10-10）を1m²当たり20g施します。
④ 病虫害防除は必要ありません。

冬季に損傷した芝草の補充のために寒地型芝草の播種作業を以下の通り予定している。

全面を4分割してトールフェスク2種類、ペレニアルライグラス2種類を播種する。養生期間は3週間必要。

- ① サッチ除去A：バーチカルカット機械により深さ2～5cm位に切り込みを入れてサッチを浮き上がらせる。
② サッチ除去B：スーパー機械により浮き上がったサッチを除去する。
③ 播種作業：専用シーダー機械により均一に播種する。
④ 目砂散布：専用砂散布機械により均一に散布する。
⑤ 転圧：軽いローラーにより目砂の不陸整正と刷り込みを行う。
⑥ 水やり：種の発芽促進のためにほぼ毎日行う。
⑦ 施肥：生育促進のために化成肥料を20g/m²程度散布する。

(3月30日記)

「高校スポーツの安全を守る」Vol. 24

担当：浅野 勝成 助手

コロナウイルスの感染拡大が猛威を振るっている今日この頃、免疫を高めることが感染を予防する一つの鍵となります。そこで今回は、ストレングス&コンディショニングの観点から、運動と免疫に関することについて書いていきます。

【“適度な”運動は免疫力を高める一つの方法】

“適度な”運動はナチュラルキラー（NK）細胞の増加に貢献します（McArdle, 2007）。NK細胞とはその名の通り殺傷能を持つリンパ球で、がん細胞やウイルス細胞を見つけ次第攻撃する特性があり、身体の防衛機能である自然免疫に重要な役割を担うものと考えられています。一方で、激しい高強度の運動は免疫機能を一時的に低下させてしまうことが示唆されています。高強度運動後は免疫機能が安静時よりも低下してしまう現象が見られ、このタイミングだと感染のリスクが高まります。これをオープンウィンドウ説と言います（Pedersen, 1994）。

【高強度運動後に免疫機能が低下する理由】

高強度運動の実施は身体に大きなストレスを与えます。その応答反応として身体はコルチゾールなどのストレス関連ホルモンを分泌します。コルチゾールの分泌は一時的なNK細胞やT・B細胞（免疫機能を保つ役割を持つ細胞）の機能を抑制してしまい、免疫機能の低下を招きます。しかしながら、強度の基準は個人差によってバラつきがあり、免疫機能を著しく低下させてしまう可能性がある運動種目や強度を明確に示された指標は限られているのが現状のため、筋力トレーニングと持久系トレーニング（ランニング）の違いが及ぼすコルチゾール分泌の急性の効果を調べることにしました。

【筋力トレーニングがコルチゾール分泌に及ぼす影響】

高強度運動の代表格と言っても過言ではない筋力トレーニングですが、免疫機能にどのような影響を及ぼすのでしょうか。興味深い事に、コルチゾールの分泌量は血中乳酸と運動後24時間以内の血中クレアチンキナーゼ（筋ダメージの指標）との間で有意な相関性が示されています（Kraemer, 1989; Kraemer, 1993）。つまり、乳酸が上昇するような代謝的に厳しいプロトコル（高回数、中～高強度、短い休息时间）は急性のコルチゾール分泌量を大幅に増加させてしまう可能性があります（Kraemer, 2003）。実際にKraemerらは、10RM（Repetition maximum＝最大拳上重量値：この場合は10回ギリギリ拳上できる重量）のレッグプレスを行わせ、セット間休息を1分間のグループと3分間のグループの2つに分類した所、1分間のグループのコルチゾール分泌量が3分間のグループよりも有意に高かったことを報告しており、高回数、中強度、そして短い休息时间のプロトコルはコルチゾールの増加を助長することが示唆されています（Kraemer, 1996）。

【持久系運動（ランニング）がコルチゾール分泌に及ぼす影響】

筋力トレーニング同様、代謝的に厳しい高強度のプロトコル（限界に近い走速度で数十秒～数分間の走行など）はコルチゾールの分泌量が上昇することが示されています（Popovic, 2019）。また、高強度ほどではないにしろ、 $>60\%V_{O_{2max}}$ の走速度でもコルチゾールの有意な上昇が見られるようです（Hackney, 2012）。

【トレーニング歴】

トレーニング歴の違いがコルチゾール分泌量に影響を与えることも示唆されています。普段から運動習慣のある人とならない人が同程度の運動を行った場合、運動習慣のない人のストレス応答（コルチゾール分泌など）が大きかったようです（Hackney, 2006）。運動強度や量は個人によって適度なものを考慮すべきでしょう。従って、いつもの運動を継続する分には支障はないですが、急激に強度を上げることは避けた方が良いかもしれません。

【免疫機能の観点から考えるトレーニング処方】

免疫機能の観点からみると、高強度運動の実施は得策ではないかと思います。コロナウイルスへの慣れや自粛疲れにより、運動などでリフレッシュを行いたいという人は多いかもしれません。しかしながら、いきなり高負荷の筋トレをガンガンやったり、ダッシュを何本も繰り返したりするのは感染リスクを上昇してしまうかもしれません。それならば、ウォーキングや軽めの自体重などの筋トレで“適度な”運動から始めていく方が、免疫機能の観点からは良いかもしれません。不要不急の外出に加えて、不要不急の高強度運動も控えた方が良いかもしれません。

【留意点】

不特定多数の人が運動を行うトレーニングルームでは日々の清掃・消毒が必要となるため、川平ATルームでは器具やドア等のアルコール消毒を毎朝行っています。しかしながら、ウイルスは目に見えない厄介者であるため、管理側だけが衛生管理に気を配っているだけでは意味がなく、利用者側も衛生管理に留意すべきでもあります。トレーニング前後での手洗い・うがい、そしてアルコール消毒を徹底する必要がある、特にトレーニング後のプロテインを飲む前にうがい・手洗い、飲んだ後のシェイカーをお湯でしっかり洗うことが必要となってきます。目に見えない敵に対応するのはとても労力の要することですが、今後のリスク管理の徹底と管理疲れに陥らないようスタッフ間でのマネジメントに努めていきたいと思います。

【参考文献】

1. McArdle WD, Katch FI, and Katch VL (2007) *Exercise Physiology 6th edition*. Maryland. Lippincott Williams & Wilkins.
2. Pedersen BK and Ullum H (1994) NK cell response to physical activity: possible mechanisms of action. *Med Sci Sports Exerc*, 26(2):140-6.
3. Kraemer WJ, Fleck SJ, Callister R, et al (1989) Training responses of plasma beta-endorphin, adrenocorticotropin, and cortisol. *Med Sci Sports Exerc*, 21(2): 146-53.
4. Kraemer WJ, Fleck SJ, Dziados JE, et al (1993) Changes in hormonal concentrations after different heavy-resistance exercise in women. *J Appl Physiol*, 75(2)594-604.
5. Kreamer WJ, Hakkinen K, Tripplett-McBride NT, et al (2003) Physiological changes with periodized resistance training in women tennis players. *Med Sci Sports Exerc*, 35:157-168.
6. Kraemer WJ, Clemson A, Tripplett NT, et al (1996) The effects of plasma cortisol evaluation on total and differential leukocyte counts in response to heavy-resistance exercise. *Eur J Appl Physiol*, 73(1-2):93-97.
7. Popovic B, Popovic D, Macut D, et al (2019) Acute response to endurance exercise stress: focus on catabolic /anabolic interplay between cortisol, testosterone, and sex hormone binding globulin in professional athletes. *J Med Biochem*, 38(1): 6-12.
8. Hackney AC, Hosick K, Myer A, et al (2012) Testosterone responses to intensive interval versus steady-state endurance exercise. *J Endocrinol Invest*, 35(11): 947-50.
9. Hackney AC (2006) Stress and the neuroendocrine system: the role of exercise as a stressor and modifier of stress. *Expert Rev Endocrinol Metab*, 1: 783-792.

令和2年度 仙台大学第54回体育学部並びに第23回大学院入学式の延期について

今般の国内外における新型コロナウイルスの感染拡大の状況を鑑み、4月3日（金）に予定されていた「令和2年度仙台大学第54回体育学部並びに第23回大学院入学式」を4月20日（月）に延期して挙行することに変更しました。

また入学式の実施形態につきましても、当初の予定していたものを変更し、参列者を新入生及び本学関係者のみとし、学生等の一か所への集中を避けるため、学科ごとに会場を分けて実施する予定です。このため、大変残念ですが、保護者の皆様、来賓の皆様のご臨席についてはご遠慮いただくこととしました。この点につきましては、是非ご理解を賜りたいと思います。

詳細については本学HPをご覧ください。

訃報

3月16日に大学院研究科長の藤井久雄氏をご逝去されました。藤井氏は平成7年から健康福祉学科の教員として赴任され、以来、平成22年に運動栄養学科長、平成26年には大学院研究科長として本学の発展に大きくご貢献いただきました。心よりご冥福をお祈りいたします。